



第4次伊勢原市食育推進計画 中間評価報告書

令和8年3月 伊勢原市

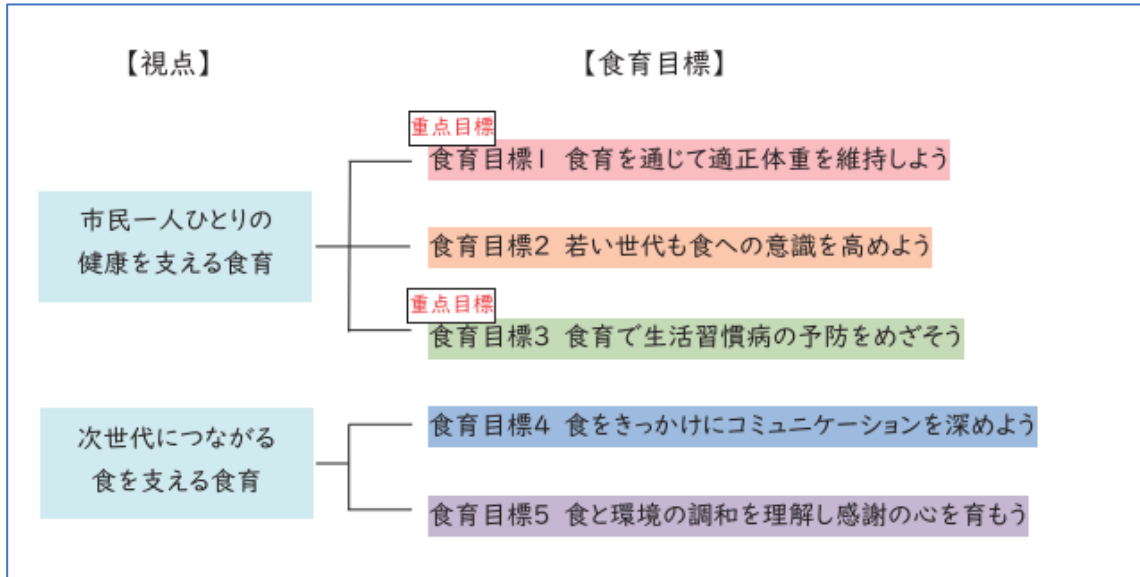
目 次

1 第4次伊勢原市食育推進計画中間評価について	
(1) 中間評価の目的	1
(2) 中間評価の方法	3
(3) 中間評価のための食育調査の概要	3
2 中間評価結果一覧	
(1) 中間評価結果	4
(2) 中間評価における目標値・達成度割合	5
3 食育目標の基本施策別中間評価	
食育目標1 食育を通じて適正体重を維持しよう	7
食育目標2 若い世代も食への意識を高めよう	18
食育目標3 食育で生活習慣病の予防をめざそう	24
食育目標4 食をきっかけにコミュニケーションを深めよう	31
食育目標5 食と環境の調和を理解し感謝の心を育もう	40
4 まとめ	
(1) 中間評価を踏まえた強化取組	48
5 資料	
(1) 第4次伊勢原市食育推進計画(前期)目標・基本施策別 事業計画・事業評価一覧	49
(2) 令和6年度伊勢原市民の食育に関する意識調査 単純集計結果	50
(3) 令和6年度伊勢原市民の食育に関する意識調査 参考資料	61
(4) 高校生への食育調査結果	82
(5) 大学生への食育調査結果	87
(6) 計画策定・評価の協議機関	91
(7) 国 第4次食育推進基本計画進捗状況	92

1. 第4次伊勢原市食育推進計画中間評価について

(1) 中間評価の目的

伊勢原市においては、令和5年3月に第4次伊勢原市食育推進計画を策定し、令和5年度より食育を推進してきました。「食で育み未来につなげる いのちときずな」を基本理念に、次の5つの食育目標を掲げ、関係機関・団体等と連携しながら食育を推進する活動を展開しています。



令和5年度から令和9年度の5年間を計画期間とする中、中間年の目標値の達成度、取組の進捗状況进行评估し、社会情勢の変化、他の関連する計画との整合性を図りながら、計画期間後半の取組の方向性を確認・見直しをすることを目的に中間評価を行いました。

【計画の期間】

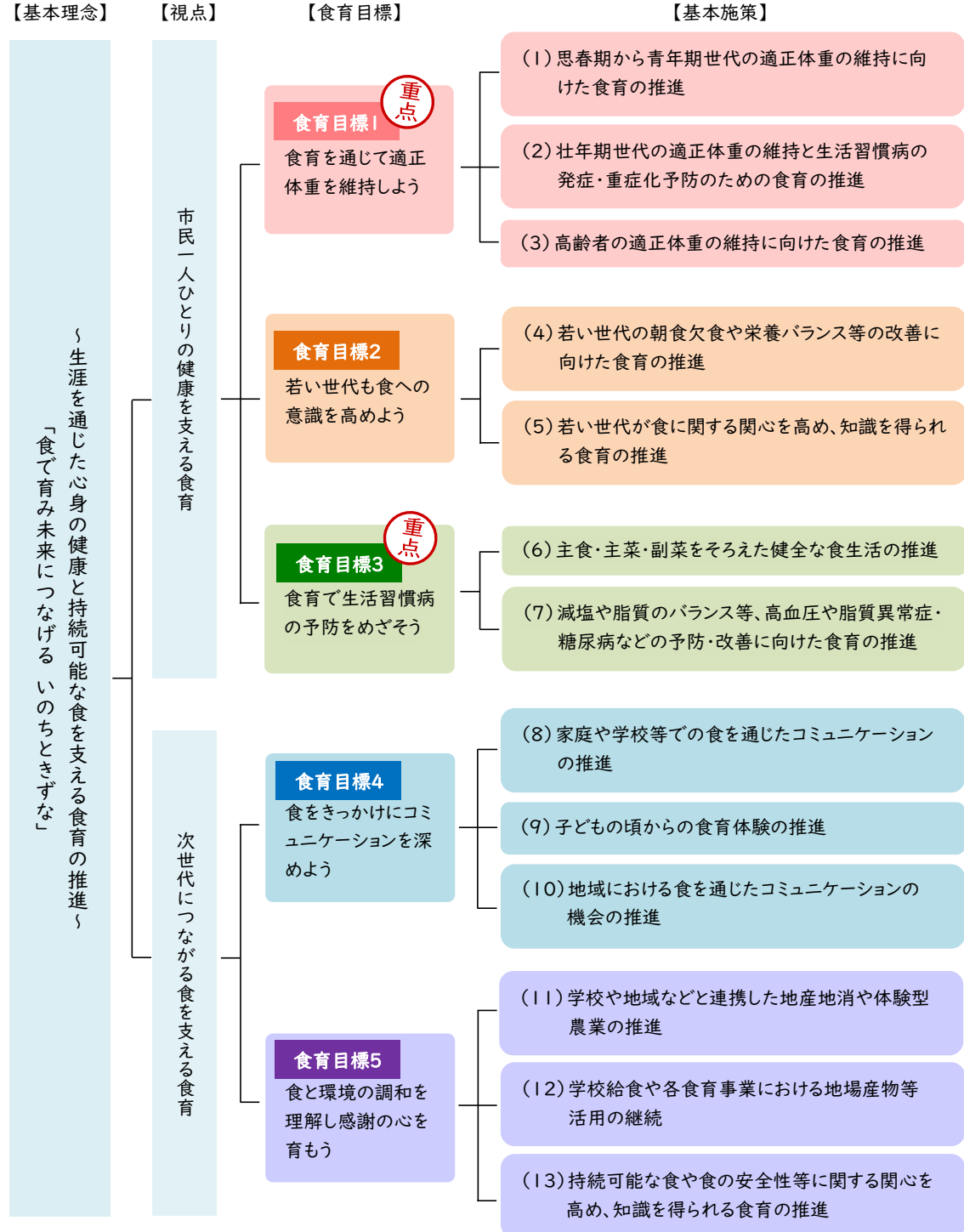
平成	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	令和	元	2	3	4	5	6	7	8	9
	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度	年度
	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	
							中間評価					中間評価						中間評価		
	第1次伊勢原市食育推進計画				第2次伊勢原市食育推進計画					第3次伊勢原市食育推進計画					第4次伊勢原市食育推進計画					

【計画の体系】

計画の体系

本市の食育の基本理念や食育目標、これらを実現するための基本施策と目標達成のための指標を体系化すると下図のようになります。

[第4次伊勢原市食育推進計画]



(2) 中間評価の方法

計画の中間評価にあたっては、食育に関する学識経験者や医療・教育機関関係者、保護者代表、民生児童委員、食育推進ボランティア、農業関係者等食育関係機関による「伊勢原市食育推進会議」及び市内の食育関連部署による「市内食育推進連絡会」において審議を行いました。

また、課題やニーズを把握するため、次のとおりアンケート調査を実施し、目標の達成状況等の把握と達成に向けた取組方法について、検討しました。

(3) 中間評価のための食育調査の概要

【調査一覧】

区分	成人	中学生	高校生	大学生
調査対象	20～79歳市民への食育調査	市立中学4校の2年生への食育調査	市内県立高等学校在学の1年生への食育調査	市内私立大学在学学生への食育調査
実施方法	郵送による無作為アンケート調査	タブレットからアンケートフォームで回答	スマートフォンからアンケートフォームで回答	スマートフォンからアンケートフォームで回答
調査期間	R6年10～11月	R6年度内実施	R7年10月	R7年6～7月
回答状況	1527名 (回収率 50.9%)	674名	223名	33名

2. 中間評価結果一覧（★印は、食育目標重点目標に係る指標）

(1) 中間評価結果

◎: 目標を達成した	3指標	18.8%
△: 目標には至らないが現状値より数値が改善した	5指標	31.2%
▼: 現状値より数値が後退した	8指標	50.0%

【評価内訳】

食育目標	番号	第4次伊勢原市食育推進計画における食育目標達成のための指標	R9年度目標値	R3年度	R6年度	評価
食育目標1 (重点目標) 食育を通じて適正体重を維持しよう	①	★20～30歳代女性のやせ(BMI18.5未満)の人の割合	11%以下	17.2%	19.0%	▼
	②	★40～50歳代男性の肥満(BMI25以上)の人の割合	35%以下	38.5%	41.6%	▼
	③	★ゆっくりよくかんで食べる意識がある人の割合	55%以上	49.7%	51.0%	△
	④	★高齢者の低栄養傾向(BMI20以下)の人の割合	17%以下	20.2%	18.4%	△
食育目標2 若い世代も食への意識を高めよう	⑤	20～30歳代の朝食欠食(週に1～2日又はほとんど食べない)する人の割合	15%以下	16.8%	22.5%	▼
	⑥	朝食を毎日食べる中学生の割合	85%以上	80.4%	79.5%	▼
	⑦	食育への関心がある若い世代(20～30歳代)の割合	73%以上	72.0%	77.5%	◎
食育目標3 (重点目標) 食育で生活習慣病の予防をめざそう	⑧	★主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている人の割合	60%以上	58.1%	56.0%	▼
	⑨	★健康のために、「塩分の多いものを控える」を心がけている人の割合	40%以上	37.1%	43.2%	◎
		★健康のために、「あぶらっこいものを控える」を心がけている人の割合	33%以上	29.4%	33.1%	◎
食育目標4 食をきっかけにコミュニケーションを深めよう	⑩	1日に1回も共食をしていない人の割合	17%以下	19.4%	21.7%	▼
	⑪	家で料理の手伝いをしている中学生の割合	46%以上	45.7%	36.4%	▼
	⑫	地域等で過去1年間に共食など、集う機会を持った人の割合	63%以上	21.6%	60.4%	△
食育目標5 食と環境の調和を理解し感謝の心を育もう	⑬	栽培・収穫・農業体験をしたことがある人の割合	70%以上	67.8%	65.8%	▼
	⑭	小学校給食で1年間に地場産野菜を使用する回数	110回以上	102回	107回	△
	⑮	食品ロス削減のために、何らかの行動をしている人の割合	50%以上	38.4%	40.5%	△

(2) 中間評価における目標値・達成度割合

食育目標達成のための指標ごとに、R6年度の中間評価結果を達成度としてグラフ(図1~図3)にし、目標値からの乖離を確認しました。

16の指標の内、半分(50.0%)が目標値から後退していましたが、最も離れている順から、以下の指標の乖離が大きい状況でした。

1:「①20~30歳代女性のやせ(BMI18.5未満)の人の割合(重点目標)」

(図・1)

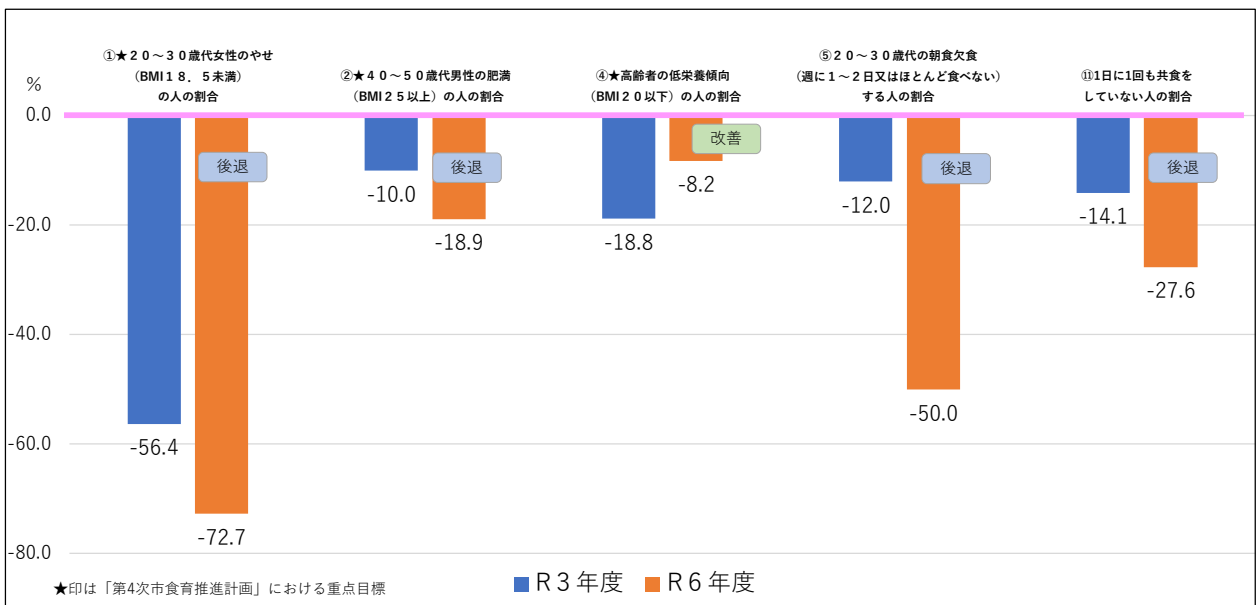
2:「⑤20~30歳代の朝食欠食(週に1~2日又はほとんど食べない)する人の割合」(図・1)

3:「⑪1日に1回も共食をしていない人の割合」(図・1)

4:「⑫家で料理の手伝いをしている中学生の割合」(図・3)

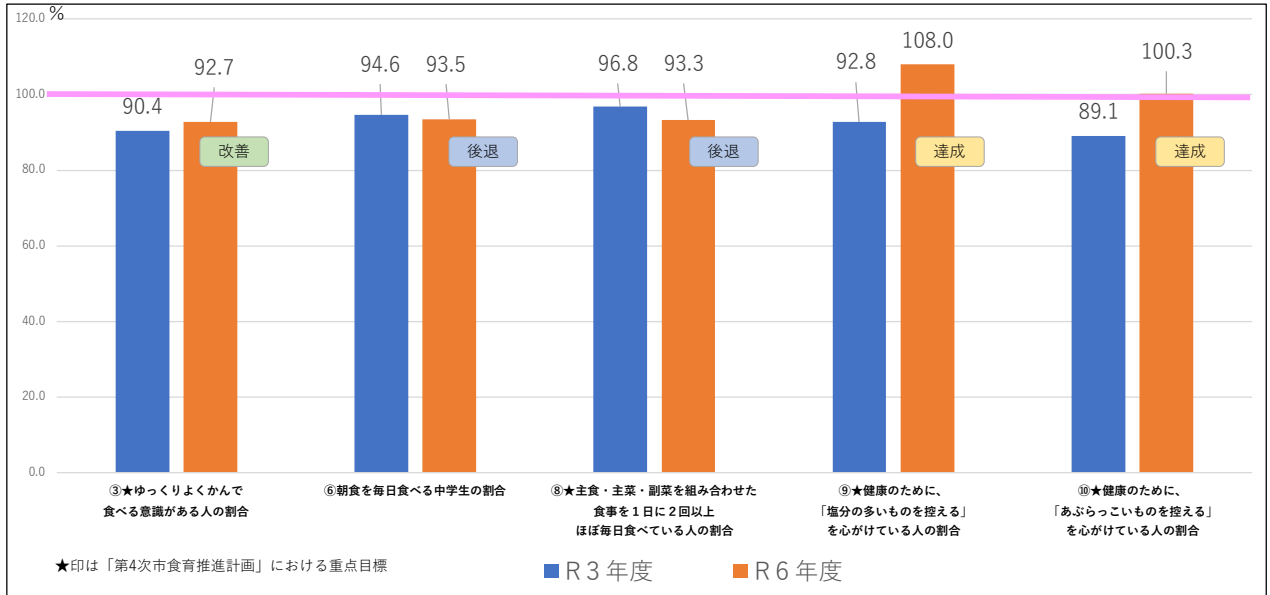
→これら4指標については、関連要因を分析し、さらに対策を強化していく必要があります。

中間評価における目標値 達成度割合 (目標を0%に設定) (図・1)



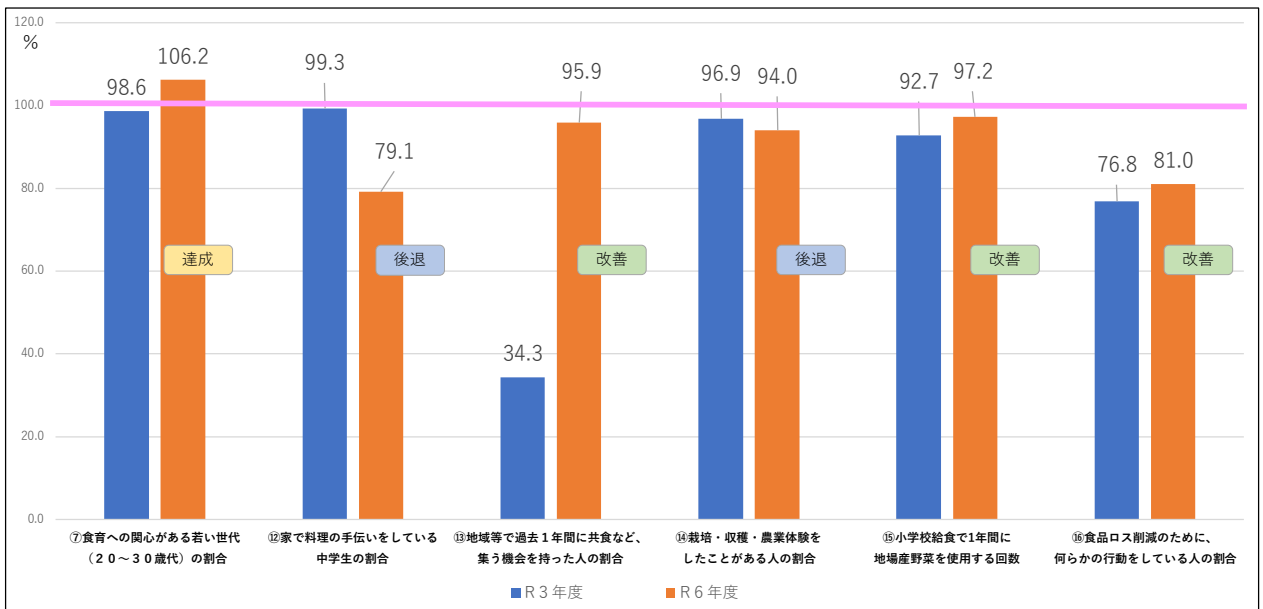
(目標を100%に設定)

(図・2)



(目標を100%に設定)

(図・3)



3. 食育目標の基本施策別中間評価

※食育目標に対応する食育ピクトグラムを表示しています

13の基本施策と15の指標ごとに中間評価を実施し、今後の方向性や取組について設定しました。



重点 食育目標1 食育を通じて適正体重を維持しよう

基本施策(1) 思春期から青年期世代の適正体重の維持に向けた食育の推進

やせや肥満がもたらす体への影響を理解し、自身の適正体重を知り、それを維持・改善できるような食生活の実践と体格についての正しい知識の普及を図ります。

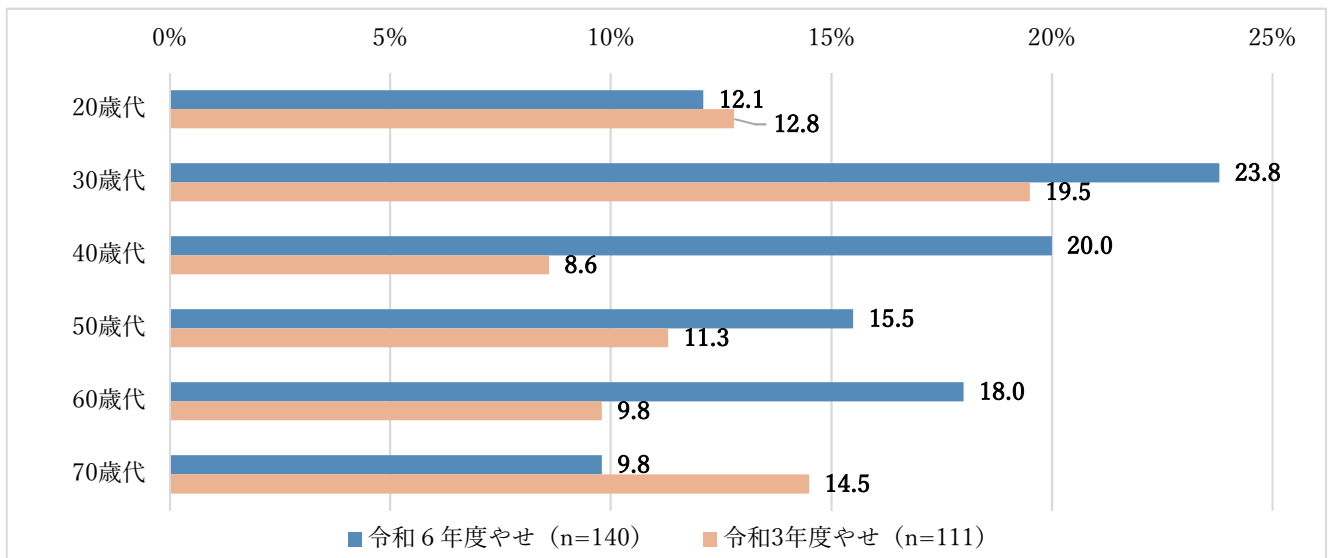
▶めざす姿→20~30歳代やその前の思春期世代が、体格について正しい知識を持ち、自身の適正体重を維持できるような健康的な食生活を実践できている。

【指標の達成状況】 中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:現状値より数値が後退した

目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
① 20~30歳代女性のやせ(BMI 18.5未満)の人の割合	17.2%	19.0%▼	11%以下

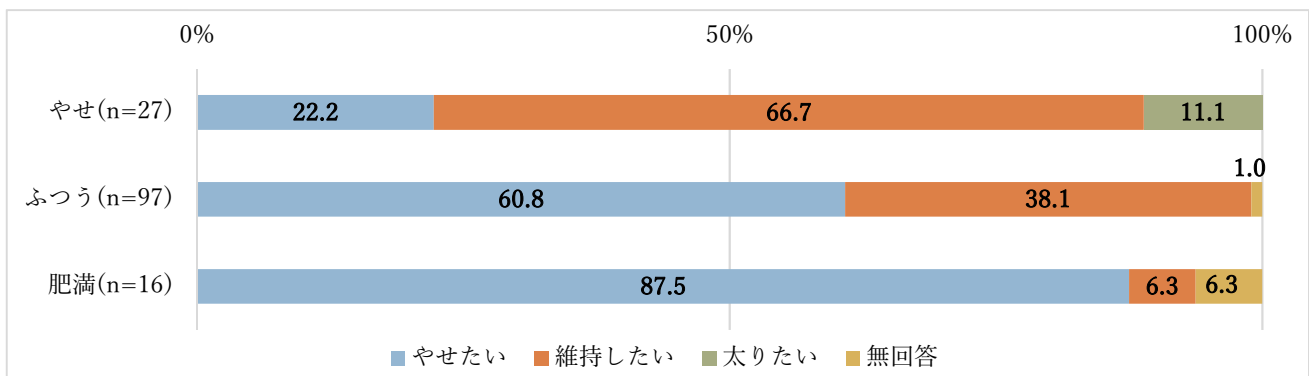
【関連データ】

R3年度とR6年度の比較(女性・やせ)



◎対象者:20~30歳代 女性 140名(やせ:27名 ふつう:97名 肥満:16名)

あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
1	高校生のための食育推進事業	市内にある県立高校への骨量測定や食育授業、保護者向けの食育普及啓発等を実施。	A:100%
2	インターネット等による食育情報発信	インターネット(市食育ホームページ)やSNS、広報等により食育情報(簡単料理レシピや食育掲示板等)を発信する。	

<その他、関連する食育取組>

3 就業者への食育事業 4 測定会時等の食育事業 8 母親父親教室 12 大学生への食育事業
28 保育所等における食育活動への支援 29 学校における食育活動への支援

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、女性は30～60歳代のやせの割合が増加した。「自分の体格について、今後どうしていきたいか」について、20～30歳代女性を体格別に比較すると、「やせ」の人のうち、今後「やせたい・維持したい」が約9割、「ふつう」の人のうち、「やせたい」が約6割と、やせていることについて、問題と認識しておらず維持したいと感じていたり、問題のない体格であるのに、やせたいと感じている人の割合が多かった。

また、食育取組の評価において、事業評価はA評価(計画通り進捗した)だが、目標達成につながる効果的な事業実施につながっていなかった。

【評価委員の意見】

○身体は食べたもので作られるといえます。食べる、運動、睡眠をとり将来の自分の姿を想像して健康に過ごしてほしいです。

○若い世代はファッションなどの志向もあるのかもしれないが、親元から独立した方の食生活にはしばらく見守りが必要です。

○思春期世代の適正体重や朝食欠食問題の啓発について。教育委員会と連携して、クイズなどをタブレットで答えられる等と工夫しては。様々なアレルギーや低体重など課題を抱えた生徒も在籍していることも考えると、一律に「食べなさい」という指導におずかしさを感じます。

○OFUS の考え方を浸透させていくことがよいと思います。現在のやせが将来のリスクにつながることに、現在の体調不良がやせていることに起因している可能性があることを周知していくのがよいかと思います。

○保育所や学校における食育の保護者向け普及啓発については、保育園児の母親は全員、小学生の母親の多くも就業しており集合型での普及啓発は難しいと思います。園だよりや学校だよりなどの片隅を活用した情報発信が有効ではないでしょうか。親向けのチラシや、親向けの Web サイトは見なくとも、お子さんに関する情報には目がいくと思いますので、お子さん向けの情報が掲載されているのと同じ書面や Web 画面に親向け情報を載せるのが有効かと思えます。

【今後の方向性と取組】

女性のやせの増加が高齢期以外の世代で広がっているため、<その他、関連する食育取組>に記載の事業等において、20～30歳代を中心としたプレコンセプションケア※と連携した取組や、全世代に対して女性の低体重/低栄養症候群(FUS)について、浸透させていく。

※プレコンセプションケアとは・・・自分の身体や将来の妊娠について正しく理解して日常生活や健康に向き合い、ライフプランを考えていくこと

- 就業者への食育事業・測定会時等での栄養相談
- 母親父親教室
- 大学生への食育事業
- 保育所、学校における保護者向け普及啓発
- 高校生に向けた普及啓発

基本施策(2) 壮年期世代の適正体重の維持と生活習慣病の発症・重症化予防のための食育の推進

働き盛り世代に増加がみられる肥満やそれにとまなう生活習慣病の発症・重症化予防のために、自身の適正体重を知り、それを維持・改善できるような食生活の実践と、運動や歯科保健事業と連携した食育を推進します。

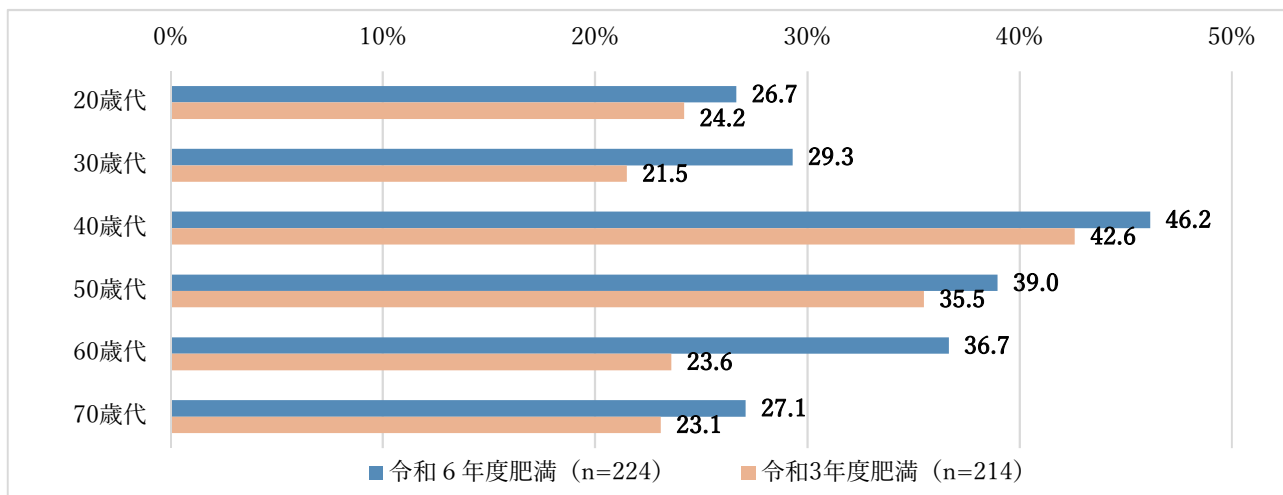
めざす姿→働き盛り世代が自分の適正体重を維持し、運動や歯科に関する意識を高め、生活習慣病の予防・改善のための健康的な食生活を実践できている。

【指標の達成状況】 中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価(R6)	目標値 (R9)
②40～50歳代男性の肥満(BMI25以上)の人の割合	38.5%	41.6%▼	35%以下
③ゆっくりよくかんで食べる意識がある人の割合	49.7%	51.0%△	55%以上

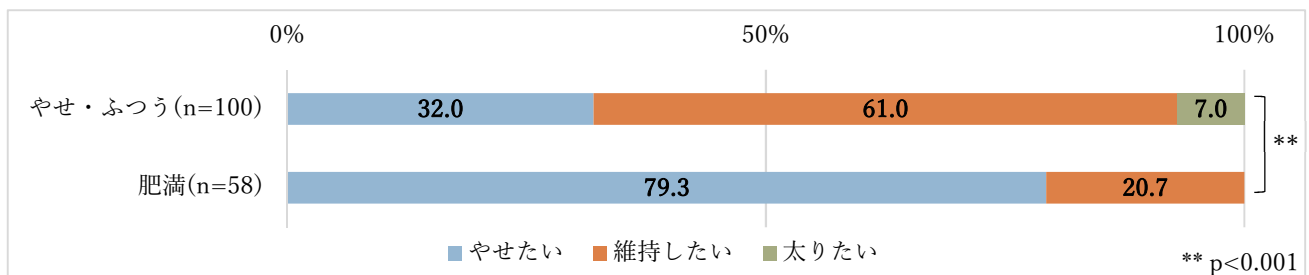
【関連データ】

R3年度とR6年度の比較(男性・肥満)

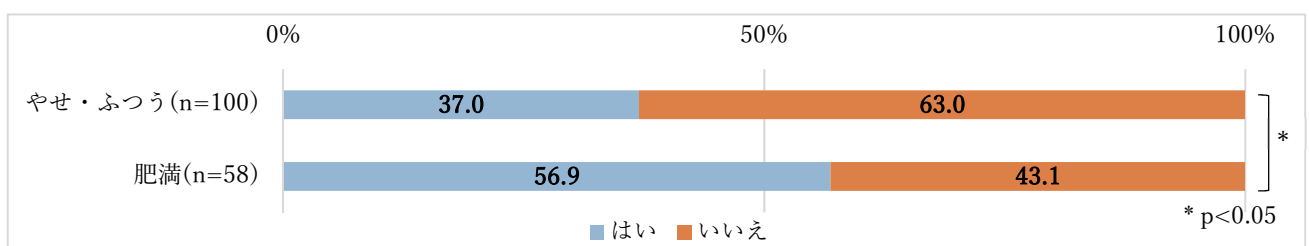


◎対象者:40～50歳代 男性 158名(やせ・ふつう:100名 肥満:58名)

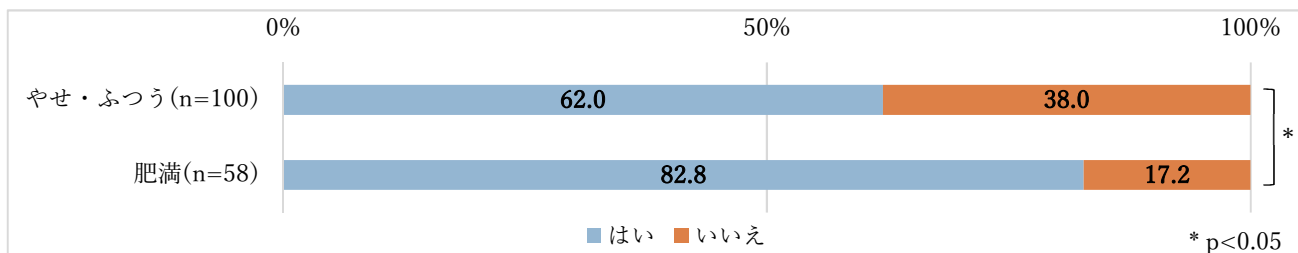
R6年度 あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。



R6年度 あなたは職場、地域、病院などで栄養・食生活に関する話を聞いたり指導を受けたことがありますか。

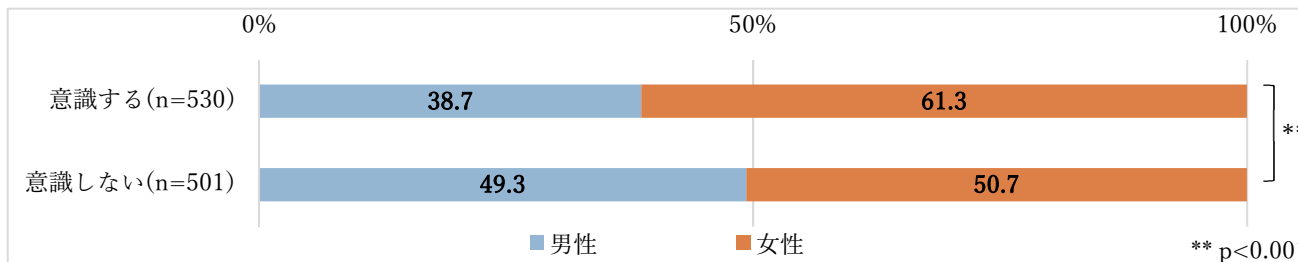


R6年度 あなたは今、運動不足と感じていますか。

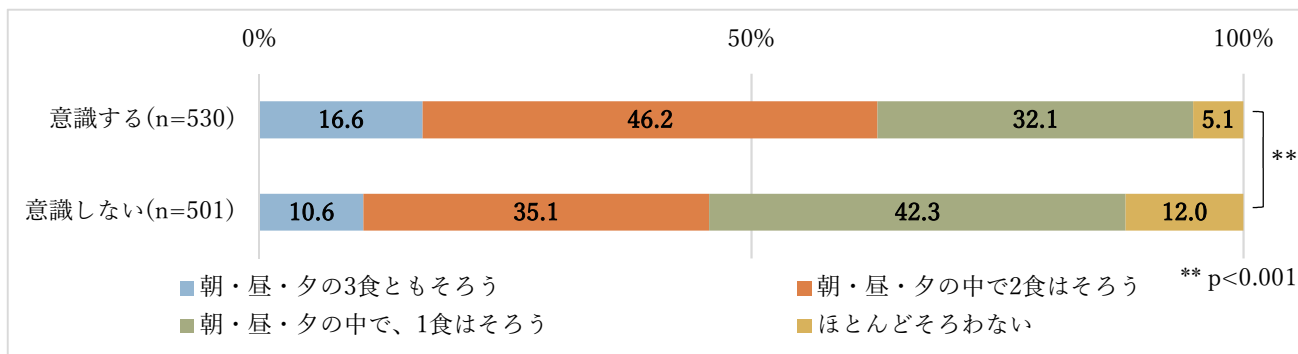


◎対象者: 全年代 1031名 (ゆっくりよくかんで食べる意識がある人: 530名 ない人: 501名)

R6年度 性別



R6年度 あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。



「**」マークは、統計上の「差の強さ」を示しています。数値が小さいほど偶然ではないことを示しています。
 * 統計的に意味のある差あり (P < 0.05)、 ** 非常に強い差あり (P < 0.001)

【取組の状況評価】

基本施策（2）に対応する主な食育取組

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
3	就業者への食育事業	就業者に対して、運動や歯科保健事業と連携した食育普及や講座、相談会等を行う。また、アプリなどを活用した食育事業を実施する。	A:50% C:50%
4	測定会時等の食育事業	市集団がん検診等各種検診やイベント等での測定会にあわせ、管理栄養士による個別相談等の食育普及を実施。	
5	特定保健指導	40歳～74歳で伊勢原市国民健康保険加入の人を対象に特定健康診査を実施後、管理栄養士等による特定保健指導を実施する。	

<その他、関連する食育取組>

- 21 未病対策事業 22 個別栄養食事指導事業 23 糖尿病性腎症重症化予防事業

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、男性は40～50歳代の肥満の割合が増加した。「自分の体格について、今後どうしていきたいか」について、40～50歳代男性の「やせ・ふつう」と「肥満」の人を比較すると、「肥満」のうち、今後「やせたい」が約8割と高く、減量したいと感じている。一方、「職場、地域、病院などで栄養・食生活等に関する話を聞いたり、指導を受けたことがあるか」について、「肥満」の人と「やせ・ふつう」を比較すると、「肥満」に受けたことがある人の割合が高いが、約4割は受けたことがない。

また、40～50歳代男性の「運動不足と感じているか」について、「やせ・ふつう」と「肥満」を比較すると、「肥満」のうち運動不足と感じている人が約8割と割合が高く、運動不足の可能性がある。

「ゆっくりよくかんで食べる意識の有無」について、性別で比較すると、「女性」の方が「意識する」の割合が高く、また、1日3食のうち、「主食・主菜・副菜のそろった食事が2食以上そろっている者」の方が、「意識する」の割合が高かったことから、食事バランスをととのえることが、よく噛むことにもつながる可能性がある。

食育取組の評価において、特定保健指導が経年的にC評価のため、目標達成につながるよう特定保健指導の実施率向上を積極的にすすめ、栄養指導を受けたことのない人を減少させる今後の取組につなげる。

【評価委員の意見】

○咀嚼（早食い）についてもその1つですが、肥満の原因となる生活習慣・食習慣を具体的にあげ、個々人が自身の小さな習慣を変えることから取り組めるような周知をしていくのがよいと思います。

○周知や介入のタイミングは、少しでも減量して健康診断を迎えられるように、健康診断前などが有効と思われます。

○主食、主菜、副菜の意識があるのに全てを揃えるのは難しい。40～50代の男性は、医師に言われて感じる事が多いと思うが、その前の気づきがほしいです。

○壮年期世代は中学生くらいの親世代に多いと思われますので、学校だよりなどの片隅でも、活用した情報発信が有効ではないでしょうか。親向けのチラシや、親向けのWebサイトは見なくとも、お子さんに関する情報には目がいくと思いますので、お子さん向けの情報が掲載されているのと同じ書面やWeb画面に親向け情報を載せるのが有効かと思います。

【今後の方向性と取組】

40～50歳代の男性をターゲットに肥満や咀嚼について、地域職域連携や就業者への食育事業、測定会事業において、運動不足解消やゆっくりよく噛むことへの意識につながる取組をすすめていく。

また、国保部門や医師会等、職域等と連携し、生活習慣病の重症化予防事業の推進をすすめていく。

- 国保部門と連携した、特定保健指導実施率向上に向けた取組
- 医師会等と連携した糖尿病性腎症重症化予防事業の推進
- 地域・職域連携推進事業での栄養・食生活や運動の習慣化に向けた取組
- 就業者への食育事業・測定会等での運動事業や歯科保健との連携

基本施策(3) 高齢者の適正体重の維持に向けた食育の推進

高齢者がいつまでも自立した日常生活を送るために、日々の生活の中でバランス良く簡単に作れる料理を実践し、地域で食をきっかけにコミュニケーションを図る機会を持つなど、やせや肥満の改善等適正体重の維持につながる食育の推進を図ります。

めざす姿→高齢者が自分の適正体重を維持でき、毎日の生活を楽しむための介護予防に向けた食生活を実践できている。

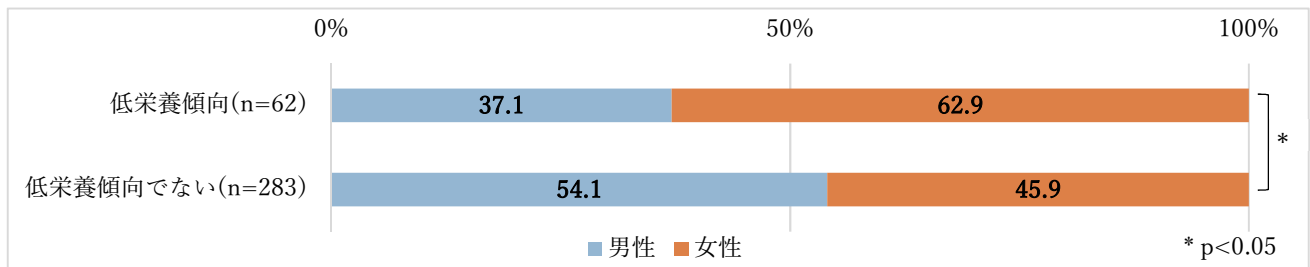
【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価(R6)	目標値 (R9)
④高齢者の低栄養傾向(BMI20以下)の人の割合	20.2%	18.4%△	17%以下

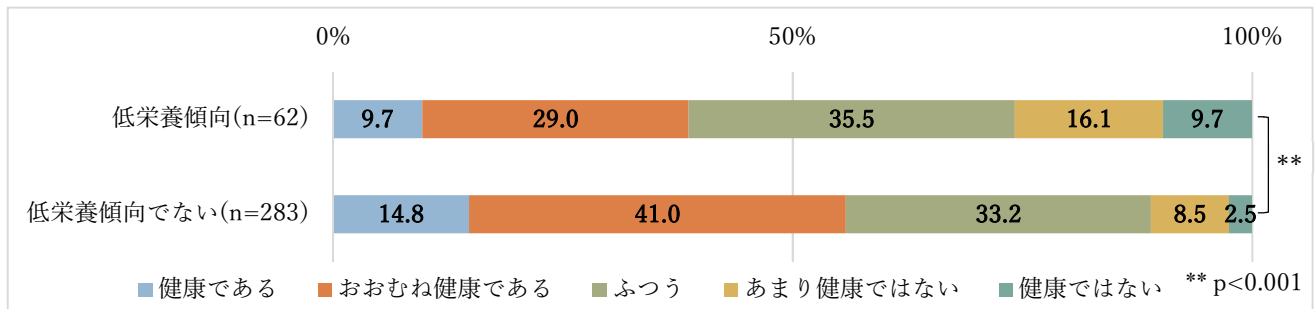
【関連データ】

対象者:65歳以上 男女 345名(低栄養傾向:62名 低栄養傾向でない:283名)※BMI20.0以下を「低栄養傾向」とした

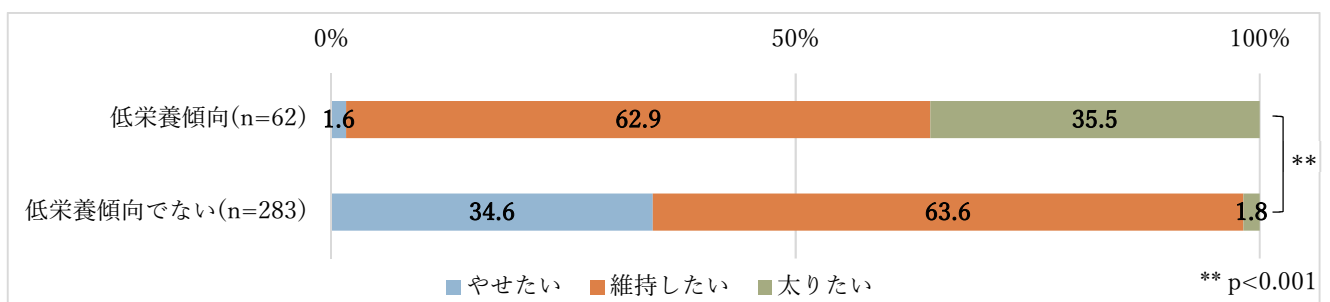
R6年度 性別



R6年度 あなたは現在、健康だと思いますか。

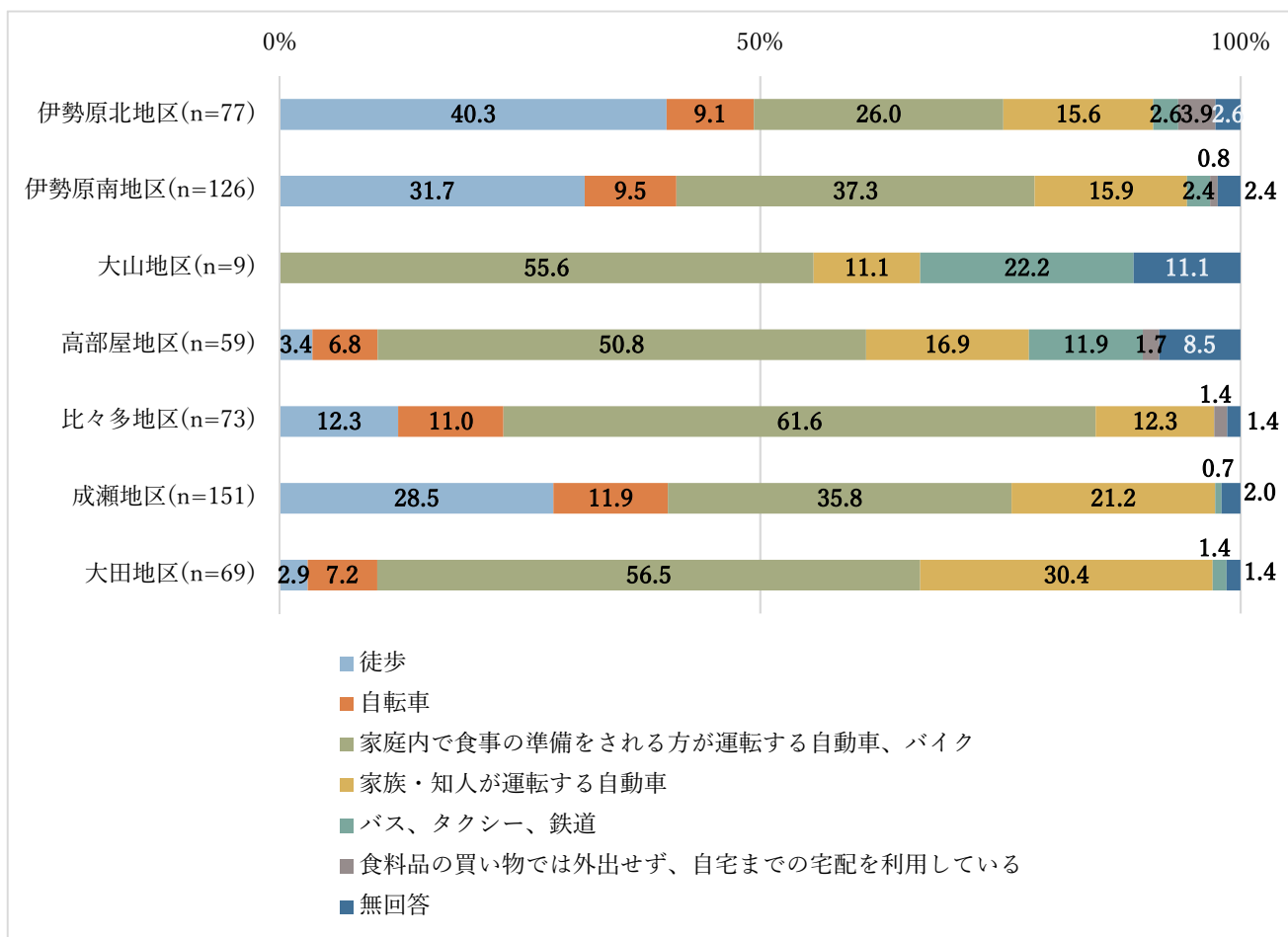


R6年度 あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。

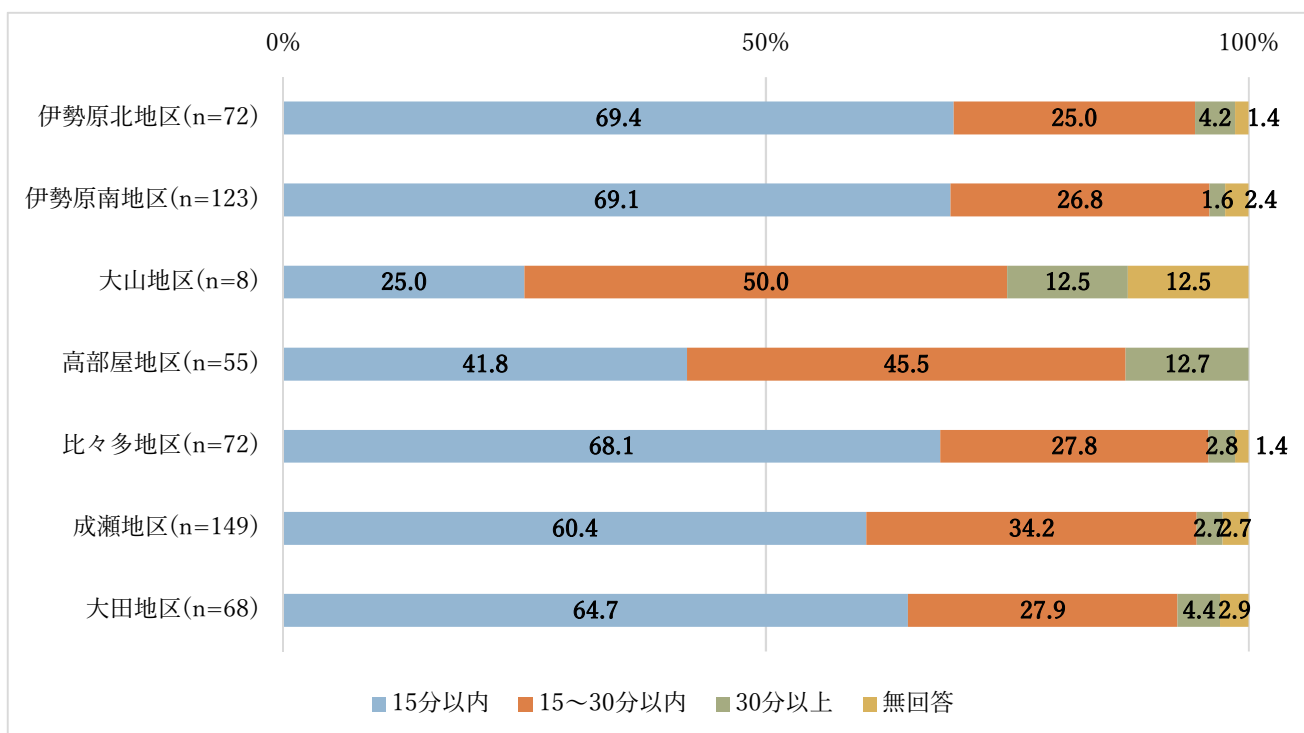


◎対象者:65歳以上 男女 564名

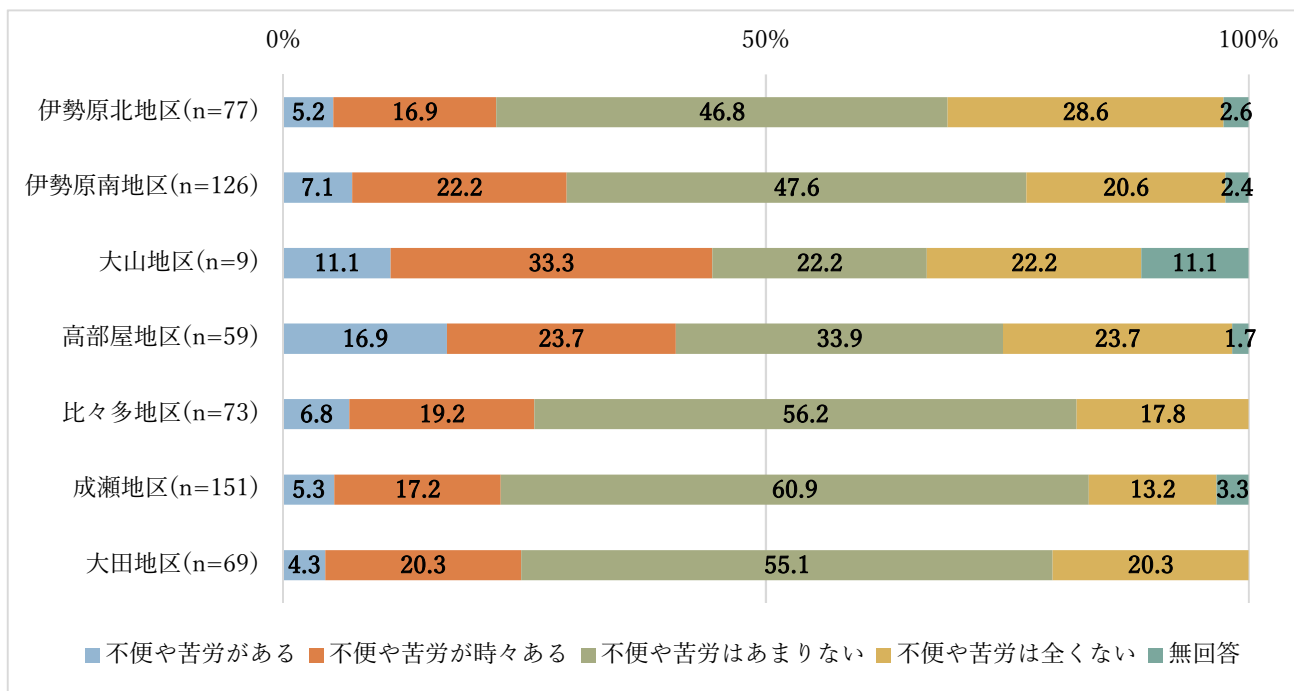
R6年度 家庭内で食事の準備をされる方は、食料品の買い物で最もよく利用されるお店まで、どのような交通手段で行きますか。(地区別)



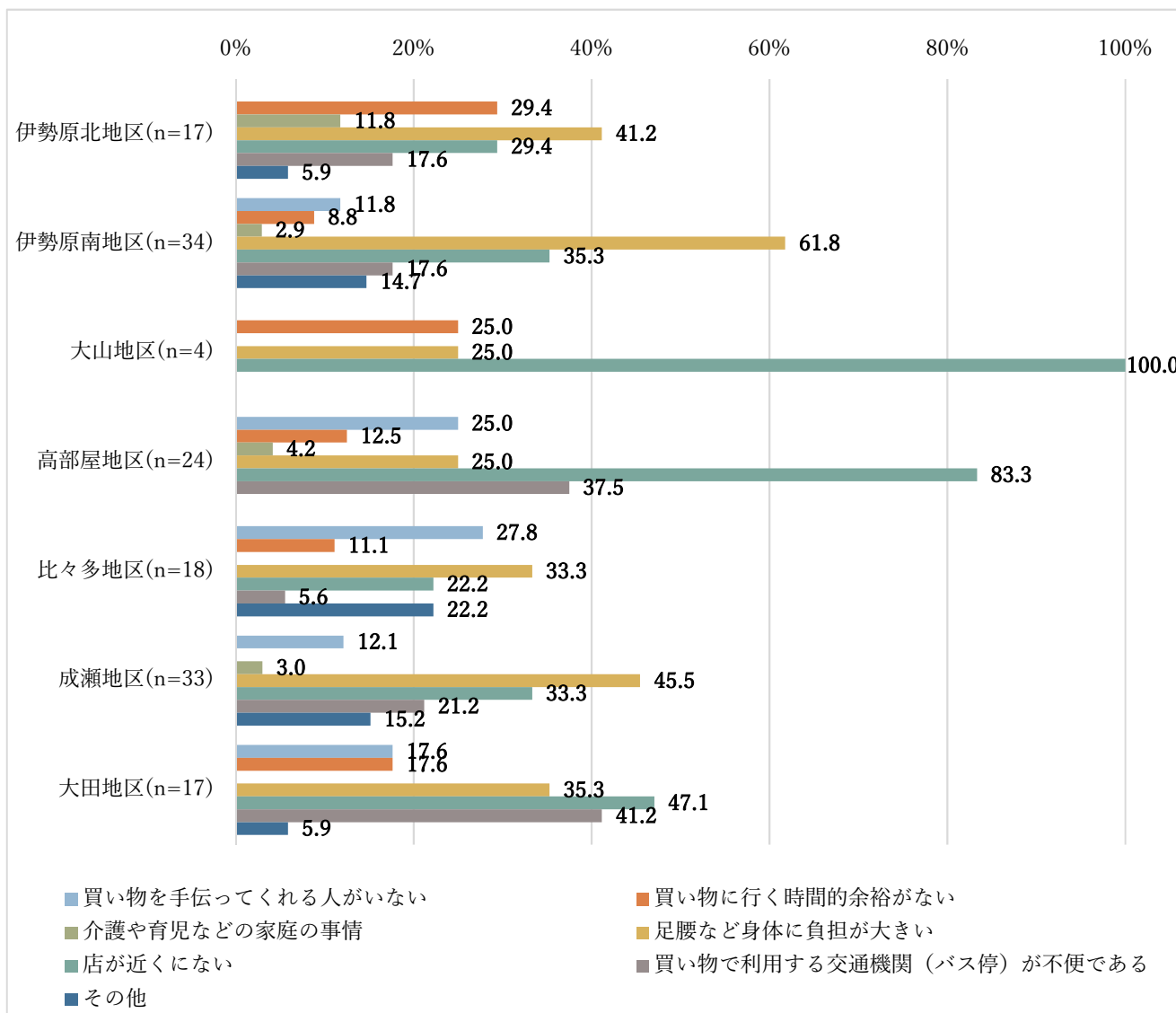
R6年度 食料品の買い物で最もよく利用されるお店までは、自宅から片道でどの位時間がかかりますか。(食料品の買い物で外出すると回答した高齢者 地区別)



R6 年度 普段、食料品の買い物で不便や苦勞はありますか。(地区別)



R6 年度 どのような不便や苦勞がありますか。(複数回答・不便や苦勞があると回答した高齢者 地区別)



【取組の状況評価】

基本施策（3）に対応する主な食育取組

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
6	低栄養防止事業	管理栄養士等による居宅訪問や電話等での栄養相談の実施。	A:75% B:25%
7	生き生き健康教室 (短期集中予防サービス事業)	総合事業対象者を対象に、全12回(3か月)で実施。栄養改善と口腔機能向上の講話や、運動の実技・講話等を実施。	

<その他、関連する食育取組>

4 測定会時等の食育事業 5 特定保健指導 20 食育出前講座 32 通いの場等における食育事業

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、65歳以上の高齢者の低栄養傾向は、目標には達していないが数値は改善した。「性別」で比較すると、「女性」の方が「低栄養傾向」の割合が高く、今後女性のやせが、幅広い年代に広がることが懸念される。また、「主観的健康観」について、「低栄養傾向」と「低栄養傾向でない」を比較すると、「低栄養傾向」の方が、「あまり健康ではない」「健康ではない」と感じている割合が高く、また「自分の体格について、今後どうしていきたいと思っているか」を比較すると、「低栄養傾向」の方が、「太りたい」と感じている割合が高かった。しかし、「維持したい」も約6割おり、低栄養傾向の意識がない人も多い。

なお、低栄養傾向と居住地区の関連はみられなかった。一方、高齢者の食料品の買い物に関するデータを地区別にみたところ、大山地区と高部屋地区が、普段食料品の買い物で不便や苦勞を感じている人の割合が多く、いずれもお店に行くまでに時間がかかる地区であった。

食育取組の評価において低栄養防止事業がB評価のため、目標達成につながるよう居宅訪問数の増加をめざし、今後の取組をすすめる。

【評価委員の意見】

○高齢者の低栄養について、理解してもらい浸透させる事等は難しいと思うが、低栄養からサルコペニアという負のスパイラルにならないようにすることは大事です。

○バスの減便や免許返納も大きな問題になっているが、改善が難しいと思います。

○今後の方向性として、高齢者の多くがメタボ予防の食生活がよいという考え方のまま年を重ねているため、やせ体形でもそれを維持したいと思っているのだと思います。高齢者になったら食べ方のギアチェンジが必要なことの周知が必要かと思います。野菜や果物をたくさん食べることが健康的という考えや、高齢者は粗食が良いという思い込みの払拭が必要かと思います。

○私の地域では近くのスーパーが取り壊して不便になったので、移動スーパーに週に1度お願いして日常的な食品は購入しており、高齢者の皆さんは助かっているようです。できれば地域の集会所で行われるミニサロンなどで、簡単な料理をして、話しをしながら食べられればさらによいと思います。

【今後の方向性と取組】

低栄養傾向であるが、その体格を維持したいと感じている人がいることから、低栄養の弊害についての理解を浸透させていく必要がある。また、居宅訪問数の増加に向け低栄養傾向者を対象者に追加し、積極的にアウトリーチ支援を進める。

- 低栄養防止事業の対象者把握基準の拡大
- 買い物が不便な地区等での、食育出前講座の開催
- 通いの場等における食育事業の充実



食育目標 2 若い世代も食への意識を高めよう

基本施策(4) 若い世代の朝食欠食や栄養バランス等の改善に向けた食育の推進

若い世代が簡単に準備できる朝食の工夫や、栄養バランスのとれた食事のとり方など、朝食欠食や栄養バランスの改善につながる食育の推進を図ります。

めざす姿→思春期世代や青年期世代が、朝食を毎日食べ、栄養バランスのとれた食生活を実践できている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

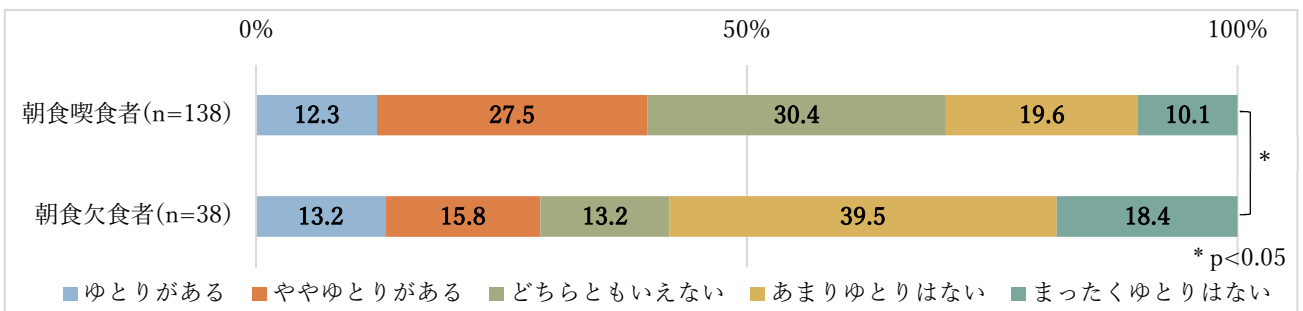
目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価(R6)	目標値 (R9)
⑤20～30歳代の朝食欠食(週に1～2日又はほとんど食べない)する人の割合 ※	16.8%	22.5%▼	15%以下
⑥朝食を毎日食べる中学生の割合	80.4%	79.5%▼	85%以上

【関連データ】

◎対象者:20～30歳代 男女 176名

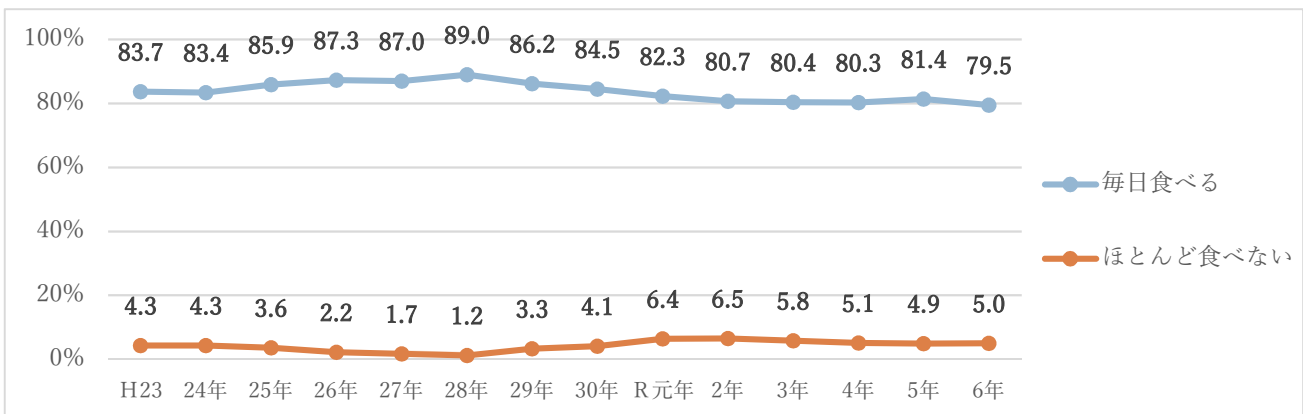
朝食喫食者(週に3日以上):138名 朝食欠食者(週に2回以下、またはほとんど食べない):38名

R6年度 現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。



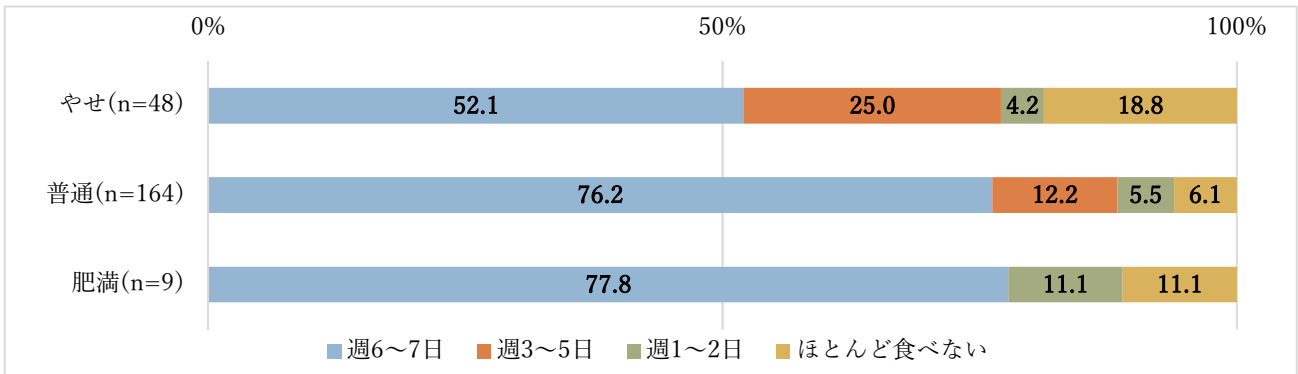
◎対象者:中学2年生 674名

中学生が朝食を毎日食べる割合の推移



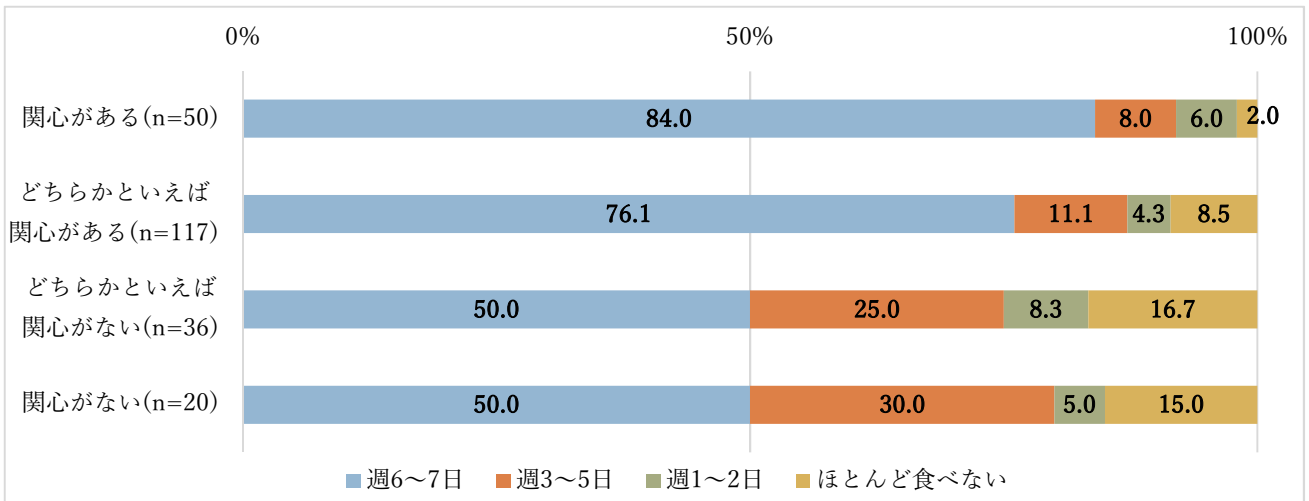
◎対象者：県立高校1年生 223名

R6 年度 あなたは朝食をどのくらいの頻度で食べていますか。(体格別)



※やせ(BMI18.5未満) 普通(BMI18.5以上25.0未満) 肥満(BMI25.0以上)

R6 年度 あなたは朝食をどのくらいの頻度で食べていますか。(食育への関心別)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
8	母親父親教室	妊娠期から授乳期の栄養について学び、主食、主菜、副菜をそろえた健全な食生活の推進を図るために、栄養士講話の他、食事栄養調査や、塩分測定等を実施する。	A:90% B:10%
9	乳幼児健康診査等での食育及び個別食事相談	乳幼児とその親である若い世代の朝食欠食や栄養バランス等の改善のために、集団での食教育と個別相談を行う。	
10	家庭地域との連携(小・中学校)	朝食欠食や生活リズム、栄養バランス等の改善のために、給食日より、学校日より、保健だよりの発行、給食試食会、給食衛生委員会等を開催し、家庭へ向けた普及啓発を行う。	
11	思春期栄養改善事業	骨量測定と栄養教育の実施。食生活に関するアンケートの実施。	
12	大学生への食育事業	大学生に対して、食育の普及啓発や食育講座等を行う。	

<その他、関連する食育取組>

- 1 高校生のための食育推進事業 2 インターネット等による食育情報発信 3 就業者への食育事業
- 13 保護者への食育の普及・啓発(保育所) 14 各教科等での食に関する指導 15 離乳食教室
- 17 産前産後サポート(すくすく健康相談)、産後ケア事業等での食育普及啓発
- 18 給食時間等における食育(小学校) 19 給食時間等における食育(中学校) 27 食育料理コンテスト
- 28 保育所等における食育活動への支援 29 学校における食育活動への支援

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、20～30歳代に朝食欠食者の割合が増加した。20～30歳代の「朝食摂取状況」と「経済的な暮らし向き」を比較すると、「朝食欠食者」に、「経済的にあまりゆとりがない」という回答の割合が高く、若い世代の経済的状況と朝食欠食との関連がみられた。

また、中学2年生が「朝食を毎日食べているか」の回答について、「毎日食べる」生徒の割合が平成28年度以降、年々減少し、8年間で約10ポイントの低下となった。

市内にある県立高校1年生に実施したアンケート調査で「朝食を毎日食べていない生徒」をみると、「BMIがやせ」の割合が高く、また「食育への関心」については、「どちらかといえば関心がない」「関心がない」の割合が高かった。朝食をとらないことと、「やせ」や「食育への無関心」との関連が考えられる。

食育取組の評価において、事業評価はほとんどがA評価(計画通り進捗した)であったが、目標達成につながる効果的な事業実施とならなかった。

【評価委員の意見】

- 産前産後など母親になる時が食事について気にする時期なので、教育のチャンスではないでしょうか。また、スポーツをしている方の意識は高いと思います。
- 若い人の朝食欠食が当たり前になってきていることが気になっています。幼稚園の保護者に対しては、お子さんだけでなく、大人もしっかり食べましょと伝えていますが、保護者が1日2食と間食でお腹を満たしていると聞くので、適正な体重になってほしいと思います。保護者が食べないのに子どもに食べさせるのは無理があり、子どもも朝食欠食してしまうと思います。
- 「朝食欠食」については「朝食が食べたくなるような朝」が迎えられるよう整えていくべきではないかと感じています。食だけでなく生活リズム全体の見直しが必要です。
- 食育料理コンテストの中・高校生の部のテーマも朝食メニューにしてはいかがでしょうか。なお、栄養バランスを考える上で、主食・主菜・副菜を揃えることが必要となってくると思いますので、忙しい朝であっても3つが揃う献立(単品料理でなく)を募集するのがよいのではないのでしょうか。
- 朝食欠食者が思春期からみられるということで、あらゆる世代に朝食の重要性などを啓発していく中で、安価で準備できる朝食は経済的観点から必要です。その中でも特に栄養素の大切さは啓発していく必要はあると思います。思春期の栄養バランスが大人になっての身体にも影響があることも積極的に伝えるべきではないでしょうか。(例えば朝食に毎回菓子パンという、糖分や添加物などの問題があるなど)
- 時間がなく食べられない人、食欲がない人、朝食べると胃もたれする人、様々だと思います。小学生の頃は食べていたが、中・高校生・大学生・社会人になって食べなくなった人も多いと思います。朝少しでも食べて欲しいので、簡単に安価な物で調理できるレシピを発信できるとよいと思います。

【今後の方向性と取組】

朝食欠食者の増加が思春期からみられるため、＜その他、関連する食育取組＞に記載の事業等においても、あらゆる世代に対し朝食の重要性などを、普及啓発をしていく。安価で準備できる朝食や、やせの弊害などの情報提供を多様な場面ですすめ、子どもの頃から食育への関心を高めることが必要である。

- 思春期前から始まる朝食欠食改善対策
- 安価で準備できるメニューの普及啓発
- 中・高校生や大学生への朝食欠食改善対策
- 就業者への食育事業・測定会等での普及啓発

基本施策(5) 若い世代が食に関する関心を高め、知識を得られる食育の推進

若い世代が和食や地域の食文化なども含めた食育への関心を高めるため、デジタル技術や普及啓発事業、イベントなどを活用した、食育の推進を図ります。

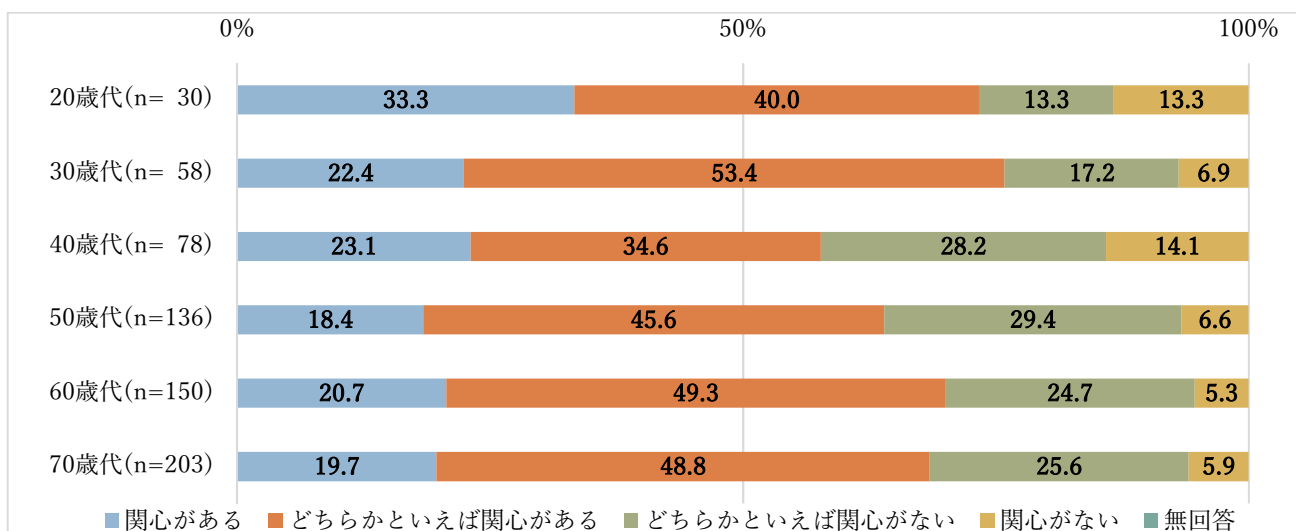
めざす姿→20～30歳代の若い世代が、様々な場面やツールから食育に対する関心を高め、食生活に活かしている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

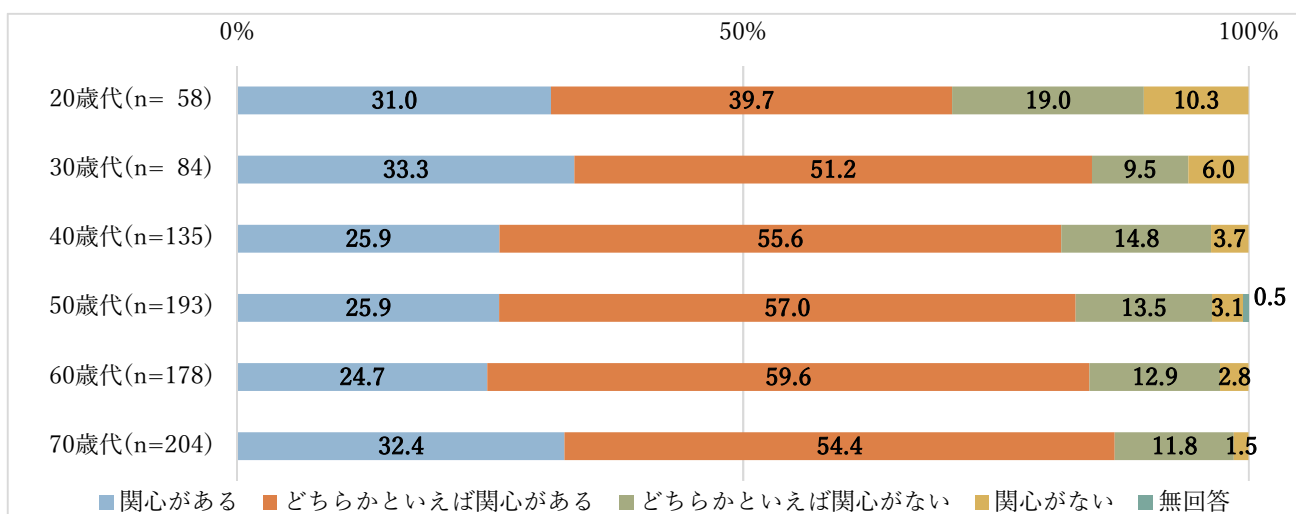
目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価(R6)	目標値 (R9)
⑦食育への関心がある若い世代(20～30歳代)の割合	72.0%	77.5%◎	73%以上

【関連データ】

R6年度 食育への関心の有無(男性・年齢別)



R6年度 食育への関心の有無(女性・年齢別)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
13	保護者への食育の普及・啓発(保育所)	食育だより、給食試食会、食事相談等により、保護者への食育の普及・啓発を行う。	A:100%
14	各教科等での食に関する指導	各教科(社会、理科、生活、家庭、技術・家庭、体育、保健体育)や特別の教科、道徳で、それぞれの学校や児童生徒の実態に合わせて創意工夫に努め、食に関する指導の学習を展開する。	

<その他、関連する食育取組>

- 1 高校生のための食育推進事業 2 インターネット等による食育情報発信 3 就業者への食育事業
 8 母親父親教室 9 乳幼児健康診査等での食育及び個別食事相談 11 思春期栄養改善事業
 12 大学生への食育事業 15 離乳食教室
 17 産前産後サポート(すくすく健康相談)、産後ケア事業等での食育普及啓発
 18 給食時間等における食育(小学校) 19 給食時間等における食育(中学校)
 25 行事食、郷土料理、特別献立の実施 27 食育料理コンテスト 28 保育所等における食育活動への支援
 29 学校における食育活動への支援 36 総合的な学習の時間等での食育の取組
 44 いせはら食育セミナー 48 食品ロス対策啓発活動

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、食育への関心がある若い世代(20~30歳代)の割合が増加し、目標達成となった。特に30歳代になると、男女共に関心がある人の割合が増加していた。しかし男性は、40歳代になるとこの割合が減少し、仕事等で多忙になる時期であることも要因として考えられる。

食育取組の評価において、事業評価は全てA評価(計画通り進捗した)であった。

【評価委員の意見】

- 親からの普段の教えが心に残り影響があるようなので、PTA や保護者会等で食育の重要性を普及してはどうでしょうか。
- 保育園・幼稚園、小学校、中学校と、食に関心がもてるように伝え続け、将来、自分で食事を選んだり、作ったりする時に、食育を意識できるような大人になってもらいたいと思います。

【今後の方向性と取組等】

若い世代が食育への関心を持つことと、朝食を毎日食べることや、主食・主菜・副菜をバランス良く揃えて食べることとの関連性がみられるため、<その他、関連する食育取組>に記載の事業等も含め、引き続き取組をすすめていくことが必要である。また、働き盛りの男性の食育への関心を高めるため、地域・職域連携等での普及をすすめる。

- 保育所等保護者への食育普及・啓発
- 大学生への食育事業
- 母子保健事業での保護者への食育普及・啓発
- 就業者への食育事業



食育目標 3 食育で生活習慣病の予防をめざそう



基本施策(6) 主食・主菜・副菜をそろえた健全な食生活の推進

主食、主菜、副菜を組み合わせた栄養バランスに配慮した食生活を送ることが、生活習慣病予防につながることを理解し、実践できる食育の推進を図ります。

めざす姿→毎食バランス良く適量を食べ、健康的な食生活を送っている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価(R6)	目標値 (R9)
⑧主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている人の割合	58.1%	56.0%▼	60%以上

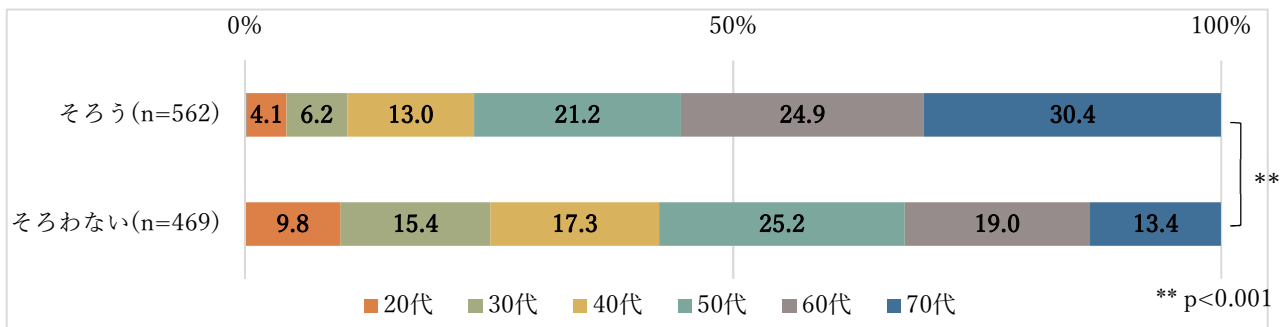
【関連データ】

対象者:全年代 男女 1031名

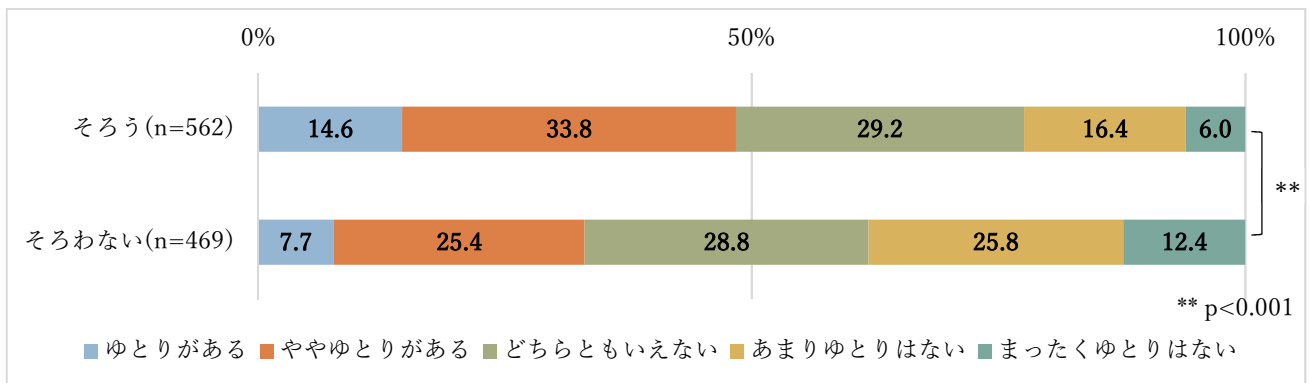
そろう者:(朝食、昼食、夕食で、主食・主菜・副菜のそろった食事が1日2回以上)562名

そろわない者:(朝食、昼食、夕食で、主食・主菜・副菜のそろった食事が1日1回以下)469名

R6年度 年代別



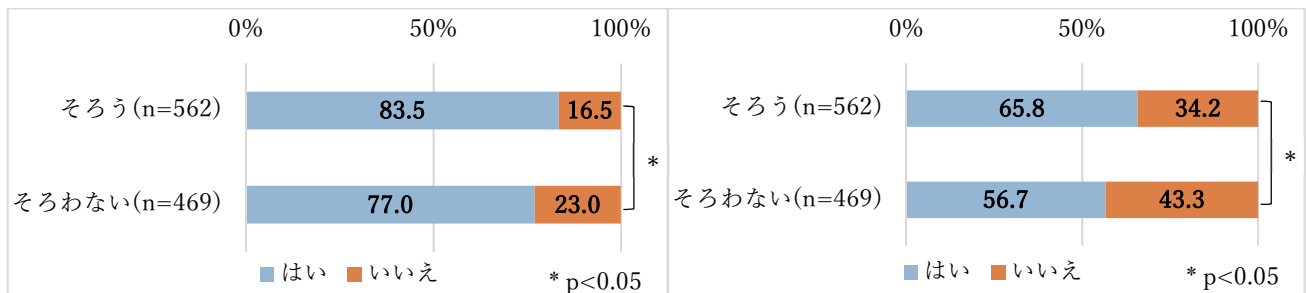
R6年度 現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。



R6年度 家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた。

中学生の頃

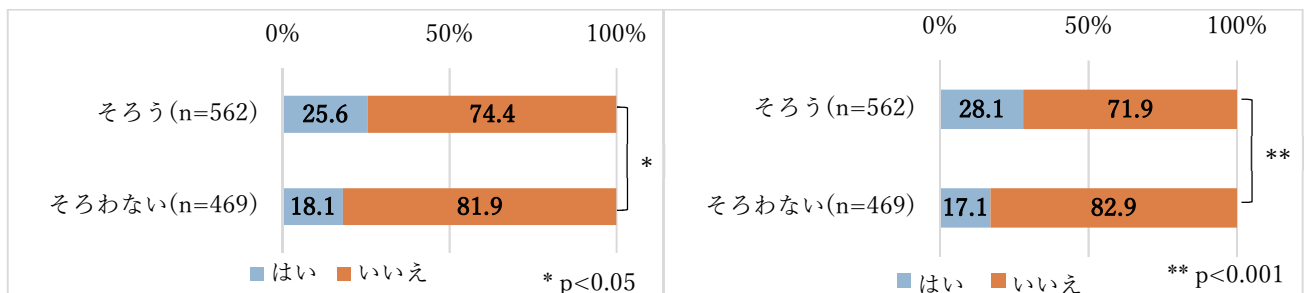
16~18歳の頃



R6年度 家では、家族と一緒に料理していた。

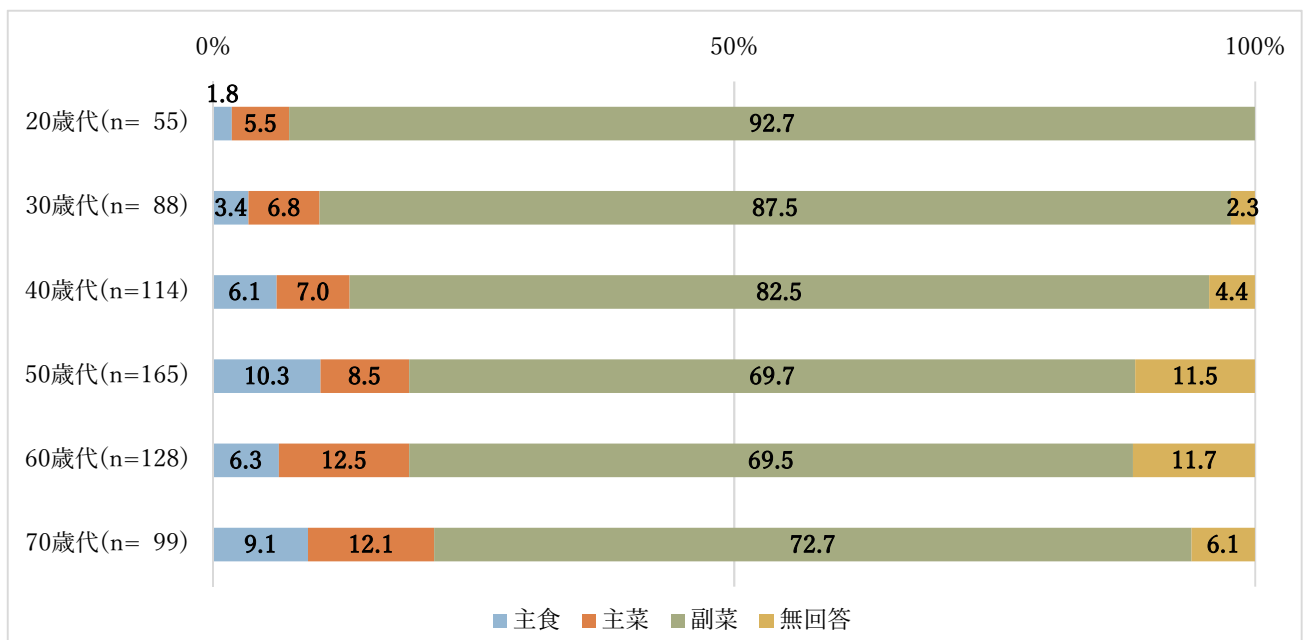
中学生の頃

16~18歳の頃

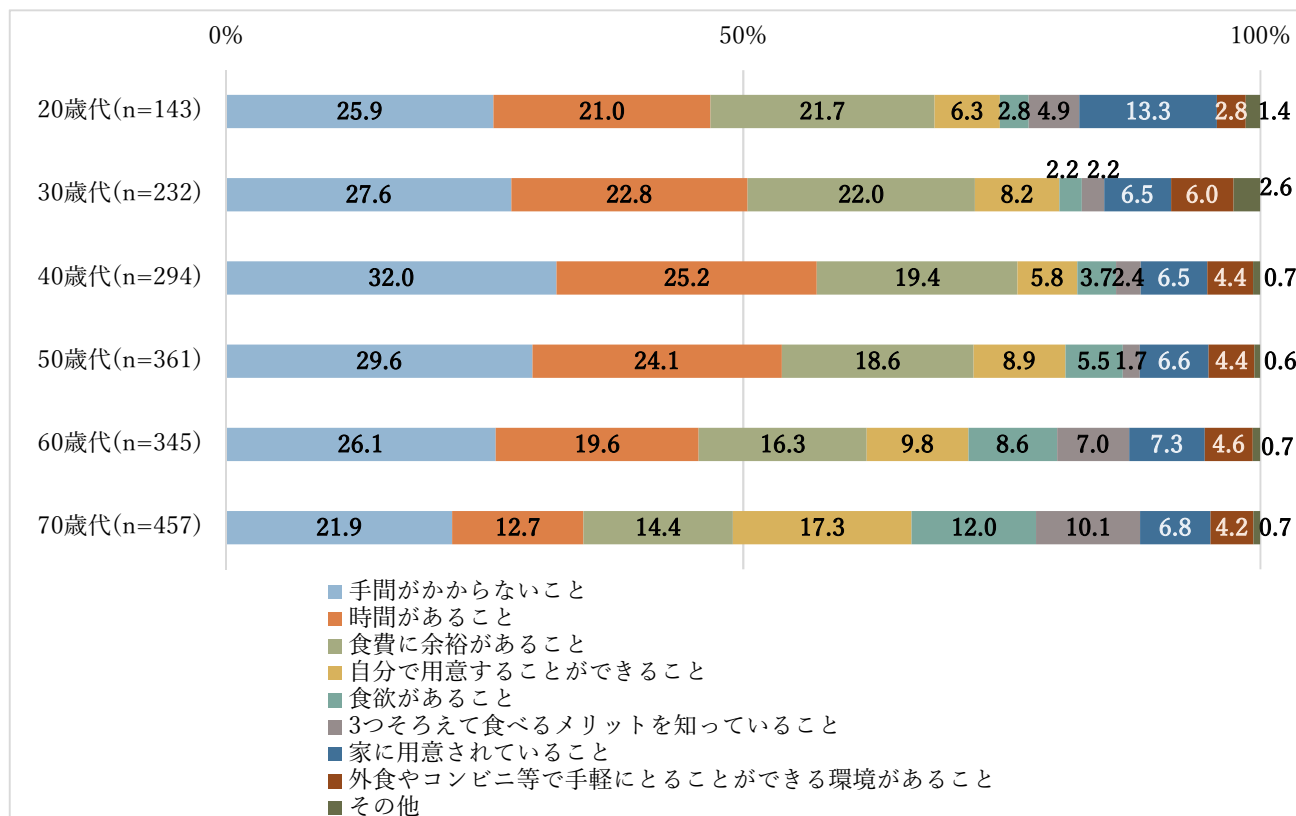


◎そろわない者(朝食、昼食、夕食で、主食・主菜・副菜のそろった食事が1日1回以下)656名

R6年度 主食・主菜・副菜のうち、最もそろいにくいのは何ですか。



R6年度 主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
15	離乳食教室	離乳食の基本と乳児期、授乳期の栄養について学び、加えて親である若い世代の朝食欠食や栄養バランス等の改善のために、栄養士の講話や離乳食作りの実演等を実施する。	A:100%
16	バイキング給食 (保育所)	バイキング給食において、主食・主菜・副菜をそろえて食べられるよう、食品や料理の組み合わせを学ぶ。	
17	産前産後サポート(すくすく健康相談)、産後ケア事業等での食育普及啓発	主食、主菜、副菜をそろえた授乳期や乳幼児期の健全な食生活の推進を図るため、すくすく健康相談や産後ケア事業において食教育や個別相談を実施する。	
18	給食時間等における食育(小学校)	栄養教諭及び栄養職員、学級担任等の教諭が連携し、給食時間等に教材としての栄養バランスのとれた給食の献立を活用した食育を推進する。	
19	給食時間等における食育(中学校)	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事についてなど、栄養士、学級担任等の教諭が連携し、給食時間等における食育を実施する。	
20	食育出前講座	依頼に応じ地域に出向き、栄養バランスのとれた健康的な食生活等に関する食育講座などを行う。	

<その他、関連する食育取組>

- 3 就業者への食育事業 4 測定会時等の食育事業 5 特定保健指導 8 母親父親教室
9 乳幼児健康診査等での食育及び個別食事相談 10 家庭地域との連携(小・中学校)
12 大学生への食育事業 21 未病対策事業 24 給食時間等における食育(保育所)

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている人」の割合が減少した。年代別に比較すると、「50歳代」に主食・主菜・副菜がそろわない割合が最も多く、そろう割合が最も多かったのは「70歳代」であった。「経済的な暮らし向き」を比較すると、「あまりゆとりがない」という回答に、主食・主菜・副菜がそろわない人の割合が高く、経済的状況と栄養バランスに配慮した食生活との関連が考えられる。

また、「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事をしている人」は、中学生や高校生の頃に「1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた」、「家では、家族と一緒に料理していた」人の割合が多く、思春期頃の食生活との関連がみられた。

「主食・主菜・副菜のうち、最もそろにくいもの」については、どの世代も「副菜」が最も多く、「3つそろえて食べるために必要なこと」については、上位は「手間がかからないこと」「時間があること」「食費に余裕があること」であり、70歳代のみ「自分で用意できること」が上位にあがった。

食育取組の評価において、事業評価はほとんどがA評価(計画通り進捗した)であったが、目標達成につながる効果的な事業実施とならなかった。

【評価委員の意見】

- 保育園・幼稚園、小学校、中学校で給食等を使って、主食・主菜・副菜を組み合わせた食事のイメージがもてるようになったらよいと思います。
- 保育園では共働きの家庭が多いので、一汁三菜を作ることは大変です。栄養バランスが取れて簡単にできるような市が作成したメニュー等があるとよいと思います。
- 「最も揃にくいもの」について、どの世代も「副菜」が最も多い結果となり、揃えるために必要なこととして「手間がかからないこと」が挙がっていました。内食(家庭食)対策として簡単にできる副菜料理に関する周知や、中食対策として市内スーパーや惣菜店で販売される副菜料理を増やしてもらうなどの取組も有効ではないでしょうか。
- 主食・主菜・副菜を揃えてバランスよくということを、皆さん難しく考えているのではないのでしょうか。私は高齢者向けのアプリで(脳にいいアプリ)、食べた品目をチェックして楽しみながら、食事をしています。

【今後の方針・取組等】

思春期頃の食育の影響が、大人になってからの栄養バランスに配慮した食生活と関連があるため、中学生・高校生への食育を積極的にすすめていく必要がある。

「50歳代」に主食・主菜・副菜がそろわない割合が最も多くみられるため、生活習慣病が増加し始める働き盛り世代において、朝食や昼食等でバランス良く食べられる方法を普及していく必要がある。また、経済的な暮らし向きにゆとりがない人にそろわない割合が高くみられ、手間がかからず安価で準備できる野菜料理などの情報提供を多様な場面ですすめる。

<その他、関連する食育取組>に記載の事業等においても、多様な世代に対し、普及啓発をしていく必要がある。

- 思春期前から始まる栄養バランスに配慮した食生活の普及・啓発
- 中・高校生や大学生への食育普及
- 安価で準備できる朝食・昼食メニューの普及啓発
- 就業者への食育事業・測定会等での普及啓発

基本施策(7) 減塩や脂質のバランス等、高血圧や脂質異常症・糖尿病などの予防・改善に

向けた食育の推進

高血圧や脂質異常症、糖尿病などの生活習慣病の発症や重症化予防のために、減塩や適正な脂質の質と量、自身に合ったエネルギー量や食事内容を意識し、実践できる食育の推進を図ります。

めざす姿→塩分や脂質の摂取量、エネルギー量など自身に合った食事を理解し、生活習慣病予防を意識した食生活を送っている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

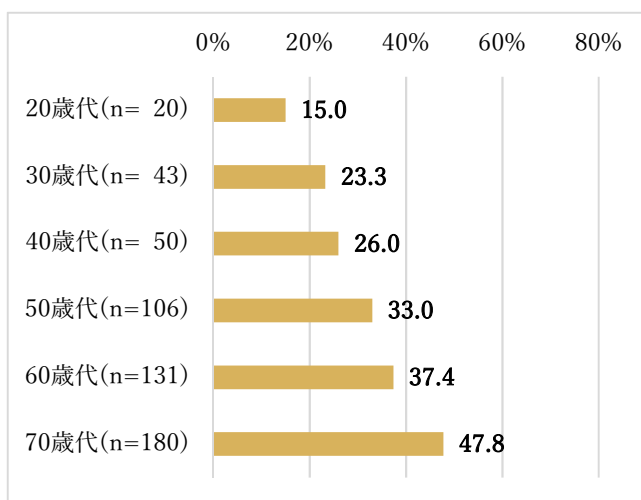
目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
⑨健康のために以下の項目を心がけている人の割合			
「塩分の多いものを控える」	37.1%	43.2% ◎	40%以上
「あぶらっこいものを控える」	29.4%	33.1% ◎	33%以上

【関連データ】

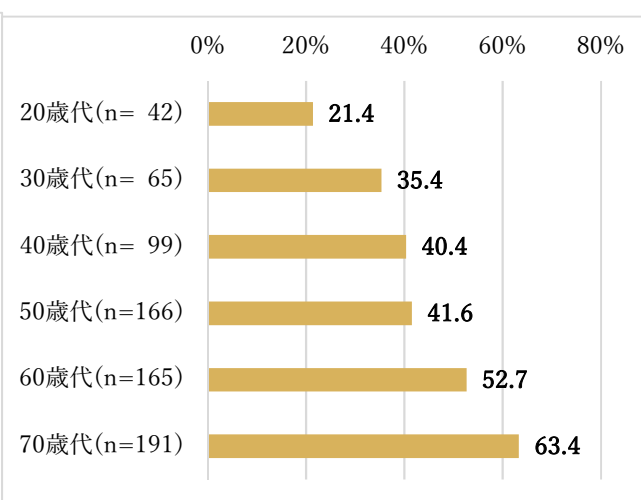
◎対象者:全年代 男女 自分の健康に気を配っている者 1258名(男性:530名、女性:728名)

R6年度 健康のために気を配っていることはなんですか

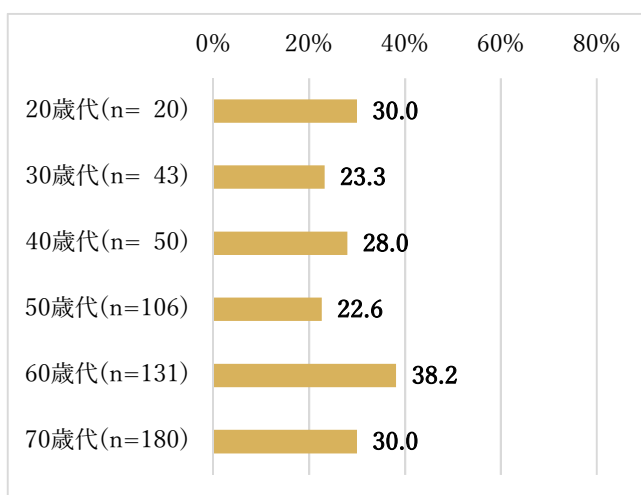
塩分の多いものを控える(男性・年齢別)



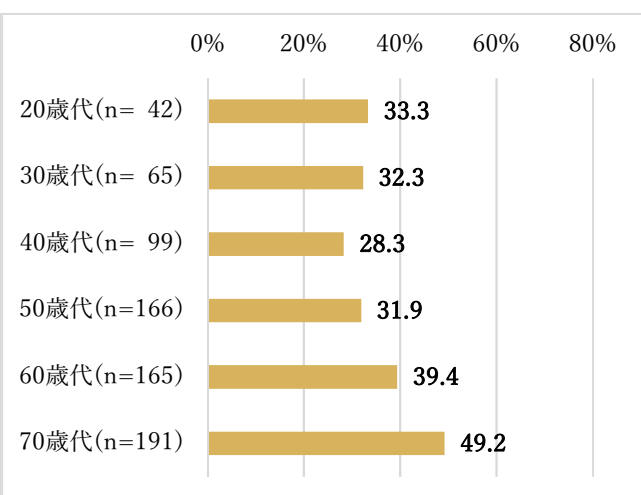
塩分の多いものを控える(女性・年齢別)



あぶらっこいものを控える(男性・年齢別)



あぶらっこいものを控える(女性・年齢別)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
21	未病対策事業	県・企業と連携した健康支援プログラム事業や未病センターにおける栄養相談の実施など、生活習慣病予防・改善に向けた食育講座等を実施。	A:50% B:50%
22	個別栄養食事指導事業	生活習慣病等の予防が必要な方へ、ヘルスアップ相談会や未病センター内相談、電話やオンライン等での管理栄養士による相談を実施。また、生活保護受給者への栄養相談などの実施。	
23	糖尿病性腎症重症化予防事業	神奈川県糖尿病対策推進プログラムに準じた保健指導を実施。	

その他、関連する食育取組

- 3 就業者への食育事業 4 測定会時等の食育事業 5 特定保健指導
33 伊勢原市ヘルスマイトによる食育講習会 47 栄養表示等普及啓発及び活用推進事業

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、「塩分の多いものを控える」「あぶらっこいを控える」の割合が増加し、改善となった。年代別に比較すると、「20歳代男性」に「塩分の多いものを控える」、「50歳代男性」に「あぶらっこいを控える」と回答した割合が最も少ない状況であった。

減塩については男女ともに年齢があがるにつれて意識が高まるが、脂質を控えることについては、男女共に30～50歳代に意識が低い状況であった。

【評価委員の意見】

○生活習慣病が気になる年代になった頃には、健康・栄養教育を受ける機会は特定保健指導などに限られてしまいます。現在、小学校の食育では、地場産物などの食材への理解を深める食育の機会が多いようですので、それにプラスして生活習慣病予防の視点を強化していただくのがよいかと思います。小学生の場合は、学校で受けた食育の内容について家庭内で保護者に話す機会も多いかと思うので、保護者世代へもよい影響があるのではないのでしょうか。

【今後の方針・取組等】

食育取組の評価において、事業評価は A 評価（計画通り進捗した）が50%、B 評価（概ね計画どおり進捗した）が50%と半々で、B 評価は「糖尿病性腎症重症化予防事業」であった。

目標達成にはつながったが、引き続き取組をすすめるため、未病対策事業等において、減塩や脂質のバランス等について普及をすすめていく。また、働き盛り世代の生活習慣病予防に向けた減塩や脂質の適正量について、さらに取組が必要である。

糖尿病性腎症重症化予防事業については、評価指標の治療中断者の受診率向上や保健指導後の検査数値改善等をめざし、市内医療機関との連携体制を構築していく。

<その他、関連する食育取組>に記載の事業等においても、多様な世代に対し、普及啓発をしていく必要がある。

- 未病対策事業での減塩・脂質バランス等の普及
- 糖尿病性腎症重症化予防事業検討会議開催と地域連携体制の構築
- 就業者への食育事業・測定会等での普及啓発

食育目標4 食をきっかけにコミュニケーションを深めよう



基本施策(8) 家庭や学校等での食を通じたコミュニケーションの推進

家庭や学校での食を通し、家族や友人らと共に食事のマナーや食文化、調理を学んだり、食に対する感謝の気持ちを持ち、食事の楽しさを実感できる食育の推進を図ります。

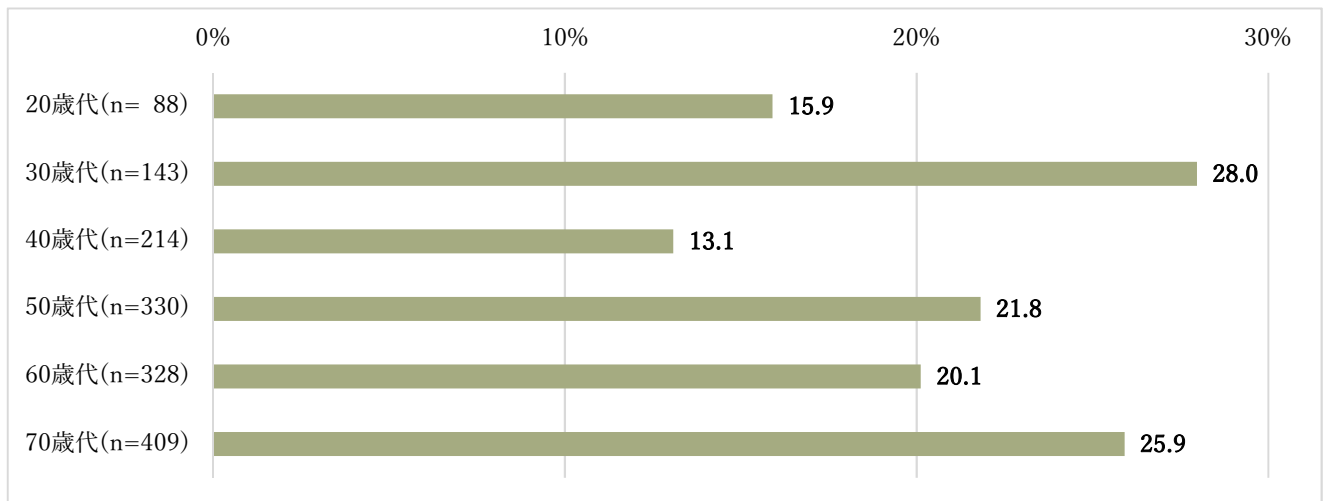
めざす姿→家族や友人らと食について話し合い取組ができる機会があり、食事の楽しさを実感し、豊かな心が育まれている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

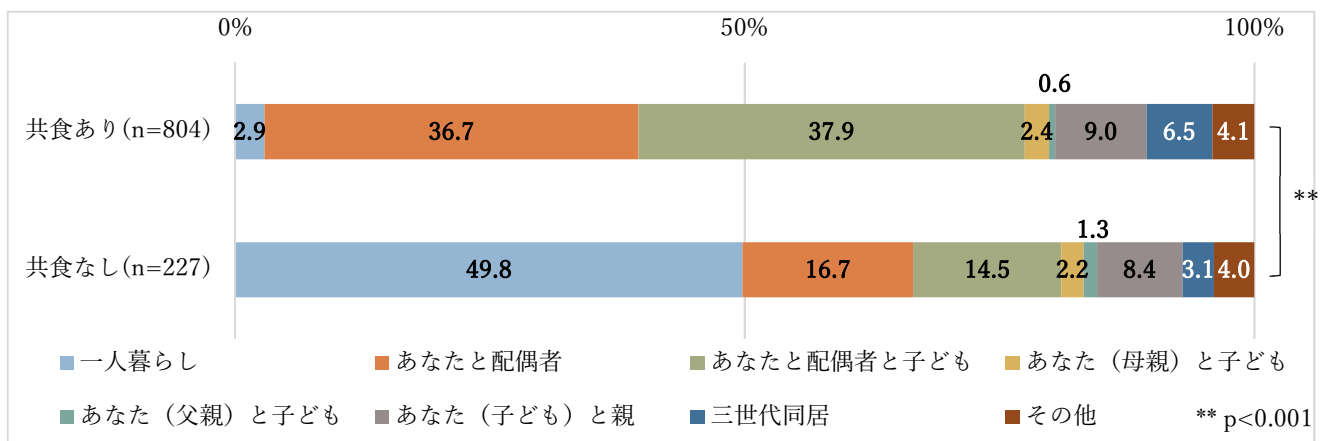
目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
⑩ 1日に1回も共食をしていない人の割合	19.4%	21.7% ▼	17%以下

【関連データ】

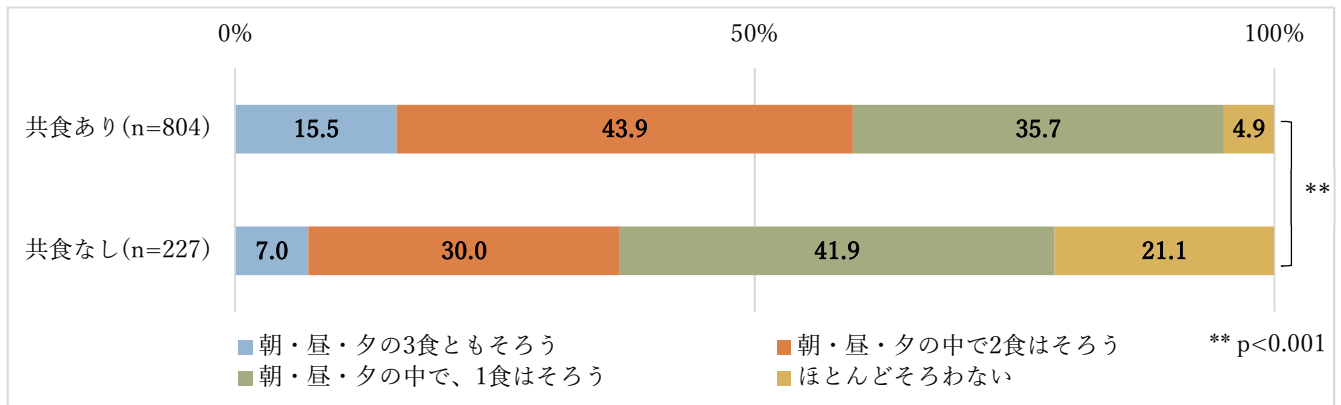
R6年度 1日に1回も共食をしていない人の割合(年代別)



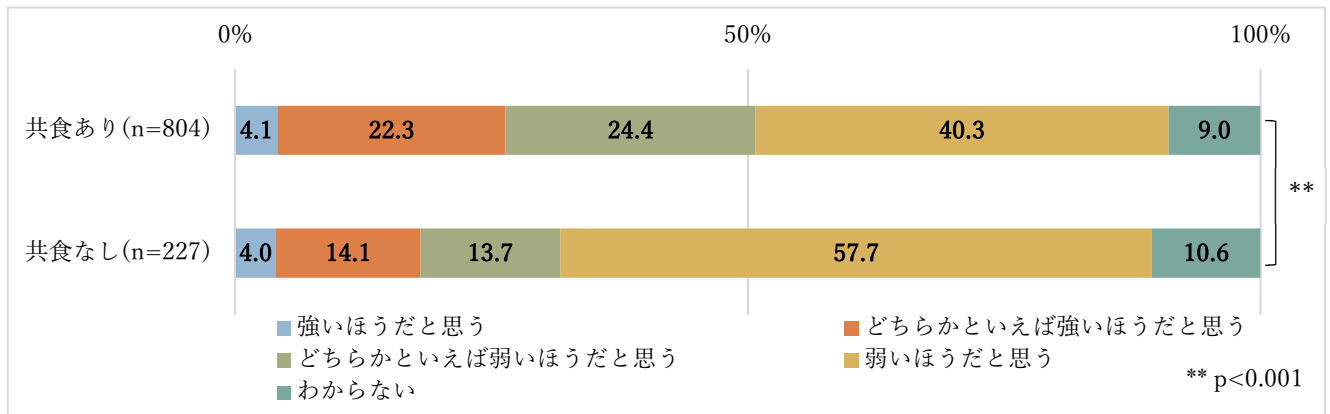
R6年度 世帯の状況(共食の有無別)



R6 年度 あなたは朝食、昼食、夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか（共食の有無別）



R6 年度 あなたにとって、ご自分と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか（共食の有無別）



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
24	給食時間等における食育（保育所）	保育所等で、友達や先生と一緒に食事をする共食を通じて、食を楽しむ機会を得る。また、栄養バランスの良い食事をとり、食事の準備から片付け、手洗い、食器・食具の扱い方などを通じて、基本的な食事のマナーを身に付ける。	A:100%
25	行事食、郷土料理、特別献立の実施（小学校）	日本及び外国に伝わる行事食や郷土料理、学校行事等に関係した特別献立を学校給食で実施する。	

<その他、関連する食育取組>

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 10 家庭地域との連携（小・中学校） | 18 給食時間等における食育（小学校） |
| 19 給食時間等における食育（中学校） | 28 保育所等における食育活動への支援 |
| 29 学校における食育活動への支援 | 44 いせはら食育セミナー |

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、「1日に1回も共食をしていない人」の割合が増加した。年代別にみると、「30歳代」と「70歳代」に共食をしていない人の割合が多かった。「共食をしていない」と回答した者を世帯別に比較すると、「一人暮らし世帯」の割合が多く、栄養バランス別に比較すると「主食・主菜・副菜がそろっていない」「地域のつながりが弱いほうだと思ふ」の割合が多かった。

食育取組の評価において、事業評価はほとんどが A 評価（計画通り進捗した）であったが、目標達成につながる効果的な事業実施とならなかった。

【評価委員の意見】

- 30歳代の一人暮らしの人に共食や、主食・主菜・副菜の揃った食事を求めるのは難しい気がします。主食・主菜・副菜が揃ってなくても、栄養バランスの取れた食事もあることから、主食・主菜・副菜の3つを揃えるというよりは、1品でも栄養バランスが取れるメニューの紹介などをした方がよいかもしれません。

【今後の方針・取組等】

「共食をしていない人」が、30歳代や高齢者で一人暮らし世帯が多く、地域のつながりの弱さとの関連もみられたため、現在の食育取組に、高齢者の一人暮らし世帯向けへの共食の取組を充実させていく必要がある。

また、共食と食事バランスへの配慮について関連がみられたため、一人暮らしの人が手軽に作れる「栄養バランスへの配慮」がされた食事について、普及啓発をしていく。

<その他、関連する食育取組>に記載の事業等においても、共食の重要性について、引き続き普及啓発をしていく必要がある。

- 伊勢原市ヘルスマイト等による高齢者向け食育事業
- 高齢者の通いの場での健康支援型配食サービスの活用
- 一人暮らしの方向けに手軽に準備できる食事バランスのとれたメニューの普及啓発

基本施策(9) 子どもの頃からの食育体験の推進

家庭、学校、地域等で連携し、様々な場面での調理体験や食に関する学習の機会を増やし、食の自立におけた食育の推進を図ります。

めざす姿→子どもの頃から調理やお手伝いの体験を重ねたり、食に関する学習活動や学校給食等を通じ、食を身近に感じ、関心を持ち続け、成長にあった食生活に対する理解をしている。

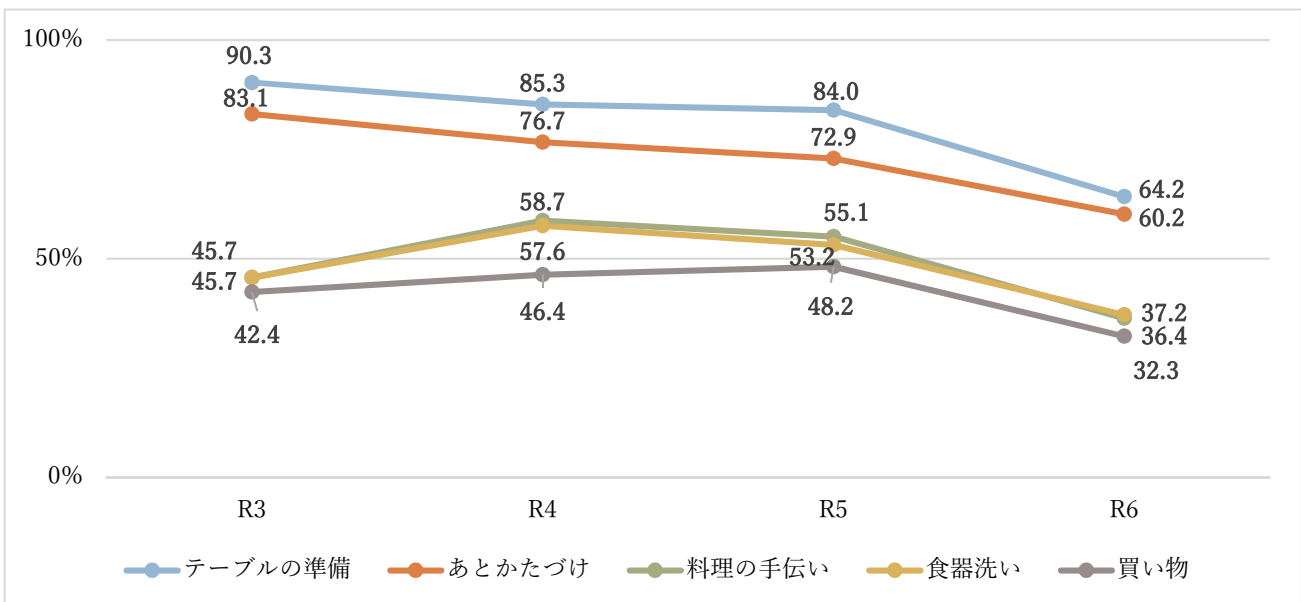
【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
①家で料理の手伝いをしている中学生の割合	45.7%	36.4% ▼	46%以上

【関連データ】

◎対象者: 中学2年生 (674名)

中学生が食事作りの手伝いをする内容とその割合の推移



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
26	クッキング保育 (保育所)	クッキング保育を通じて食事作りに関わり、調理する楽しさを育てる。	A:100%
27	食育料理コンテスト	児童・生徒対象の食育料理コンテスト。小学生・中学生・高校生の3部門に分け、朝食やお弁当作りなどをテーマにコンテストを実施する。	
28	保育所等における食育活動への支援	保育所等の食育活動を充実させるため、栄養士や給食調理員、保育士などへ情報提供や研修会等を行う。	
29	学校における食育活動への支援	学校における食に関する指導を充実させるため、「食育担当者会議」や「学校における食育研修会」を実施し、教諭や栄養教諭等への情報提供や研修を行う。	

その他、関連する食育取組

11 思春期栄養改善事業 14 各教科等での食に関する指導 16 バイキング給食（保育所）
36 総合的な学習の時間等での食育の取組

【達成状況の背景・要因】

3年前と比較し、「家で料理の手伝いをしている中学生の割合」が減少した。料理の手伝い以外の項目についても、全てが減少していた。

食育取組の評価において、事業評価はほとんどが A 評価（計画通り進捗した）であったが、目標達成につながる効果的な事業実施とならなかった。

【評価委員の意見】

○家で料理の手伝いをしている中学生の割合が減少しているが、手伝いをしなくなったというよりは、部活や習い事などで手伝いをする時間がないように思います。できるだけ、食には関わりをもってほしいと思います。

○食に興味を持つことが大きいと思いました。学校では調理実習等で食に興味を持てる場があるので、その興味を家庭でつないでいこうと思います。

【今後の方針・取組等】

家での料理手伝いやそれ以外の食に関する手伝いをしている中学生の割合が、年度ごとに比較すると令和5年度から令和6年度にかけて、急に減少していることから、引き続き経過を確認しつつ、簡単な料理や料理以外の手伝いも含め、様々な場面での食育の機会を増やしていく。

<その他、関連する食育取組>に記載の事業等においても、調理体験や食に関する学習機会を増やし、引き続き普及啓発をしていく。

- 食育料理コンテスト
- 各教科等での食に関する指導
- 学校における食育活動への支援
- 子どもの頃からのお手伝い体験等の保護者に向けた普及

基本施策(10) 地域における食を通じたコミュニケーションの機会の推進

地域における通いの場や、ボランティアによる料理講習会等と連携し、地域やコミュニティなどで、食に関する学びを深め、知人とコミュニケーションの推進につながる食育を図ります。

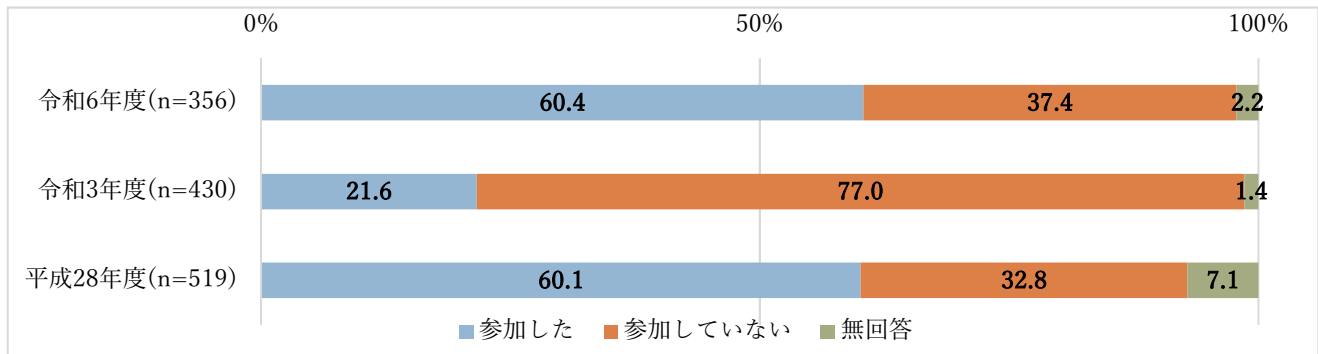
めざす姿→誰かと一緒に食事をすることが難しい人でも、食を通じたコミュニケーションをとる機会があり、食事の楽しさを実感できている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
⑫地域等で過去1年間に共食など、集う機会を持った人の割合	21.6%	60.4% △	63%以上

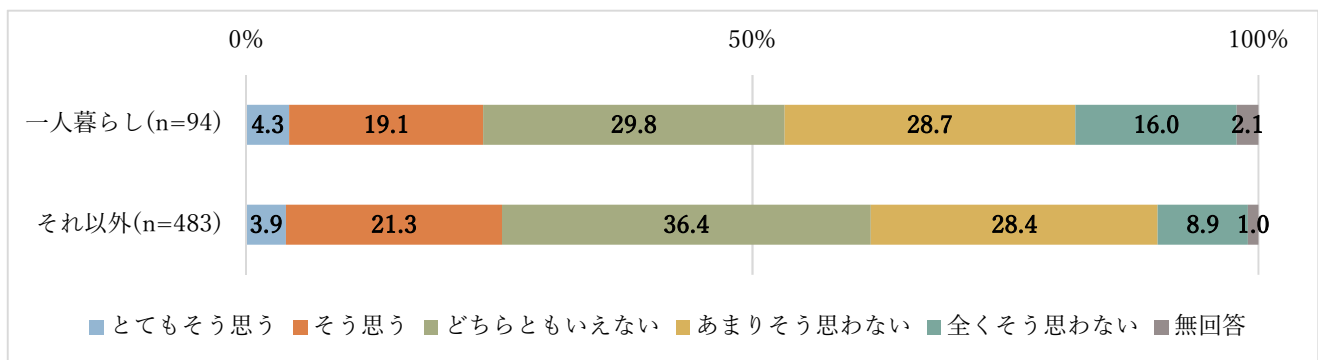
【関連データ】

地域や所属コミュニティでの食事会に参加したいと思う人の内、過去1年間の食事会への実際の参加の有無
(年度別比較)

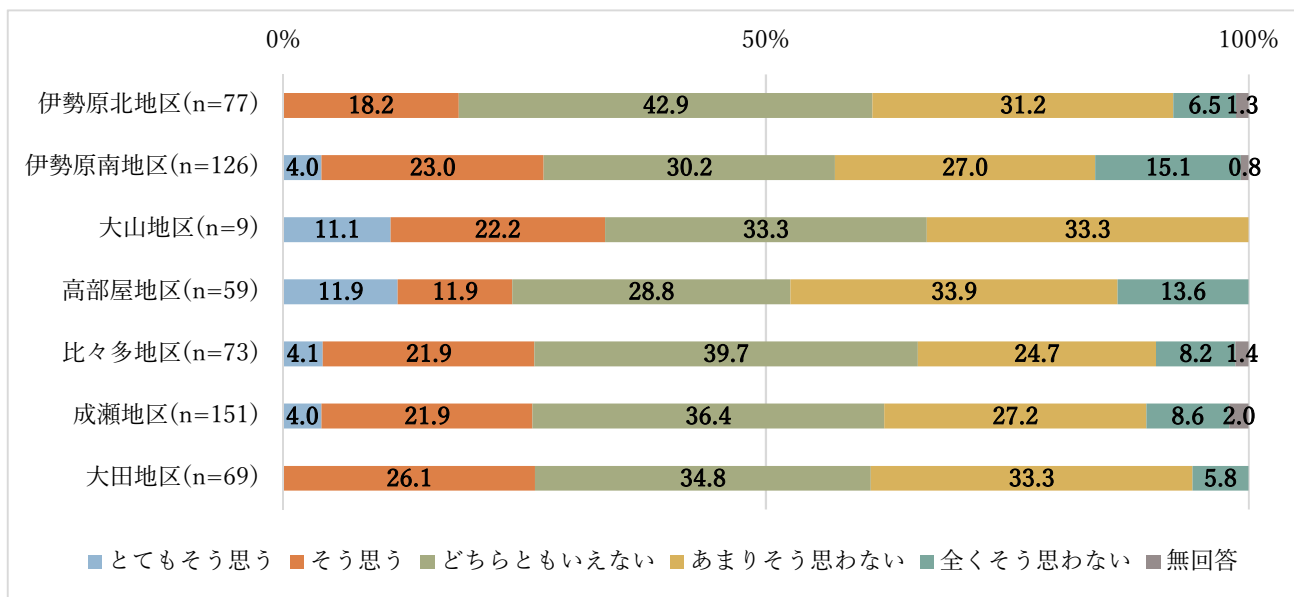


◎対象者:65歳以上 男女 577名(一人暮らし94名 それ以外483名)

R6 年度 地域や所属コミュニティでの食事会に参加を希望しますか(世帯状況別)

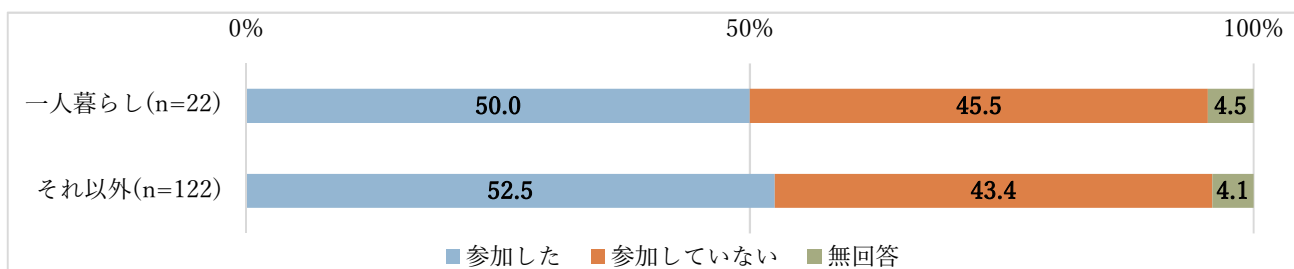


R6 年度 地域や所属コミュニティでの食事会に参加を希望しますか (地区別)

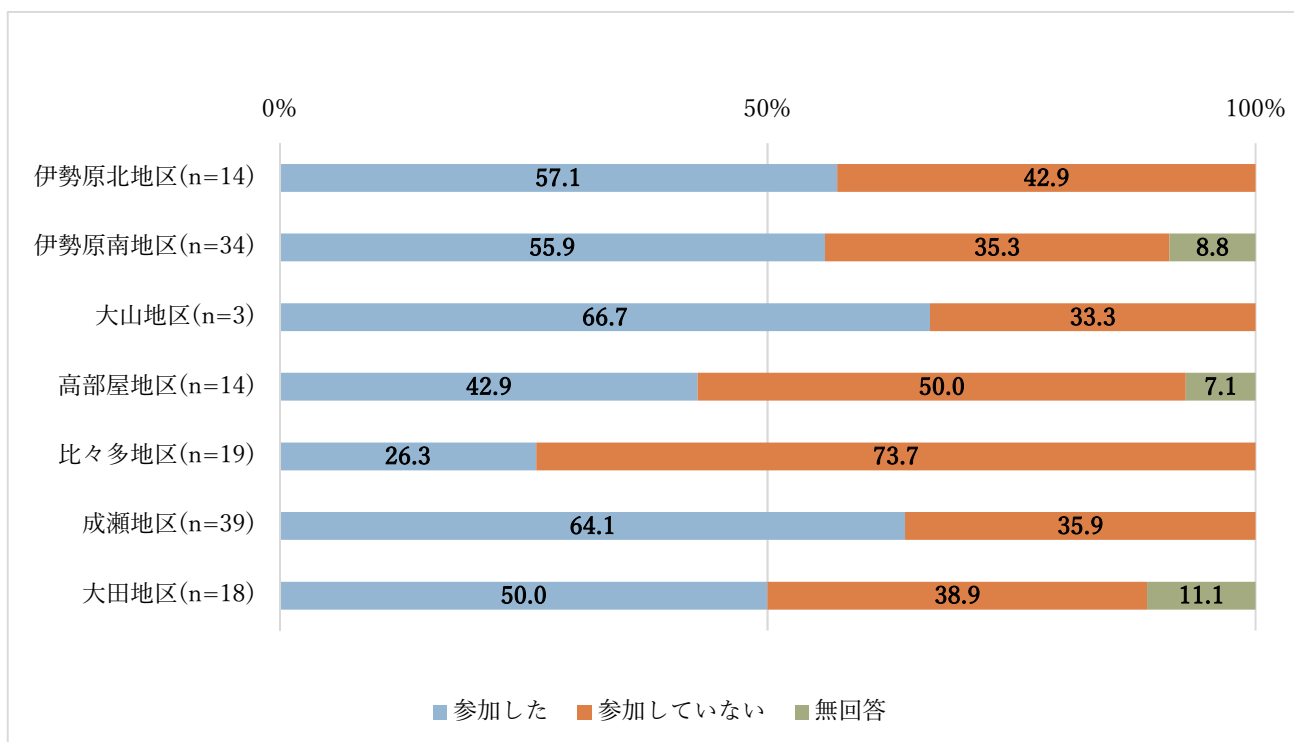


上記の対象者のうち、「とてもそう思う」「そう思う」と回答した144名

R6 年度 過去1年間に地域や所属コミュニティでの食事会に参加しましたか (世帯状況別)



R6 年度 過去1年間に地域や所属コミュニティでの食事会に参加しましたか (地区別)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
30	ヘルスマイト養成講座	食を通じた健康づくりをするボランティアの養成講座を実施。終了後は伊勢原市ヘルスマイトとして食育の普及啓発を担う。	A:88% B:12%
31	食育に関するボランティア育成支援事業	ヘルスマイト等食育に関するボランティア活動支援のための育成講座等の実施。	
32	通いの場等における食育事業	住民主体の地域の通いの場や地域包括支援センター等と連携しながら、歯科保健事業と連携した食育講座や管理栄養士による相談を実施。	
33	伊勢原市ヘルスマイトによる食育講習会	市内6地区公民館を拠点に全てのライフステージを対象に食育講習会を実施する。 男の料理教室、生活習慣病予防料理教室、介護予防料理教室、おもてなし料理など。	
34	公民館における食育事業	「幼児家庭教育学級」「男性の料理教室」「高齢者学級」や夏休みにおける親子を対象とした講座など。	

その他、関連する食育取組

7 生き生き健康教室(短期集中予防サービス事業)

20 食育出前講座

44 いせはら食育セミナー

【達成状況の背景・要因】

コロナ禍であった3年前と比較し、「地域等で過去1年間に共食など、集う機会を持った人」の割合が増加し、コロナ禍前の割合に戻った。

一方、食事会への参加希望や実際に参加したかどうかについて、一人暮らしの高齢者とそうでない人を比較すると、一人暮らしの人の方が参加希望する人が少なかった。高齢者について地区別に比較すると、参加した人の割合が比々多地区、高部屋地区、大田地区の順に少ない状況だった。

食育取組の評価において、事業評価は A 評価(計画通り進捗した)が88%、B 評価(概ね計画どおり進捗した)が12%で、B 評価は「公民館における食育事業」であった。

【評価委員の意見】

○地域における食を通じたコミュニケーションの機会の推進については、様々な料理レシピがありますが、高齢者や男性に対するものもあるとよいと思います。

○子どもに興味を持ってもらえるよう、地域のイベントで野菜を350g計るコーナーを作りました。初めて野菜に触れる子や、親御さんと会話をして野菜を計る様子を見たりしたのでよいと思いました。高齢者は遠くまで足を運ぶことが難しいので、より地域に密着して、近所でこういった企画や食事ができるとよいと思います。

○一人だけで食事をしていると、食べたり、食べなかったり、同じものばかり食べてしまっていたりという事もあるのでは。公民館などの施設だけでなく、近所の人たちが集まって、会食するという事例が広がっていくとよいと思います。

○遠くに行けない高齢者が多いという観点から、高齢者がその会場に行くことが難しい場合なども考えられるため、送迎等の手段を取り入れることも必要と思いました。

【今後の方針・取組等】

目標達成には近づいているが、引き続き取組を推進するため、通いの場等における食育事業や伊勢原市ヘルスマイトによる食育講習会など、地域での共食の取組について、特に高齢者対象の事業に関しては、参加した人が少なかった地区を中心に、場や回数の充実をすすめていく。また、一人暮らしかどうかに関わらず、高齢者全体に対して地域での食事会など参加希望する人が共食の機会を得られるよう、情報の周知をすすめる。

<その他、関連する食育取組>に記載の事業等においても、多様な世代に対し、場を設ける。

- 対象地区に対する食育に関するボランティア支援の推進
- 地域包括支援センター等と連携した対象地区の通いの場での食育事業

食育目標 5 食と環境の調和を理解し感謝の心を育もう



基本施策(11) 学校や地域などと連携した地産地消や体験型農業の推進



地産地消により環境負荷の低減につながるよう、地域でとれた旬の農産物を活用することや、栽培・農業体験等を通じ、自然の恵みや生産者への感謝の心を育む食育を推進します。

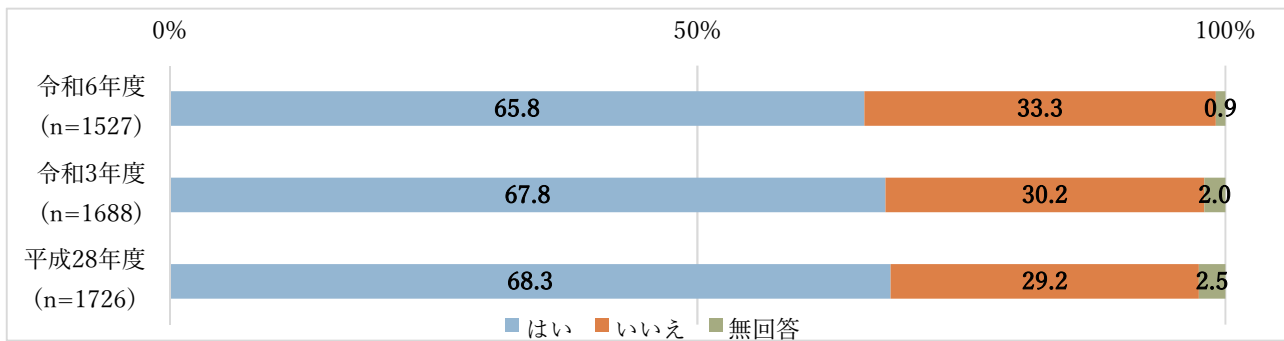
めざす姿→身近に農業を体験でき、食を取り巻く環境や情報への正しい理解を深め、環境に配慮した農林水産物や食品の購入、地産地消を実践でき、生産者への感謝の心を持っている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

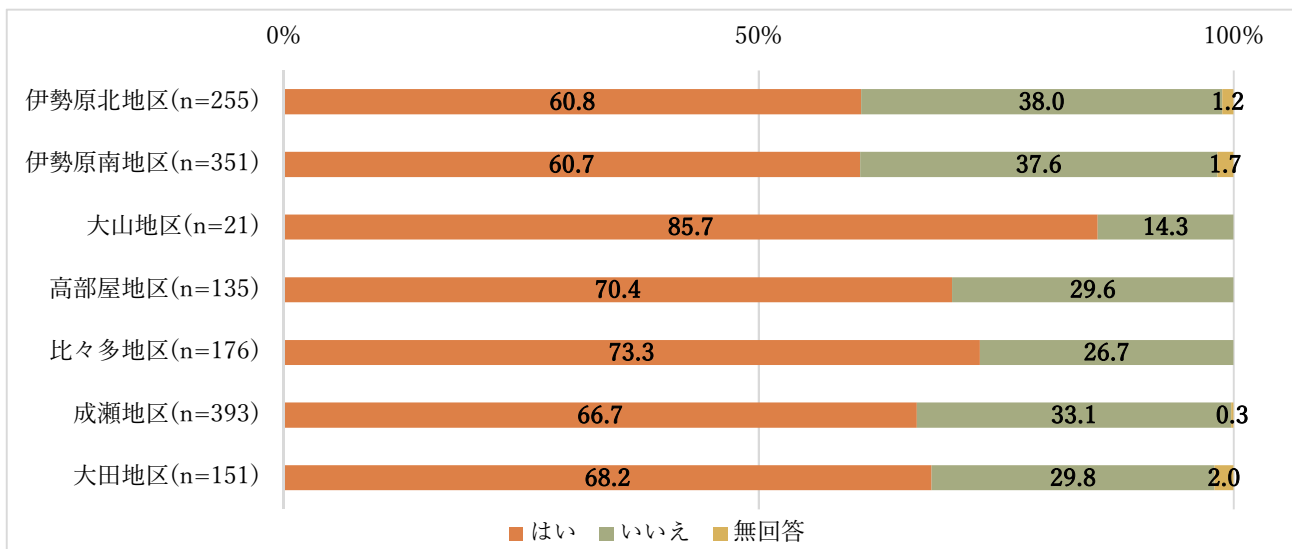
目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
⑬栽培・収穫・農業体験をしたことがある人の割合	67.8%	65.8% ▼	70%以上

【関連データ】

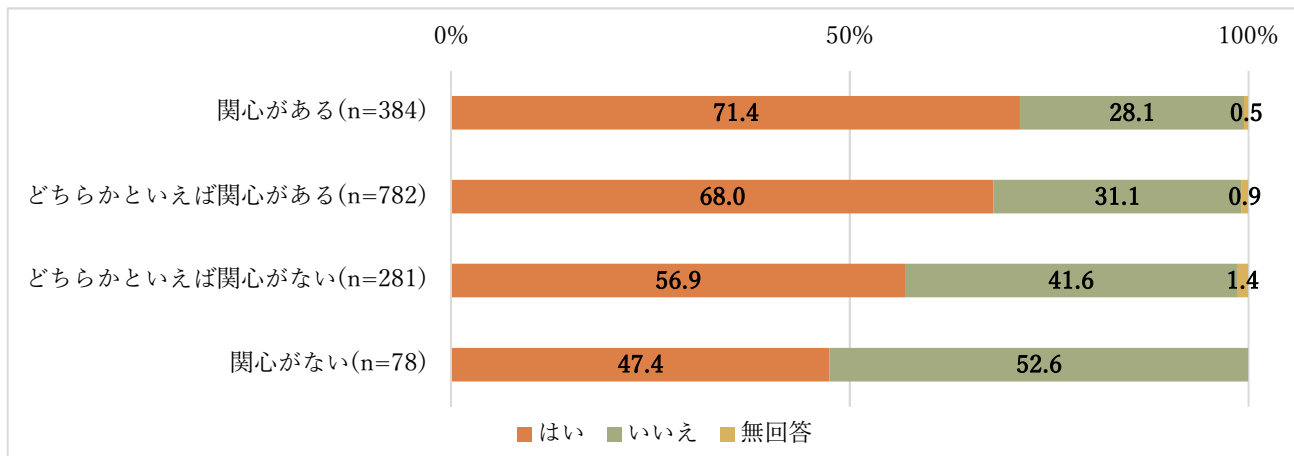
H28年度から令和6年度の比較 食物(米や野菜、果物など)の栽培や収穫の体験の有無



R6年度 食物(米や野菜、果物など)の栽培や収穫の体験の有無(地区別)



R6 年度 食物(米や野菜、果物など)の栽培や収穫の体験の有無(食育への関心別)

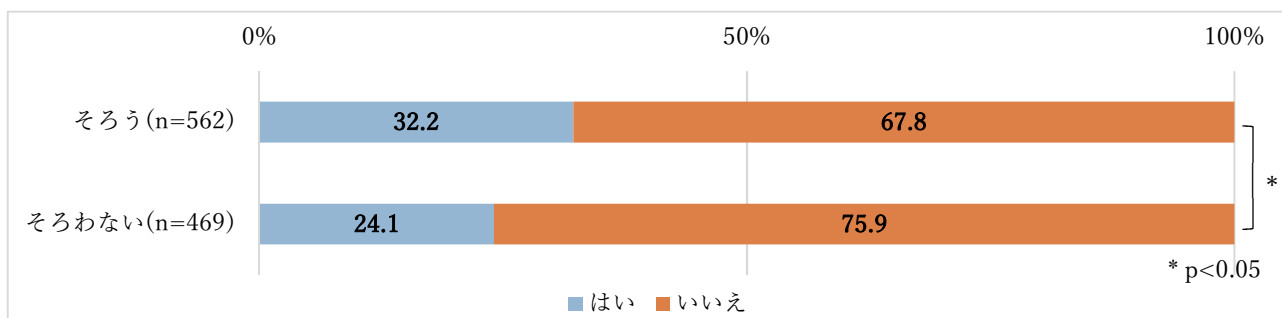


◎対象者: 全年代 男女 1031名

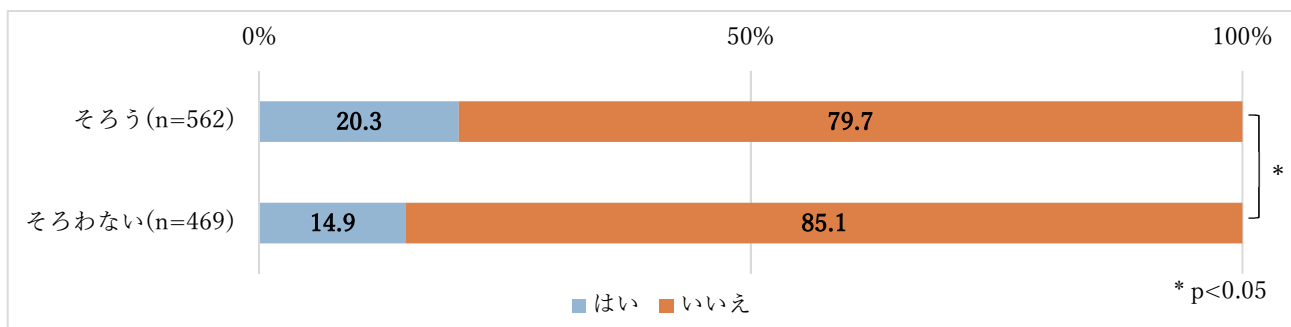
主食・主菜・副菜がそろう者(朝食、昼食、夕食で主食・主菜・副菜のそろった食事が1日2回以上) 562名

主食・主菜・副菜がそろわない者(朝食、昼食、夕食で主食・主菜・副菜のそろった食事が1日1回以下) 469名

R6 年度 家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした(中学生の頃)



R6 年度 家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした(16~18歳の頃)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
35	保育所等での栽培・農業体験	園内菜園等において、食材を育てることを通して食材への興味・関心を高め、自然の恵みや感謝の気持ち、いのちを大切にすることを育む。	A:60% B:40%
36	総合的な学習の時間等での食育の取組	地域や学校、児童生徒の実態等に応じて、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方について追究を深めたり、農業体験等を通して自分の食生活全般を振り返り、よりよい生活習慣や食習慣を考える。	
37	農業体験事業	・みかんの木オーナー制度 消費者がみかんを収穫できる権利を買い、収穫を楽しむことができる制度であり、地元農産物の消費拡大を図る。(その年の生育状況によって、募集できない年もある) ・米作り(谷戸田オーナー制度)における栽培から収穫までの農業体験を通じ、食育の推進や谷戸田の原風景保全を図る。	
38	農業に関するイベント	・畜産まつり 牛乳や肉などの農畜産物の販売、牛の乳搾りやブラッシング体験、畜産クイズ大会などを行う。	
39	市民農園	市民農園「アグリパーク伊勢原八幡谷戸ふれあいガーデン」258区画と「ファームパーク上平間」52区画、「ファームパーク八幡台」54区画がある。	

その他、関連する食育取組

25 行事食、郷土料理、特別献立の実施

44 いせはら食育セミナー

【達成状況の背景・要因】

「栽培・収穫・農業体験をしたことがある人」の割合を3年ごとに比較したところ、減少している。また、地区別にみると「伊勢原南地区」と「伊勢原北地区」にその割合が少なかった。中学生や16～18歳の頃に「栽培・収穫・農業体験をしたことがある人」は、大人になってから「主食・主菜・副菜がそろっている食事」をしている人の割合が高く、また、「食育への関心」も、「栽培・収穫・農業体験をしたことがある人」の方が高い結果となっており、学校や地域などと連携した地産地消や体験型農業の推進が、食育に効果的な取組であることが分かった。

食育取組の評価において、事業評価はA評価(計画通り進捗した)が60%、B評価(概ね計画どおり進捗した)が40%で、B評価は「農業体験事業」と「市民農園」であった。

【評価委員の意見】

○地域や学校等で行った農業体験が、大人になってからの食生活に対して重要になるというデータが出ているので、行政と連携を取りながら食育に取り組んでいきたいと思ひます。

○「農業体験事業」「市民農園」の実地の際に、農業者の苦勞(例えば有害鳥獣等による収穫量の減少や被害)などについても触れる事が出来れば、より農業への理解が進むと思ひます。

【今後の方針・取組等】

「農業体験事業」と「市民農園」については、天候や農業者の高齢化、管理者の変更等の影響も大きく、安定した実施ができない状況にあるため、＜その他、関連する食育取組＞に記載の事業等においても、多様な世代に対し、普及啓発をしていく必要がある。

- 保育所や学校等での農業体験事業の普及
- 各家庭でできる栽培・収穫体験の普及

基本施策(12) 学校給食や各食育事業における地場産物等の活用の継続

学校給食や市の食育事業等を通じて、地元の旬の食材の活用や和食文化の継承をすすめ、地域の自然、食文化、農業、産業等に関する理解を深め、食文化の次世代継承や地域の活性化、流通に要するエネルギーの削減など地産地消による食育の推進を図ります。

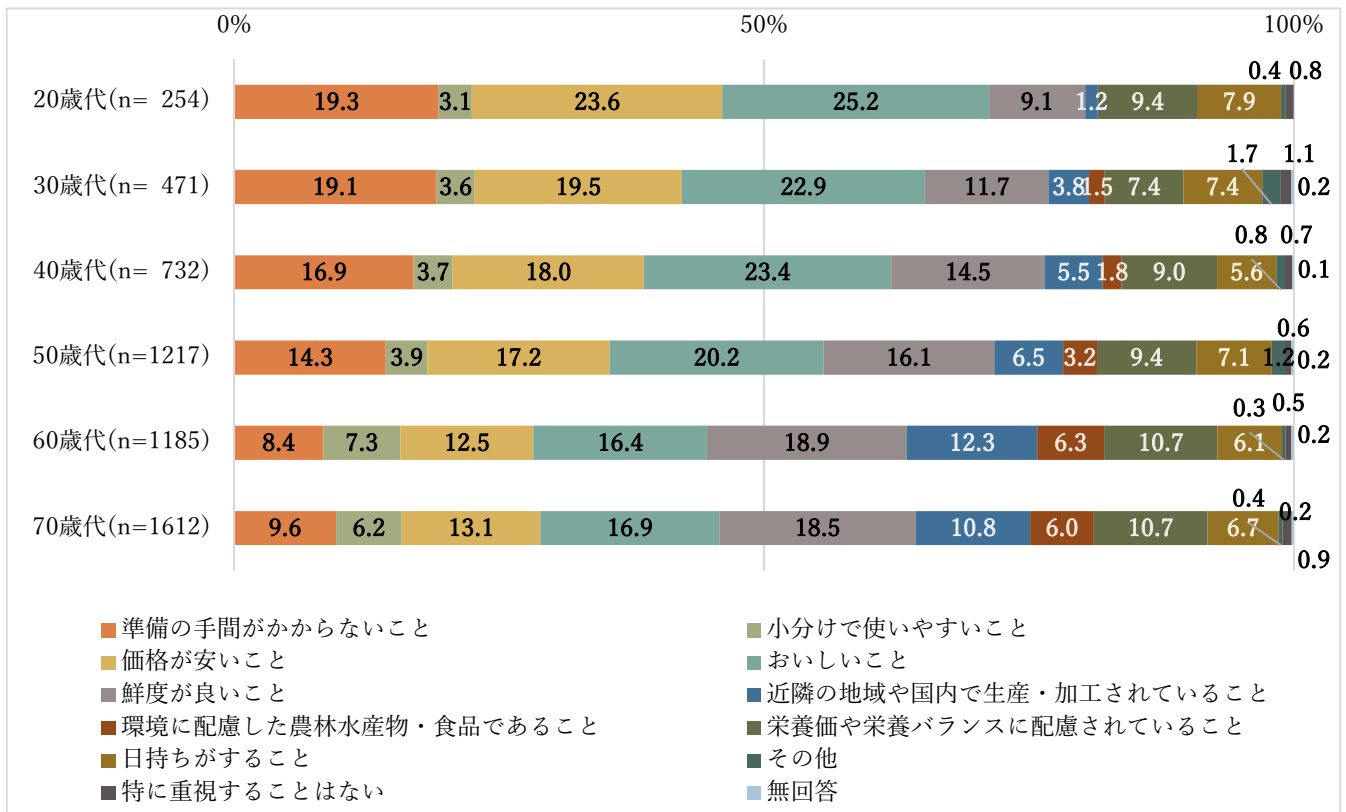
めざす姿→給食や食育の取組等を通して、地域でとれた旬の食材や郷土料理を食べることで、地産地消や和食文化などを学び、また環境負荷の低減につなげている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
⑭小学校給食で1年間に地場産野菜を使用する回数	102回	107回△	110回

【関連データ】

R6年度 ふだん食品や料理を選択する際に重視していること(複数回答・年代別)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
40	保育所給食における地場産物の使用推進	年間を通して給食食材に地場産物を使用する。	A:75% B:25%
41	小学校給食における地場産物の使用推進	「かながわ産品学校給食デー」や「学校給食地場野菜使用推進事業」を継続実施し、拡充する。給食食材における地場産物の使用。	
42	地場産料理レシピ集等の普及	市栄養士が作成した地場産料理レシピ集等の普及をする。	
43	伊勢原市の農畜産物を用いたメニューの紹介	パンフレット等で特産品及び特産品を用いたメニュー等を紹介し、伊勢原の農産物の情報発信をする。	
44	いせはら食育セミナー	食文化の次世代への継承を図るため、和食文化や地域の郷土料理を活用した食育講座等を実施する。また、地元の旬の食材を活用するなど地産地消の普及をすすめる。	

その他、関連する食育取組

- | | |
|---------------------|---------------------|
| 2 インターネット等による食育情報発信 | 18 給食時間等における食育（小学校） |
| 19 給食時間等における食育（中学校） | 24 給食時間等における食育（保育所） |
| 25 行事食、郷土料理、特別献立の実施 | 27 食育料理コンテスト |

【達成状況の背景・要因】

「小学校給食で1年間に地場産野菜を使用する回数」について計画的に増やしている。「ふだん食品や料理を選択する際に何を重視していますか」を年代別に比較すると、「近隣の地域や国内で生産・加工されていること」を重視している人は、60歳代までは年代があがるごとに増加しているが、60歳代でも12.3%であった。一方、鮮度が良いことについては、同じく60歳代が最も高く、18.9%であった。一方、若い世代ほど、「おいしいこと」「価格が安いこと」を重視している。

食育取組の評価において、事業評価はA評価（計画通り進捗した）が75%、B評価（概ね計画どおり進捗した）が25%で、B評価は「伊勢原市の農畜産物を用いたメニューの紹介」であった。

【評価委員の意見】

○学校給食で地場産物を使用していきたいが、農家の方が給食に回せるだけの量を作っていないかったり、天候に左右されたりと、なかなか進まないのが現状です。できるだけ、子どもたちには伊勢原産の食材を食べてもらい、より伊勢原に愛着をもってもらいたいと思っています。

【今後の方針・取組等】

若い世代も含めた多様な世代に啓発していく必要があるため、＜その他、関連する食育取組＞に記載の事業等においても、多様な世代に対し、地域でとれた旬の食材や郷土料理を食べることで、地産地消や和食文化などを学び、また環境負荷の低減につながるということを、啓発をしていく必要がある。

- 保育所や学校等での保護者におけた地場産物等の普及
- 伊勢原市の農畜産物を用いたメニューの普及
- いせはら農作物直売所マップの普及

基本施策(13) 持続可能な食や食の安全性等に関する関心を高め、知識を得られる食育の推進

食の循環が環境へ与える影響や食品ロス削減、環境保全型農業の推進等、SDGsを意識した食と自然との関わりを理解し、その実践をすすめます。また、食の安全性や災害時に備えた食生活の知識を深められる食育の推進を図ります。

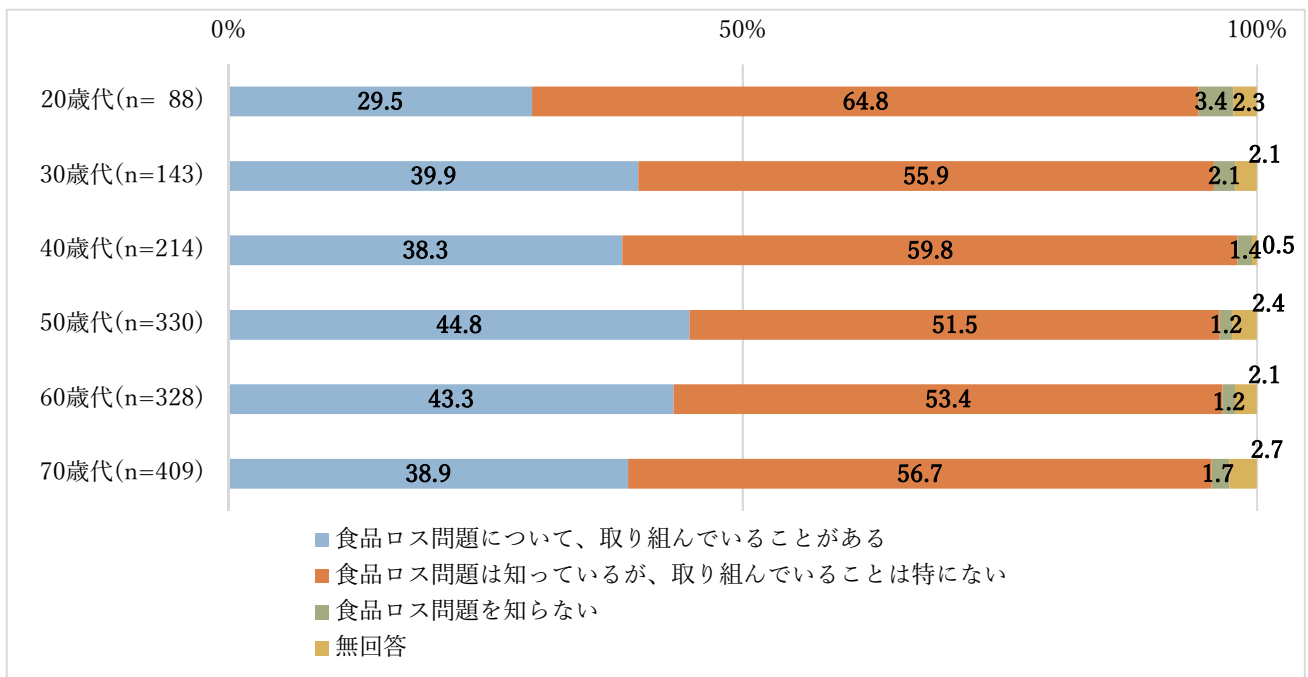
めざす姿→自然の恩恵の上に食生活が成り立つことを意識し、災害時への備えや食品ロス削減の取組を実践できている。

【指標の達成状況】中間評価結果 ◎:目標を達成した、△:目標には至らないが基準値より数値が改善した、▼:基準値より数値が後退した

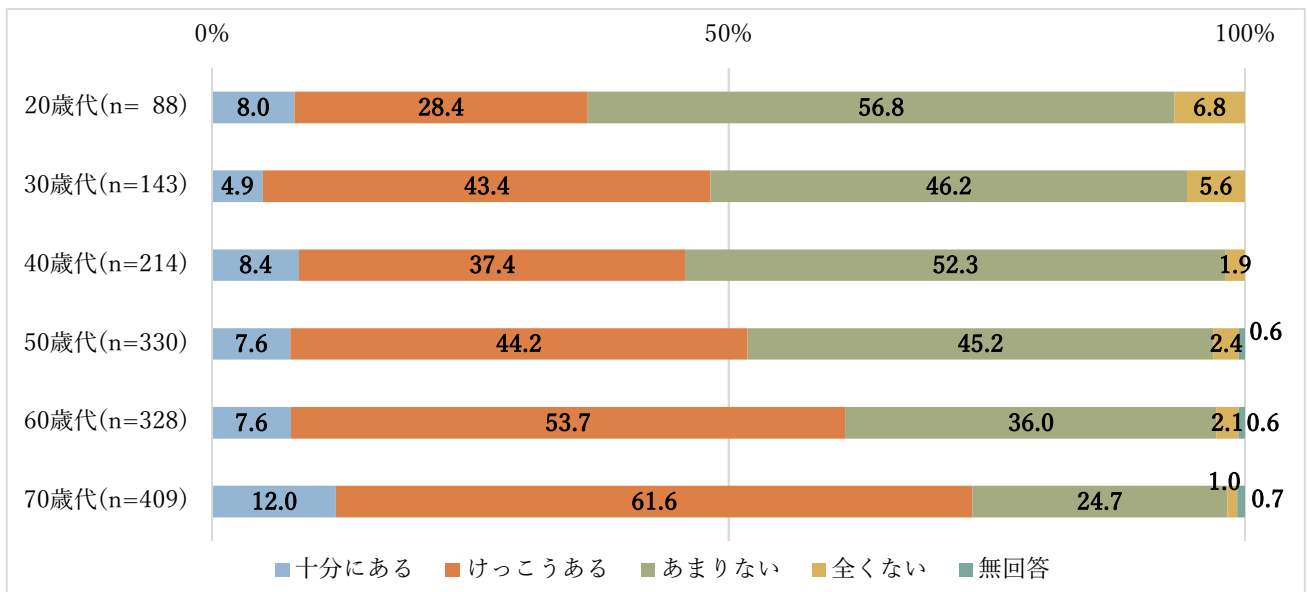
目標達成のための指標	現状値 (R3)	中間評価 (R6)	目標値 (R9)
⑮食品ロス削減のために、何らかの行動をしている人の割合	38.4%	40.5%△	50%以上

【関連データ】

R6年度 食品ロスを減らすために、取り組んでいることがありますか。(年代別)



R6年度 あなたはどの程度、食品の安全性に関する知識があると思いますか。(年代別)



【取組の状況評価】

事業番号	取組・事業名	内容	事業評価平均
45	食を通じた環境学習	市民向け環境負荷削減講座として「体験!エコ・クッキング」を実施。生ゴミの減量をはじめ、地元の旬の野菜を選ぶなど、買い物・調理・片付けの一連の流れを通して、環境に配慮した食生活を学ぶ。	A:63% B:37%
46	食の安全安心に関する情報提供	神奈川県、平塚保健福祉事務所秦野センター及び市のホームページ等により食の安全安心に関する情報提供の充実。食の安全安心に関する情報誌、資料等を積極的に提供する。	
47	栄養表示等普及啓発及び活用推進事業	食品表示法に基づく食品表示制度の普及並びに健康増進法に基づく特別用途食品制度の運用、さらに食品の健康保持増進効果等に関する誇大表示等の禁止に係る普及啓発を行う。	
48	食品ロス対策啓発活動	食品ロス削減の一環として、「フードドライブ」等を実施。賞味期限まで一定期間あり、常温保存できるレトルト食品や缶詰などの寄贈を呼びかけ、集まった食品は福祉団体などで活用する。	

その他、関連する食育取組

14 各教科等での食に関する指導 20 食育出前講座 44 いせはら食育セミナー

【達成状況の背景・要因】

「食品ロスを減らすために、何か取り組んでいることがあるか」を年代別に比較すると、どの世代も食品ロス問題を知っている人がほとんどであったが、20歳代が「食品ロス問題は知っているが、取り組んでいることは特にない」が多かった。また、「食品の安全性に関する知識(食品の表示の見方や食中毒について等)があるか」を年代別に比較すると、同じく20歳代が「あまりない」「まったくない」が多かった。

食育取組の評価において、事業評価はA評価(計画通り進捗した)が63%、B評価(概ね計画どおり進捗した)が38%で、B評価は「食を通じた環境学習」と「食品ロス対策啓発活動」であった。

【今後の方針・取組等】

特に若い世代への普及が必要なことから、<その他、関連する食育取組>に記載の事業等においても、若い世代を中心に、普及啓発をしていく。

- 食を通じた環境学習の推進
- 食品ロス対策啓発活動の普及
- 伊勢原市版食事バランスガイドの普及

4. まとめ

(1) 中間評価を踏まえた強化取組

中間評価を踏まえた今後の市食育推進計画において、現在の取組を継続しつつ、特に目標の指標から大きく後退していた次の4つの施策については、関係機関と連携しながら、取組を強化していきます。

食育目標	基本施策	強化取組	連携が必要な関係機関等
1:食育を通じて適正体重を維持しよう	(1) 思春期から青年期世代の適正体重の維持に向けた食育の推進	①20～30歳代やその前の思春期世代に向けた、適正体重の維持に向けた食育の取組	・ 中学校、高等学校 ・ 大学 ・ 職域 ・ 母子保健部門 ・ 保育園、幼稚園
2:若い世代も食への意識を高めよう	(4) 若い世代の朝食欠食や栄養バランス等の改善に向けた食育の推進	②20～30歳代やその前の中学生からの朝食欠食や栄養バランスの改善に向けた食育の取組	・ 教育委員会 ・ 養護教諭 ・ 栄養教諭 ・ J A
4:食をきっかけにコミュニケーションを深めよう	(9) 子どもの頃からの食育体験の推進	③食の自立に向け、子どもの頃からのお手伝いや調理体験の機会を増やす食育の取組	・ 小学校、中学校 ・ 教育委員会 ・ 家庭科教諭 ・ 栄養教諭 ・ 保育園、幼稚園 ・ 食育ボランティア
	(10) 地域における食を通じたコミュニケーションの機会の推進	④高齢者の地域の通いの場等での食育事業の充実と食育に関するボランティア等の活用の取組	・ 民生委員 ・ 地域包括支援センター ・ 介護予防部門 ・ 食育ボランティア

これらの取組を通じて、基本理念である「食で育み未来につなげる いのちときずな」を実現するため、市民をはじめ家庭や職場、地域と保育、教育、保健、医療、福祉、農業関係者、民間企業などの多様な食育に関わる関係機関・団体等が、庁内関係部局と連携していくとともに、特に強化取組については、計画の進捗状況や評価を行い「伊勢原市食育推進会議」や「伊勢原市庁内食育推進連絡会」等を通じて一体的に推進していきます。

5. 資料

(1)第4次伊勢原市食育推進計画(前期) 目標・基本施策別 事業計画・事業評価 一覧

→重点目標

目標	基本施策	目標達成のための指標と目標値	事業番号	取組名・事業名	担当課	R5	R6	食育基本施策別事業評価内訳				
								A(計画どおり進捗した)	B(概ね計画どおり進捗した)	C(計画どおり進捗できなかった)	D(事業を実施できなかった)	
●食育目標1 (重点目標) 食育を通じて適正体重を維持しよう	① 思春期から青年期世代の適正体重の維持に向けた食育の推進	①20～30歳代女性のやせ(BMI18.5未満)の人の割合:11%以下	1	思春期・青年期への食育	高校生のための食育推進事業	健康づくり課	A	A	100%	0%	0%	0%
			2		インターネット等による食育情報発信	健康づくり課						
	② 壮年期世代の適正体重の維持と生活習慣病の発症・重症化予防のための食育の推進	②40～50歳代男性の肥満(BMI25以上)の人の割合:35%以下 ③ゆっくりに食べて食べる意識がある人の割合:55%以上	3	壮年期への食育	就業者への食育事業	健康づくり課	A	A	50%	0%	50%	0%
			4		測定会時等の食育事業	健康づくり課						
			5	特定保健指導	保健年金課	C	C					
	③ 高齢者の適正体重の維持に向けた食育の推進	④高齢者の低栄養傾向(BMI20以下)の人の割合:17%以下	6	低栄養防止事業	健康づくり課	A	B	75%	25%	0%	0%	
			7	生き生き健康教室(短期集中予防サービス事業)	介護高齢課	A	A					
●食育目標2 若い世代も食への意識を高めよう	④ 若い世代の朝食欠食や栄養バランス等の改善に向けた食育の推進	⑤20～30歳代の朝食欠食(週に1～2日又はほとんど食べない)する人の割合:15%以下 ⑥朝食を毎日食べる中学生の割合:85%以上	8	母親父親教室	こどもみらい課	A	A	90%	10%	0%	0%	
			9	乳幼児健康診査等での食育及び個別食事相談	こどもみらい課	A	A					
			10	家庭地域との連携(小・中学校)	学校教育課・各小学校	A	A					
			11	思春期栄養改善事業	学校教育課・各小学校	A	A					
	⑤ 若い世代が食に関する関心を高め、知識を得られる食育の推進	⑦食育への関心がある若い世代(20～30歳代)の割合:73%以上	13	保護者への食育の普及・啓発(保育所)	保育・幼稚園課	A	A	100%	0%	0%	0%	
			14	各教科等での食に関する指導	教育指導課	A	A					
●食育目標3 (重点目標) 食育で生活習慣病の予防をめざそう	⑥ 主食・主菜・副菜をそろえた健全な食生活の推進	⑧主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている人の割合:60%以上	15	離乳食教室	こどもみらい課	A	A	100%	0%	0%	0%	
			16	バイキング給食(保育所)	保育・幼稚園課	A	A					
			17	産前産後サポート(すくすく健康相談)、産後ケア事業等での食育普及啓発	こどもみらい課	A	A					
			18	給食時間等における食育(小学校)	学校教育課・各小学校	A	A					
			19	給食時間等における食育(中学校)	学校教育課・各中学校	A	A					
	⑦ 減塩や脂質のバランス等、高血圧や脂質異常症・糖尿病などの予防・改善に向けた食育の推進	⑨健康のために以下の項目を心がけている人の割合 「塩分の多いものを控える」:40%以上 「あぶらっこいものを控える」:33%以上	21	生活習慣病予防に向けた食育	未病対策事業	健康づくり課	A	A	50%	50%	0%	0%
			22		個別栄養食事指導事業	健康づくり課						
●食育目標4 食をきっかけにコミュニケーションを深めよう	⑧ 家庭や学校等での食を通じたコミュニケーションの推進	⑩1日に1回も共食をしていない人の割合:7%以下	24	給食時間等における食育(保育所)	保育・幼稚園課	A	A	100%	0%	0%	0%	
			25	行事食、郷土料理、特別献立の実施(小学校)	学校教育課・各小学校	A	A					
	⑨ 子どもの場からの食育体験の推進	⑪家で料理の手伝いをしている中学生の割合:46%以上	26	クッキング保育(保育所)	保育・幼稚園課	A	A	100%	0%	0%	0%	
			27	食育料理コンテスト	健康づくり課	A	A					
			28	保育所等における食育活動への支援	保育・幼稚園課	A	A					
	⑩ 地域における食を通じたコミュニケーションの機会の推進	⑫地域等で過去1年間に共食など、集う機会を持った人の割合:63%以上	30	食に関するボランティア養成・育成事業	ヘルスマイト養成講座	健康づくり課	A	A	88%	12%	0%	0%
			31		食育に関するボランティア育成支援事業	健康づくり課						
			32	通いの場等における食育事業	健康づくり課	A	A					
			33	伊勢原市ヘルスマイトによる食育講習会	伊勢原市ヘルスマイト	A	A					
			34	公民館における食育事業	社会教育課	B	A					
●食育目標5 食と環境の関わりを認識し感謝の心を育もう	⑪ 学校や地域などと連携した地産地消や体験型農業の推進	⑬栽培・収穫・農業体験をしたことがある人の割合:70%以上	35	保育所等での栽培・農業体験	保育・幼稚園課	A	A	60%	40%	0%	0%	
			36	総合的な学習の時間等での食育の取組	教育指導課	A	A					
			37	農業体験事業	農業振興課	B	B					
			38	農業に関するイベント	農業振興課	A	A					
			39	市民農園	農業振興課	B	B					
	⑫ 学校給食や各食育事業における地場産物の活用	⑭小学校給食で1年間に地場産野菜を使用する回数:110回	40	保育所給食における地場産物の使用推進	保育・幼稚園課	A	A	75%	25%	0%	0%	
			41	小学校給食における地場産物の使用推進	学校教育課・各小学校	A	A					
			43	伊勢原市の農畜産物を用いたメニューの紹介	農業振興課	B	B					
			42	食文化の継承、地産地消へ向けた食育	地場産料理レシピ集等の普及	健康づくり課	A					A
⑬ 持続可能な食や食の安全性等に関する関心を高め、知識を得られる食育の推進	⑮食品ロス削減のために、向かひの行動をしている人の割合:50%以上	44	食を通じた環境学習	いせはら食育セミナー	健康づくり課	A	B	63%	37%	0%	0%	
		45		環境対策課	A							B
		46	食の安全安心に関する情報提供	平塚保健福祉事務所兼野センター	A	A						
		47	栄養表示等普及啓発及び活用推進事業	平塚保健福祉事務所兼野センター	A	A						
48	食品ロス対策啓発活動	清掃リサイクル課	B	B								

R5～6年度 取組事業評価 70事業(82%) 14事業(16%) 2事業(2%) 0事業(0%)

(2) 令和6年度伊勢原市民の食育に関する意識調査 単純集計結果

	(件)	(%)
	件数	割合
回答数	1,527	50.9

I あなた自身のことについてお伺いします。 問1:あなたの現在の満年齢をお答えください。

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
20歳代	88	5.8
30歳代	143	9.4
40歳代	214	14.0
50歳代	330	21.6
60歳代	328	21.5
70歳代	409	26.8
無回答	15	1.0

問2:あなたの性別をお答えください。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
男	657	43.0
女	863	56.5
その他	1	0.1
無回答	6	0.4

問3:あなたの身長・体重をお答えください。

身長

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
150 cm未満	80	5.2
150 cm～155 cm未満	230	15.1
155 cm～160 cm未満	296	19.4
160 cm～165 cm未満	304	19.9
165 cm～170 cm未満	254	16.6
170 cm～175 cm未満	184	12.0
175 cm～180 cm未満	114	7.5
180 cm以上	41	2.7
無回答	24	1.6

体重

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
40kg未満	18	1.2
40kg～45kg未満	99	6.5
45kg～50kg未満	152	10.0
50kg～55kg未満	273	17.9
55kg～60kg未満	234	15.3
60kg～65kg未満	233	15.3
65kg～70kg未満	153	10.0
70kg以上	303	19.8
無回答	62	4.1

BMI

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
やせ	144	9.4
標準	983	64.4
肥満	335	21.9
無回答	65	4.3

問4:世帯の状況を教えてください。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
一人暮らし	200	13.1
あなたと配偶者	487	31.9
あなたと配偶者と子ども	500	32.7
あなた(母親)と子ども	43	2.8
あなた(父親)と子ども	10	0.7
あなた(子ども)と親	121	7.9
三世同居	88	5.8
その他	71	4.6
無回答	7	0.5

問5:あなたの住んでいる地区を教えてください。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
伊勢原北地区	255	16.7
伊勢原南地区	351	23.0
大山地区	21	1.4
高部屋地区	135	8.8
比々多地区	176	11.5
成瀬地区	393	25.7
大田地区	151	9.9
無回答	45	2.9

問6:あなたの職業について教えてください。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
会社員(常勤)	422	27.6
公務員・団体職員(常勤)	69	4.5
自営業・会社経営	95	6.2
農林業	11	0.7
派遣職員・契約社員	51	3.3
パート・アルバイト	291	19.1
学生	30	2.0
家事専業	221	14.5
無職	301	19.7
その他	33	2.2
無回答	3	0.2

問7:あなたの就労時間において、夜勤はありますか。

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
ある	101	6.6
ない	970	63.5
就労していない	415	27.2
無回答	41	2.7

Ⅱ あなたのご体調や健康への意識・取り組みなどについてお伺いします。

問8:あなたは健康診査や健康診断などを受けていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
毎年受けている	1,103	72.2
毎年ではないが、受けている	235	15.4
ほとんど受けていない	179	11.7
無回答	10	0.7

問8で『1.毎年受けている』又は『2.毎年ではないが、受けている』と回答された方へ

副問8-1:健康診査などの結果、食事や運動、休養などご自分の生活習慣を見直していますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,338	100
見直している	716	53.5
生活習慣の見直しは勧められるが、見直していない	280	20.9
生活習慣の見直しを勧められていないので、見直していない	329	24.6
無回答	13	1.0

問9:定期的に病院で診療を受けていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
定期的に受けている	792	51.9
定期的ではないが受けている	250	16.4
ほとんど受けていない	473	31.0
無回答	12	0.8

問10:あなたは現在、健康だと思いますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
健康である	280	18.3
おおむね健康である	510	33.4
ふつう	517	33.9
あまり健康ではない	152	10.0
健康ではない	62	4.1
無回答	6	0.4

問11:あなたは日ごろ、ご自分の健康に気を配っていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
よく気を配っている	236	15.5
ある程度気を配っている	1,039	68.0
あまり気を配っていない	211	13.8
まったく気を配っていない	19	1.2
無回答	22	1.4

問11で『1.よく気を配っている』又は『2.ある程度気を配っている』と回答された方へ
副問11-1:健康のために気を配っていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,275	100
規則正しい食事をする	763	59.8
食べ過ぎない	648	50.8
甘いものを控える	336	26.4
塩分の多いものを控える	551	43.2
あぶらっこいものを控える	422	33.1
タバコを吸わない	594	46.6
お酒を飲みすぎない	391	30.7
よく眠る	408	32.0
運動する	307	24.1
野菜をしっかり取る	710	55.7
趣味をもつ	385	30.2
人と交流を持つ	333	26.1
その他()	29	2.3
無回答	229	3.8

問12:あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
やせたいと思っている	656	43.0
維持したいと思っている	794	52.0
太りたいと思っている	74	4.8
無回答	3	0.2

Ⅲ 栄養・食生活に関することについてお伺いします。

問13:あなたは、「食育」に関心がありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
関心がある	384	25.1
どちらかといえば関心がある	782	51.2
どちらかといえば関心がない	281	18.4
関心がない	78	5.1
無回答	2	0.1

問14:あなたは栄養や食生活に関する情報をどこから得ていますか。(あてはまるものすべてに○)

R6年度	件数	割合
全体	2,824	100
新聞	315	11.2
テレビ・ラジオ	841	29.8
パソコンで見るインターネットやSNSからの情報	310	11.0
スマートフォンで見るインターネットやSNSからの情報	512	18.1
広報いせはらや市のホームページ	102	3.6
週刊誌などの一般雑誌	70	2.5
学校・職場	101	3.6
健康に関する雑誌や本	113	4.0
市や保健福祉事務所のイベント	17	0.6
病院や診療所	151	5.3
友人・知人	156	5.5
家族	9	0.3
すでによく知っているから、特に得ていない	26	0.9
興味がないので、特に得ていない	75	2.7
その他()	14	0.5
無回答	12	0.4

問15:あなたは朝食をどのくらいの頻度で食べていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
週6~7日	1,205	78.9
週3~5日	108	7.1
週1~2日	52	3.4
ほとんど食べない	110	7.2
無回答	52	3.4

問15で『3.週1～2日』『4.ほとんど食べない』と答えた方へ
副問15-1:あなたが朝食を食べない理由は何ですか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	162	100
朝忙しいから	46	28.4
食欲がないから	50	30.9
太りたくないから	8	4.9
面倒だから	6	3.7
早起きできない又は寝ていたいから	20	12.3
お金をかけたくないから	3	1.9
その他()	26	16.0
無回答	3	1.9

副問15-2:あなたが朝食を毎日食べるためには、どのような工夫や準備があれば良いと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,244	100
自分で朝食を用意する手間がかからないこと	193	15.5
自分で朝食を用意する時間があること	204	16.4
朝早く起きられること	174	14.0
夕食や夜食を食べすぎていること	99	8.0
朝、食欲があること	148	11.9
ダイエットの必要がないこと	39	3.1
朝食を食べる習慣があること	177	14.2
朝食を食べるメリットを知っていること	55	4.4
夜遅くまで残業するなど労働時間や環境に無理がないこと	13	1.0
家に朝食が用意されていること	89	7.2
外食やコンビニ等で手軽に朝食をとることができる環境があること	32	2.6
その他()	21	1.7

問16:食事づくり、または食事づくりの手伝いをどのくらいしていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
毎日つくる、または手伝う	826	54.1
時々つくる、または手伝う	400	26.2
全くしない	265	17.4
無回答	36	2.4

問17:料理を人から直接おしえてもらう機会はありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
ある	441	28.9
ない	1,005	65.8
無回答	81	5.3

問17で『1.ある』と答えた方へ

副問17-1:誰から教えてもらうことが多いですか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	441	100
家族	229	51.9
友人	78	17.7
市の料理教室	1	0.2
食生活改善推進員(ヘルスマイト)	1	0.2
民間の料理教室など	10	2.3
インターネットの料理動画など	101	22.9
その他()	16	3.6
無回答	5	1.1

問18:伊勢原市には食の健康づくりに取り組むボランティア「食生活改善推進員(ヘルスマイト)」がいることを知っていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	163	10.7
いいえ	1,351	88.5
無回答	13	0.9

問19:二人以上で食事をすることが1日1回以上ありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	1,172	76.8
いいえ	331	21.7
無回答	24	1.6

問19で『2.いいえ』と答えた方へ

副問19-1:一人で食事する理由は何ですか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	331	100.0
一人暮らしだから	157	47.4
生活時間がバラバラだから	129	39.0
一人で食べるのが好きだから	13	3.9
人に食べている姿を見られたくないから	2	0.6
特に理由はない	14	4.2
その他()	13	3.9
無回答	3	0.9

問20:あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
朝、昼、夕の3食ともそろう	237	15.5
朝、昼、夕の中で2食はそろう	618	40.5
朝、昼、夕の中で、1食はそろう	527	34.5
ほとんどそろわない	129	8.4
無回答	16	1.0

問20で『3.1食はそろう』『4.ほとんどそろわない』と答えた方へ

副問20-1:主食・主菜・副菜のうち、最もそろいにくいのは何ですか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	656	100
主食	44	6.7
主菜	59	9.0
副菜	505	77.0
無回答	48	7.3

副問20-2:主食・主菜・副菜を3つそろえて食べる回数を増やすためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

R6年度	件数	割合
全体	1,854	100
手間がかからないこと	503	27.1
時間があること	377	20.3
食費に余裕があること	330	17.8
自分で用意することができること	192	10.4
食欲があること	118	6.4
3つそろえて食べるメリットを知っていること	95	5.1
家に用意されていること	139	7.5
外食やコンビニ等で手軽にとることができる環境があること	81	4.4
その他	19	1.0

問21:あなたはお菓子や菓子パン、糖分の入った飲み物などをどの程度の頻度で食べますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
1日2回以上	228	14.9
1日1回程度	638	41.8
週2~3回	441	28.9
ほとんど食べない	206	13.5
無回答	14	0.9

問22:あなたは、持ち帰りの弁当や惣菜をどのくらい利用していますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
ほとんど利用しない	613	40.1
週1回	393	25.7
週2~3回	363	23.8
週4~6回	96	6.3
毎日1回	37	2.4
毎日2回以上	11	0.7
無回答	14	0.9

問23:普段の食事の準備について、最も頻度の高いものはどれですか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
自分や家族がほとんどのものを食材から調理して食事を準備している	790	51.7
自分や家族が一部市販食品を取り入れて、食事を準備している	586	38.4
自分や家族がほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している	74	4.8
買った弁当をそのまま食べている	35	2.3
飲食店や社員食堂などを利用する	20	1.3
フードデリバリーサービスや配食サービスを利用する	9	0.6
無回答	13	0.9

問24:あなたは、ふだん食品や料理を選択する際に何を重視していますか。(あてはまるものすべてに○)

R6年度	件数	割合
全体	5,526	100
準備の手間がかからないこと	761	13.8
小分けで使いやすいこと	266	4.8
価格が安いこと	895	16.2
おいしいこと	1,106	20.0
鮮度が良いこと	886	16.0
近隣の地域や国内で生産・加工されていること	408	7.4
環境に配慮した農林水産物・食品であること	199	3.6
栄養価や栄養バランスに配慮されていること	538	9.7
日持ちがすること	374	6.8
その他()	41	0.7
特に重視することはない	42	0.8
無回答	10	0.2

問25:あなたはどの程度、食品の安全性に関する知識(食品の表示の見方や食中毒について等)があると思いますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
十分にある	134	8.8
けっこうある	746	48.9
あまりない	602	39.4
全くない	37	2.4
無回答	8	0.5

問26:あなたは、ふだんの食事時間が楽しいと感じますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	829	54.3
いいえ	73	4.8
意識していない	616	40.3
無回答	9	0.6

問27:あなたは、ゆっくりよく噛んで食べることを意識していますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	779	51.0
いいえ	728	47.7
無回答	20	1.3

問28:地域や所属コミュニティ(職場等を含む)での食事会の機会があれば、あなたは参加したいと思いますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
とてもそう思う	58	3.8
そう思う	298	19.5
どちらともいえない	509	33.3
あまりそう思わない	413	27.0
全くそう思わない	231	15.1
無回答	18	1.2

問28で『1.とてもそう思う』『2.そう思う』と答えた方へ

副問28-1:あなたは過去1年間に、地域や所属コミュニティでの食事会に参加しましたか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	356	100
参加した	215	60.4
参加していない	133	37.4
無回答	8	2.2

問29:家庭内で食事の準備をされる方は、食料品の買い物で最もよく利用されるお店まで、どのような交通手段で行きますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
徒歩	314	20.6
自転車	135	8.8
家庭内で食事の準備をされる方が運転する自動車、バイク	747	48.9
家族・知人が運転する自動車	250	16.4
バス、タクシー、鉄道	25	1.6
食料品の買い物で外出はせず、移動販売車を利用している	1	0.1
食料品の買い物では外出はせず、自宅までの宅配を利用している	15	1.0
無回答	40	2.6

問29で『1～5.食料品の買い物で外出する』を答えた方へ

副問29-1:食料品の買い物で最もよく利用されるお店までは、自宅から片道でどの位の時間がかかりますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,471	100
15分以内	974	66.2
15～30分以内	379	25.8
30分以上	37	2.5
無回答	81	5.5

問30:普段、食料品の買い物で不便や苦勞がありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
不便や苦勞がある	118	7.7
不便や苦勞が時々ある	317	20.8
不便や苦勞はあまりない	721	47.2
不便や苦勞は全くない	346	22.7
無回答	25	1.6

問30で『1.不便や苦勞がある』『2.不便や苦勞が時々ある』と答えた方に

副問30-1:どのような不便や苦勞がありますか。あてはまるものをすべて選んでください。(○はいくつでも)

R6年度	件数	割合
全体	435	100
買い物を手伝ってくれる人がいない	85	19.5
買い物に行く時間的余裕がない	140	32.2
介護や育児などの家庭の事情	49	11.3
足腰など身体に負担が大きい	104	23.9
店が近くにない	141	32.4
買い物で利用する交通機関(バス停)が不便である	60	13.8
その他()	66	15.2
無回答	11	2.5

問31:あなたは、これまでに食物(米や野菜、果物など)の栽培や収穫の体験がありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	1,005	65.8
いいえ	509	33.3
無回答	13	0.9

問32:食品ロスを減らすために、何か取り組んでいることはありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
食品ロス問題について、取り組んでいることがある	618	40.5
食品ロス問題は知っているが、取り組んでいることは特にない	853	55.9
食品ロス問題を知らない	24	1.6
無回答	32	2.1

IV 過去の食生活についておたずねします。

問33:小学生のころ、中学生のころ、16～18歳のころのあなたの食生活について伺います。

それぞれおおもむあてはまるものを、1～11について、すべて選んでください。(あてはまるものすべてに○)

R6年度	小学生の頃	中学生の頃	高校生の頃
①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた	88.7	79.5	61.7
②家では、家族と食事をとっていた	92.8	86.4	71.8
③家では、家族と一緒に食料品の買い物をした	48.3	24.2	18.3
④家では、家族と一緒に料理していた	25.8	22.7	22.9
⑤家では、食事の準備や後片付けを手伝った	46.5	45.6	44.3
⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた	79.1	72.3	65.2
⑦家では、季節の食材や季節にあった料理が用意されていた	75.8	72.9	66.6
⑧家では、食事が楽しく心地よかった	70.7	63.3	56.6
⑨家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした	55.0	29.4	18.9
⑩家、学校、地域などで、郷土料理や伝統料理を食べる機会があった	41.7	33.7	25.9
⑪学校で、先生から食に関する話を聞いたり、指導を受けたりした	33.1	23.8	15.0
⑫未回答	3.2	3.3	7.8

【内訳】

小学生		件数	割合
全体		1,527	
①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた		1,355	88.7
②家では、家族と食事をとっていた		1,417	92.8
③家では、家族と一緒に食料品の買い物をした		737	48.3
④家では、家族と一緒に料理していた		394	25.8
⑤家では、食事の準備や後片付けを手伝った		710	46.5
⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた		1,208	79.1
⑦家では、季節の食材や季節にあった料理が用意されていた		1,158	75.8
⑧家では、食事が楽しく心地よかった		1,080	70.7
⑨家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした		840	55.0
⑩家、学校、地域などで、郷土料理や伝統料理を食べる機会があった		636	41.7
⑪学校で、先生から食に関する話を聞いたり、指導を受けたりした		505	33.1
⑫未回答		49	3.2

中学生		件数	割合
全体		1,527	
①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた		1,214	79.5
②家では、家族と食事をとっていた		1,320	86.4
③家では、家族と一緒に食料品の買い物をした		369	24.2
④家では、家族と一緒に料理していた		346	22.7
⑤家では、食事の準備や後片付けを手伝った		697	45.6
⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた		1,104	72.3
⑦家では、季節の食材や季節にあった料理が用意されていた		1,113	72.9
⑧家では、食事が楽しく心地よかった		966	63.3
⑨家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした		449	29.4
⑩家、学校、地域などで、郷土料理や伝統料理を食べる機会があった		514	33.7
⑪学校で、先生から食に関する話を聞いたり、指導を受けたりした		364	23.8
⑫未回答		50	3.3

高校生		件数	割合
全体		1,527	
①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた		942	61.7
②家では、家族と食事をとっていた		1,097	71.8
③家では、家族と一緒に食料品の買い物をした		280	18.3
④家では、家族と一緒に料理していた		349	22.9
⑤家では、食事の準備や後片付けを手伝った		677	44.3
⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた		995	65.2
⑦家では、季節の食材や季節にあった料理が用意されていた		1,017	66.6
⑧家では、食事が楽しく心地よかった		865	56.6
⑨家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした		289	18.9
⑩家、学校、地域などで、郷土料理や伝統料理を食べる機会があった		395	25.9
⑪学校で、先生から食に関する話を聞いたり、指導を受けたりした		229	15.0
⑫未回答		119	7.8

V 歯の健康についてお伺いします。

問34:あなたには、現在かかりつけの歯科医院がありますか。(1つに○)

R6年度		件数	割合
全体		1,527	100
ある		1,185	77.6
ない		327	21.4
無回答		15	1.0

問35:現在、あなたの歯は何本ですか。(親知らずや治療済の歯を含みます)(1つに○)

R6年度		件数	割合
全体		1,527	100
28本以上		742	48.6
24～27本		374	24.5
20～23本		167	10.9
19本以下		213	13.9
無回答		31	2.0

問36:かんで食べる時の状態についてあてはまるものは何ですか。(1つに○)

R6年度		件数	割合
全体		1,527	100
何でもかんで食べることができる		1,207	79.0
一部かめない食べ物がある		273	17.9
かめない食べ物が多い		30	2.0
かんで食べることができない		9	0.6
無回答		8	0.5

VI お酒とタバコについてお伺いします。

問37:あなたはお酒をどのくらいの頻度で飲みますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
毎日飲む	242	15.8
週5、6日飲む	74	4.8
週3、4日飲む	92	6.0
週1、2日飲む	163	10.7
ほとんど飲まない	486	31.8
飲まない又は飲めない	445	29.1
無回答	25	1.6

問37で『1.毎日飲む』『2.週5、6日飲む』『3.週3、4日飲む』『4.週1、2日飲む』と答えた方へ

副問37-1:あなたが1回に飲む量はどの位ですか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	571	100
3合以上	60	10.5
2合程度	161	28.2
1合程度	178	31.2
1合未満	168	29.4
無回答	4	0.7

問38:あなたはたばこを吸いますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	192	12.6
以前吸っていたが、今はやめている	410	26.9
以前から吸っていない	875	57.3
無回答	50	3.3

VII 運動や余暇・休養についてお伺いします。

問39:あなたは今、運動不足と感じていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	1,038	68.0
いいえ	456	29.9
無回答	33	2.2

問40:あなたは1日にどの程度歩きますか。(【参考】10分のウォーキングで約1,000歩です。)(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
4,000歩未満	500	32.7
4,000～6,000歩未満	364	23.8
6,000～8,000歩未満	217	14.2
8,000～10,000歩未満	130	8.5
10,000歩以上	100	6.5
わからない	190	12.4
無回答	26	1.7

問41:あなたは今、体力や健康を維持するため、運動をしていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	628	41.1
いいえ	875	57.3
無回答	24	1.6

問42:積極的に休養をとっていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	1,068	69.9
いいえ	432	28.3
無回答	27	1.8

問43:あなたは睡眠を十分にとれていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
十分とれている	339	22.2
とれている	650	42.6
あまりとれていない	392	25.7
慢性的に睡眠不足である	127	8.3
無回答	19	1.2

問44:現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
ゆとりがある	172	11.3
ややゆとりがある	442	28.9
どちらともいえない	444	29.1
あまりゆとりはない	314	20.6
まったくゆとりはない	134	8.8
無回答	21	1.4

問45:あなたは1日にどのくらいスマートフォンをみていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
持っていない	84	5.5
ほとんど見ない	152	10.0
2時間未満	626	41.0
2～4時間未満	402	26.3
4～6時間未満	169	11.1
6時間以上	76	5.0
無回答	18	1.2

問46:家族との団らんをとるようにしていますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	1,117	73.1
いいえ	369	24.2
無回答	41	2.7

問47:現在あなたには、生きがいはありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	1,133	74.2
いいえ	348	22.8
無回答	46	3.0

問48:あなたにとって、ご自分と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
強いほうだと思う	73	4.8
どちらかといえば強いほうだと思う	293	19.2
どちらかといえば弱いほうだと思う	353	23.1
弱いほうだと思う	628	41.1
わからない	161	10.5
無回答	19	1.2

VIII あなたが考える今後の健康づくりの方向性についてお伺いします。

問49:あなたは職場、地域、病院などで栄養・食生活等に関する話を聞いたり指導を受けたことがありますか。(1つに○)

R6年度	件数	割合
全体	1,527	100
はい	627	41.1
いいえ	872	57.1
無回答	28	1.8

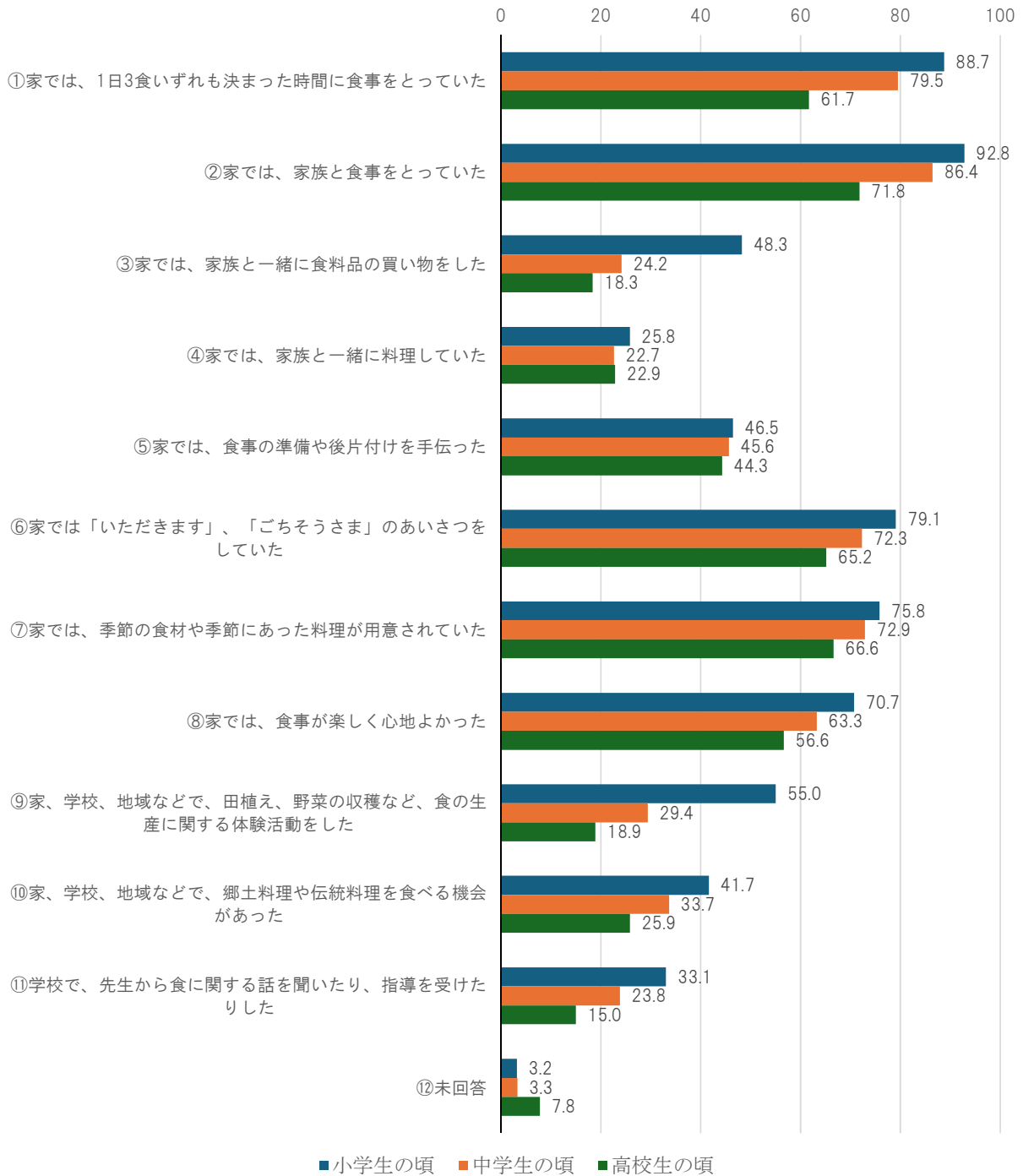
問50:あなたが利用したい食育や栄養・食生活のための教室や相談のテーマは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

R6年度	件数	割合
全体	3,413	100
栄養バランスや食生活の改善などに関すること	546	16.0
料理教室などレシピや調理技術に関すること	311	9.1
ダイエットに関すること	274	8.0
疾患予防・改善に関すること	533	15.6
子どもの食生活に関すること	182	5.3
介護予防に関すること	321	9.4
郷土料理や伝統料理、食文化に関すること	198	5.8
食品ロスなど環境に配慮した食生活に関すること	201	5.9
食品の安全性に関すること	367	10.8
農業・畜産体験	142	4.2
食育ボランティアの養成	39	1.1
その他()	18	0.5
利用したいものはない	281	8.2

問51:食育や栄養・食生活のための教室や相談に、どのような形式なら参加できますか。(あてはまるものすべてに○)

R6年度	件数	割合
全体	2,073	100
集合して行う講習会(休日開催含む)	375	18.1
対面で行う個別の相談会(休日開催含む)	98	4.7
電話やZoomなどで行う相談会(休日開催含む)	88	4.2
スマートフォンなどのアプリによる取組	446	21.5
YouTubeなどの自身の都合の良い時に見ることができる動画視聴	736	35.5
形式にかかわらず参加したくない	292	14.1
その他()	38	1.8

問33：過去の食生活について 時期別グラフ



(3) 令和6年度伊勢原市民の食育に関する意識調査 参考資料

「3. 食育目標の基本施策別中間評価(P.7~P.41)」で分析に使用した参考資料です。

【参考資料 出典】

「A市における食育推進計画の中間評価と今後の事業展開に関する研究」／神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科 栄養ケア・マネジメント研究室 から一部抜粋したものです。

表1 解析対象者の基本属性

		n = 1030	
		n	%
性別	男性	451	43.8%
	女性	579	56.2%
年齢	20代	69	6.7%
	30代	107	10.4%
	40代	154	15.0%
	50代	237	23.0%
	60代	229	22.2%
	70代	234	22.7%
	BMI (kg/m ²)	やせ (18.5未満)	104
ふつう (18.5~25.0未満)		687	66.7%
肥満 (25.0以上)		239	23.2%

表2 20~30歳代女性のやせ (BMI18.5未満) と質問項目の関連

		やせ群 n = 17		普通・肥満群 n = 95		p値
		n	%	n	%	
問12_あなたはご自分の体格について、今後どうして いきたいと思っていますか。	痩せたいと思っている	1	5.9%	62	65.3%	0.001
	維持したいと思っている	14	82.4%	33	34.7%	
	太りたいと思っている	2	11.8%	0	0.0%	
問39_あなたは今、運動不足と感じていますか。	はい	9	52.9%	84	88.4%	0.001
	いいえ	8	47.1%	11	11.6%	

表3 40~50歳代男性の肥満（BMI25.0以上）と質問項目の関連

		やせ・普通群 n = 100		肥満群 n = 58		p 値
		n	%	n	%	
問12_あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。	痩せたいと思っている	32	32.0%	46	79.3%	0.001
	維持したいと思っている	61	61.0%	12	20.7%	
	太りたいと思っている	7	7.0%	0	0.0%	
問39_あなたは今、運動不足と感じていますか。	はい	62	62.0%	48	82.8%	0.006
	いいえ	38	38.0%	10	17.2%	
問43_あなたは睡眠を十分にとれていますか。	十分とれている	20	20.0%	3	5.2%	0.032
	とれている	29	29.0%	27	46.6%	
	あまりとれていない	43	43.0%	24	41.4%	
	慢性的に睡眠不足である	8	8.0%	4	6.9%	
問47_現在あなたには、生きがいはありますか。	はい	80	80.0%	38	65.5%	0.044
	いいえ	20	20.0%	20	34.5%	
問49_あなたは職場、地域、病院などで栄養・食生活等に関する話を聞いたり指導を受けたことがありますか。	はい	37	37.0%	33	56.9%	0.015
	いいえ	63	63.0%	25	43.1%	

表4 高齢者（65歳以上）の低栄養傾向（BMI20.0以下）と質問項目の関連

		低栄養傾向群 n = 62		低栄養傾向ではない群 n = 283		p 値
		n	%	n	%	
問2_性別	男	23	37.1%	153	54.1%	0.016
	女	39	62.9%	130	45.9%	
問10_あなたは現在、健康だと思いますか。	健康である	6	9.7%	42	14.8%	0.012
	おおむね健康である	18	29.0%	116	41.0%	
	ふつう	22	35.5%	94	33.2%	
	あまり健康ではない	10	16.1%	24	8.5%	
問12_あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。	健康ではない	6	9.7%	7	2.5%	0.001
	痩せたいと思っている	1	1.6%	98	34.6%	
	維持したいと思っている	39	62.9%	180	63.6%	
	太りたいと思っている	22	35.5%	5	1.8%	

表5 20~30歳代の朝食欠食（週1~2日またはほとんど食べない）と質問項目の関連

		喫食群 n = 138		欠食群 n = 38		p 値
		n	%	n	%	
問20_あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。	朝、昼、夕の3食ともにそろう	8	5.8%	0	0.0%	0.017
	朝、昼、夕の中で2食はそろう	44	31.9%	6	15.8%	
	朝、昼、夕の中で1食はそろう	71	51.4%	22	57.9%	
	ほとんどそろわない	15	10.9%	10	26.3%	
問21_あなたはお菓子や菓子パン、糖分の入った飲み物などをどの程度の頻度で食べますか。	1日2回以上	19	13.8%	10	26.3%	0.02
	1日1回程度	66	47.8%	14	36.8%	
	週2~3回	41	29.7%	6	15.8%	
	ほとんど食べない	12	8.7%	8	21.1%	
問33-①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた。__小学生	回答なし	13	9.4%	11	28.9%	0.002
	回答あり	125	90.6%	27	71.1%	
問33-①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた。__中学生	回答なし	25	18.1%	16	42.1%	0.002
	回答あり	113	81.9%	22	57.9%	
問33-①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた。__16~18歳	回答なし	52	37.7%	24	63.2%	0.005
	回答あり	86	62.3%	14	36.8%	
問41_あなたは今、体力や健康を維持するため、運動をしていますか。	はい	49	35.5%	5	13.2%	0.008
	いいえ	89	64.5%	33	86.8%	
問44_現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。	ゆとりがある	17	12.3%	5	13.2%	0.02
	ややゆとりがある	38	27.5%	6	15.8%	
	どちらともいえない	42	30.4%	5	13.2%	
	あまりゆとりはない	27	19.6%	15	39.5%	
	まったくゆとりはない	14	10.1%	7	18.4%	

表6 朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている者と質問項目の関連

		2回以上群 n = 561		1回以下群 n = 469		p 値
		n	%	n	%	
問1__年齢	20代	23	4.1%	46	9.8%	0.001
	30代	35	6.2%	72	15.4%	
	40代	73	13.0%	81	17.3%	
	50代	119	21.2%	118	25.2%	
	60代	140	25.0%	89	19.0%	
	70代	171	30.5%	63	13.4%	
問4__世帯状況	一人暮らし	53	9.4%	83	17.7%	0.001
	あなたと配偶者	211	37.6%	122	26.0%	
	あなたと配偶者と子ども	179	31.9%	159	33.9%	
	あなた（母親）と子ども	14	2.5%	10	2.1%	
	あなた（父親）と子ども	3	0.5%	5	1.1%	
	あなた（子ども）と親 三世代同居	41 40	7.3% 7.1%	49 19	10.4% 4.1%	
その他	20	3.6%	22	4.7%		
問12__あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。	痩せたいと思っている	221	39.4%	237	50.5%	0.001
	維持したいと思っている	309	55.1%	214	45.6%	
	太りたいと思っている	31	5.5%	18	3.8%	
問15__あなたは朝食をどのくらいの頻度で食べていますか。	週6-7日	506	90.2%	332	70.8%	0.001
	週3-5日	24	4.3%	50	10.7%	
	週1-2日	7	1.2%	33	7.0%	
	ほとんど食べない	24	4.3%	54	11.5%	
問16__食事づくり、または食事づくりの手伝いをどのくらいしていますか。	毎日つくる、または手伝う	336	59.9%	231	49.3%	0.001
	時々つくる、または手伝う	127	22.6%	163	34.8%	
	全くしない	98	17.5%	75	16.0%	
問19__二人以上で食事をすることが1日1回以上ありますか。	はい	477	85.0%	326	69.5%	0.001
	いいえ	84	15.0%	143	30.5%	
問25__あなたはどの程度、食品の安全性に関する知識（食品の表示の見方や食中毒について等）があると思いますか。	十分にある	50	8.9%	30	6.4%	0.001
	けっこうある	321	57.2%	184	39.2%	
	あまりない	178	31.7%	242	51.6%	
	全くない	12	2.1%	13	2.8%	
問26__あなたは、ふだんの食事時間が楽しいと感じますか。	はい	376	67.0%	204	43.5%	0.001
	いいえ	10	1.8%	21	4.5%	
	意識していない	175	31.2%	244	52.0%	
問27__あなたは、ゆっくりよく噛んで食べることを意識していますか。	はい	332	59.2%	197	42.0%	0.001
	いいえ	229	40.8%	272	58.0%	
問32__食品ロスを減らすために、何か取り組んでいることはありますか。	食品ロス問題について、取り組んでいることがある	264	47.1%	159	33.9%	0.001
	食品ロス問題は知っているが、取り組んでいることは特にな	287	51.2%	303	64.6%	
	食品ロス問題を知らない	10	1.8%	7	1.5%	
問33-①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた__中学生	回答なし	92	16.4%	108	23.0%	0.007
回答あり	469	83.6%	361	77.0%		
問33-①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた__16~18歳	回答なし	191	34.0%	203	43.3%	0.002
回答あり	370	66.0%	266	56.7%		
問33-②家では、家族と食事をとっていた__16~18歳	回答なし	127	22.6%	143	30.5%	0.004
回答あり	434	77.4%	326	69.5%		
問33-③家では、家族と一緒に食料品の買い物をした__小学生	回答なし	297	52.9%	218	46.5%	0.039
回答あり	264	47.1%	251	53.5%		
問33-④家では、家族と一緒に料理をしていた__中学生	回答なし	418	74.5%	384	81.9%	0.005
回答あり	143	25.5%	85	18.1%		
問33-④家では、家族と一緒に料理をしていた__16~18歳	回答なし	404	72.0%	389	82.9%	0.001
回答あり	157	28.0%	80	17.1%		
問33-⑦家では、季節の食材や季節にあった料理が用意されていた__中学生	回答なし	126	22.5%	134	28.6%	0.025
回答あり	435	77.5%	335	71.4%		
問33-⑧家では、食事が楽しく心地よかった__中学生	回答なし	173	30.8%	184	39.2%	0.005
回答あり	388	69.2%	285	60.8%		
問33-⑨家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした__中学生	回答なし	380	67.7%	356	75.9%	0.004
回答あり	181	32.3%	113	24.1%		
問33-⑨家、学校、地域などで、田植え、野菜の収穫など、食の生産に関する体験活動をした__1618	回答なし	448	79.9%	399	85.1%	0.029
回答あり	113	20.1%	70	14.9%		
問33-⑩家、学校、地域などで、郷土料理や伝統料理を食べる機会があった__1618	回答なし	388	69.2%	359	76.5%	0.008
回答あり	173	30.8%	110	23.5%		
問33-⑪学校で、先生から食に関する話を聞いたり、指導を受けたりした__1618	回答なし	456	81.3%	408	87.0%	0.013
回答あり	105	18.7%	61	13.0%		
問39__あなたは今、運動不足と感じていますか。	はい	365	65.1%	356	75.9%	0.001
	いいえ	196	34.9%	113	24.1%	
問41__あなたは今、体力や健康を維持するため、運動をしていますか。	はい	283	50.4%	152	32.4%	0.001
	いいえ	278	49.6%	317	67.6%	
問44__現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。	ゆとりがある	81	14.4%	36	7.7%	0.001
	ややゆとりがある	190	33.9%	119	25.4%	
	どちらともいえない	164	29.2%	135	28.8%	
	あまりゆとりはない	92	16.4%	121	25.8%	
	まったくゆとりはない	34	6.1%	58	12.4%	
問47__現在あなたには、生きがいはありますか。	はい	463	82.5%	332	70.8%	0.001
	いいえ	98	17.5%	137	29.2%	
問48__あなたにとって、ご自分と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。	強いほうだと思う	30	5.3%	12	2.6%	0.001
	どちらかといえば強いほうだと思う	148	26.4%	63	13.4%	
	どちらかといえば弱いほうだと思う	138	24.6%	89	19.0%	
	弱いほうだと思う	194	34.6%	261	55.7%	
	わからない	51	9.1%	44	9.4%	
問49__あなたは職場、地域、病院などで栄養・食生活等に関する話を聞いたり指導を受けたことがありますか。	はい	265	47.2%	169	36.0%	0.001
	いいえ	296	52.8%	300	64.0%	

表7 1日に1回も共食をしていない者と質問項目の関連

		ある群 n = 803		ない群 n = 227		p 値
		n	%	n	%	
問2_性別	男	332	41.3%	119	52.4%	0.003
	女	471	58.7%	108	47.6%	
問4_世帯状況	一人暮らし	23	2.9%	113	49.8%	0.001
	あなたと配偶者	295	36.7%	38	16.7%	
	あなたと配偶者と子ども	305	38.0%	33	14.5%	
	あなた（母親）と子ども	19	2.4%	5	2.2%	
	あなた（父親）と子ども	5	0.6%	3	1.3%	
	あなた（子ども）と親	71	8.8%	19	8.4%	
	三世帯同居	52	6.5%	7	3.1%	
問10_あなたは現在、健康だと思いますか。	健康である	160	19.9%	29	12.8%	0.003
	おおむね健康である	281	35.0%	99	43.6%	
	ふつう	269	33.5%	65	28.6%	
	あまり健康ではない	74	9.2%	21	9.3%	
	健康ではない	19	2.4%	13	5.7%	
問15_あなたは朝食をどのくらいの頻度で食べていますか。	週6~7日	674	83.9%	164	72.2%	0.001
	週3~5日	50	6.2%	24	10.6%	
	週1~2日	28	3.5%	12	5.3%	
	ほとんど食べない	51	6.4%	27	11.9%	
問20_あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。	朝、昼、夕の3食ともにそろう	125	15.6%	16	7.0%	0.001
	朝、昼、夕の中で2食はそろう	352	43.8%	68	30.0%	
	朝、昼、夕の中で1食はそろう	287	35.7%	95	41.9%	
	ほとんどそろわない	39	4.9%	48	21.1%	
問22_あなたは、持ち帰りの弁当や惣菜をどのくらい利用していますか。	ほとんど利用しない	322	40.1%	88	38.8%	0.001
	週1回	222	27.6%	43	18.9%	
	週2~3回	208	25.9%	48	21.1%	
	週4~6回	39	4.9%	29	12.8%	
	毎日1回	12	1.5%	13	5.7%	
問23_普段の食事の準備について最も頻度の高いものはどれですか。	毎日2回以上	0	0.0%	6	2.6%	0.001
	自分や家族がほとんどのものを食材から調理して食事を準備している	433	53.9%	91	40.1%	
	自分や家族が一部市販食品を取り入れて食事を準備している	335	41.7%	83	36.6%	
	自分や家族がほとんどのものに市販食品を利用して、食事を準備している	27	3.4%	25	11.0%	
	買った弁当をそのまま食べている	3	0.4%	21	9.3%	
	飲食店や社員食堂などを利用する	3	0.4%	5	2.2%	
問26_あなたは、ふだんの食事時間が楽しいと感じますか。	フードデリバリーサービスや配達サービスを利用する	2	0.2%	2	0.9%	0.001
	はい	490	61.0%	90	39.6%	
	いいえ	17	2.1%	14	6.2%	
問27_あなたは、ゆっくり噛んで食べることを意識していますか。	意識していない	296	36.9%	123	54.2%	0.019
	はい	428	53.3%	101	44.5%	
問31_あなたは、これまでに食物（米や野菜、果物など）の栽培や収穫の体験がありますか。	いいえ	375	46.7%	126	55.5%	0.001
	はい	561	69.9%	123	54.2%	
問33_⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた__中学生	いいえ	242	30.1%	104	45.8%	0.026
	回答なし	199	24.8%	73	32.2%	
問33_⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた__16~18歳	回答あり	604	75.2%	154	67.8%	0.015
	回答なし	259	32.3%	93	41.0%	
問33_⑦家では、季節の食材や季節にあった料理が用意されていた__中学生	回答あり	544	67.7%	134	59.0%	0.043
	回答なし	191	23.8%	69	30.4%	
問33_⑦家では、季節の食材や季節にあった料理が用意されていた__16~18歳	回答あり	612	76.2%	158	69.6%	0.009
	回答なし	238	29.6%	88	38.8%	
問33_⑧家では食事が楽しく心地よかった__16~18歳	回答あり	565	70.4%	139	61.2%	0.042
	回答なし	322	40.1%	108	47.6%	
問33_⑩家、学校、地域などで、郷土料理や伝統料理を食べる機会があった__中学生	回答あり	481	59.9%	119	52.4%	0.009
	回答なし	500	62.3%	160	70.5%	
問44_現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。	回答あり	303	37.7%	67	29.5%	0.022
	ゆとりがある	89	11.1%	28	12.3%	
	ややゆとりがある	254	31.6%	55	24.2%	
	どちらともいえない	239	29.8%	60	26.4%	
	あまりゆとりはない	159	19.8%	54	23.8%	
問46_家族との団らんをとるようにしていますか。	まったくゆとりはない	62	7.7%	30	13.2%	0.001
	はい	686	85.4%	81	35.7%	
問47_現在あなたには、生きがいがありますか。	いいえ	117	14.6%	146	64.3%	0.001
	はい	646	80.4%	149	65.6%	
問48_あなたにとって、ご自分と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。	回答あり	157	19.6%	78	34.4%	0.001
	強いほうだと思う	33	4.1%	9	4.0%	
	どちらかといえば強いほうだと思う	179	22.3%	32	14.1%	
	どちらかといえば弱いほうだと思う	196	24.4%	31	13.7%	
	弱いほうだと思う	324	40.3%	131	57.7%	
わからない	71	8.8%	24	10.6%		

表8 ゆっくりよくかんで食べる意識がある者と質問項目の関連

	意識する群 n = 529		意識しない群 n = 501		p 値	
	n	%	n	%		
問1__年齢	20代	34	6.4%	35	7.0%	0.004
	30代	53	10.0%	54	10.8%	
	40代	72	13.6%	82	16.4%	
	50代	108	20.4%	129	25.7%	
	60代	115	21.7%	114	22.8%	
	70代	147	27.8%	87	17.4%	
問2__性別	男	204	38.6%	247	49.3%	0.001
	女	325	61.4%	254	50.7%	
問12__あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。	痩せたいと思っている	213	40.3%	245	48.9%	0.014
	維持したいと思っている	286	54.1%	237	47.3%	
	太りたいと思っている	30	5.7%	19	3.8%	
問20__あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。	朝、昼、夕の3食ともにそろう	88	16.6%	53	10.6%	0.001
	朝、昼、夕の中で2食はそろう	244	46.1%	176	35.1%	
	朝、昼、夕の中で1食はそろう	170	32.1%	212	42.3%	
問25__あなたはどの程度、食品の安全性に関する知識（食品の表示の見方や食中毒について等）があると思いますか。	ほとんどそろわない	27	5.1%	60	12.0%	0.001
	十分にある	52	9.8%	28	5.6%	
	けっこうある	297	56.1%	208	41.5%	
	あまりない	175	33.1%	245	48.9%	
問26__あなたは、ふだんの食事時間が楽しいと感じますか。	全くない	5	0.9%	20	4.0%	0.001
	はい	361	68.2%	219	43.7%	
	いいえ	11	2.1%	20	4.0%	
問32__食品ロスを減らすために、何か取り組んでいることはありますか。	意識していない	157	29.7%	262	52.3%	0.001
	食品ロス問題について、取り組んでいることがある	252	47.6%	171	34.1%	
	食品ロス問題は知っているが、取り組んでいることは特にな	274	51.8%	316	63.1%	
問33__①家では、1日3食いづれも決まった時間に食事をとっていた__中学生	食品ロス問題を知らない	3	0.6%	14	2.8%	0.005
	回答なし	85	16.1%	115	23.0%	
	回答あり	444	83.9%	386	77.0%	
問33__①家では、1日3食いづれも決まった時間に食事をとっていた__16～18歳	回答なし	186	35.2%	208	41.5%	0.036
	回答あり	343	64.8%	293	58.5%	
問33__⑧家では食事が楽しく心地よかった__中学生	回答なし	164	31.0%	193	38.5%	0.011
	回答あり	365	69.0%	308	61.5%	
問33__⑧家では食事が楽しく心地よかった__16～18歳	回答なし	194	36.7%	236	47.1%	0.001
	回答あり	335	63.3%	265	52.9%	
問41__あなたは今、体力や健康を維持するため、運動をしていますか。	はい	244	46.1%	191	38.1%	0.009
	いいえ	285	53.9%	310	61.9%	
問42__積極的に休養をとっていますか。	はい	428	80.9%	315	62.9%	0.001
	いいえ	101	19.1%	186	37.1%	
問44__現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。	ゆとりがある	72	13.6%	45	9.0%	0.017
	ややゆとりがある	172	32.5%	137	27.3%	
	どちらともいえない	140	26.5%	159	31.7%	
	あまりゆとりはない	98	18.5%	115	23.0%	
	まったくゆとりはない	47	8.9%	45	9.0%	
問46__家族との団らんをとるようにしていますか。	はい	440	83.2%	327	65.3%	0.001
	いいえ	89	16.8%	174	34.7%	
問47__現在あなたには、生きがいはありますか。	はい	431	81.5%	364	72.7%	0.001
	いいえ	98	18.5%	137	27.3%	
問48__あなたにとって、ご自分と地域の人たちとのつながりは強い方だと思いますか。	強いほうだと思う	30	5.7%	12	2.4%	0.001
	どちらかといえば強いほうだと思う	127	24.0%	84	16.8%	
	どちらかといえば弱いほうだと思う	126	23.8%	101	20.2%	
	弱いほうだと思う	194	36.7%	261	52.1%	
	わからない	52	9.8%	43	8.6%	

第4次伊勢原市食育推進計画における 食育目標達成のための指標	R9年度 目標値	R3 年度	R6 年度	評価
①★20～30歳代女性のやせ（BMI18.5未満）の人の割合	11%以下	17.2%	19.0%	▼
②★40～50歳代男性の肥満（BMI25以上）の人の割合	35%以下	38.5%	41.6%	▼
③★ゆっくりよくかんで食べる意識がある人の割合	55%以上	49.7%	51.0%	△
④★高齢者の低栄養傾向（BMI20以下）の人の割合	17%以下	20.2%	18.4%	△
⑤20～30歳代の朝食欠食（週に1～2日又はほとんど食べない）する人の割合	15%以下	16.8%	22.5%	▼
⑥朝食を毎日食べる中学生の割合	85%以上	80.4%	79.5%	▼
⑦食育への関心がある若い世代（20～30歳代）の割合	73%以上	72.0%	77.5%	◎
⑧★主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日に2回以上ほぼ毎日食べている人の割合	60%以上	58.1%	56.0%	▼
⑨★健康のために、「塩分の多いものを控える」を心がけている人の割合	40%以上	37.1%	43.2%	◎
⑩★健康のために、「あぶらっこいものを控える」を心がけている人の割合	33%以上	29.4%	33.1%	◎
⑪1日に1回も共食をしていない人の割合	17%以下	19.4%	21.7%	▼
⑫家で料理の手伝いをしている中学生の割合	46%以上	45.7%	36.4%	▼
⑬地域等で過去1年間に共食など、集う機会を持った人の割合	63%以上	21.6%	60.4%	△
⑭栽培・収穫・農業体験をしたことがある人の割合	70%以上	67.8%	65.8%	▼
⑮小学校給食で1年間に地場産野菜を使用する回数	110回	102回	107回	△
⑯食品ロス削減のために、何らかの行動をしている人の割合	50%以上	38.4%	40.5%	△

★印は、食育目標重点目標に係る指標

評価結果 ◎：目標を達成した △：目標には至らないが基準値より数値が改善した

▼：基準値より数値が後退した

図1 第4次伊勢原市食育推進計画における食育目標達成のための指標

【図2～図32は、表1～表8 (P.55～P.60) について、グラフ表示したものになります。】

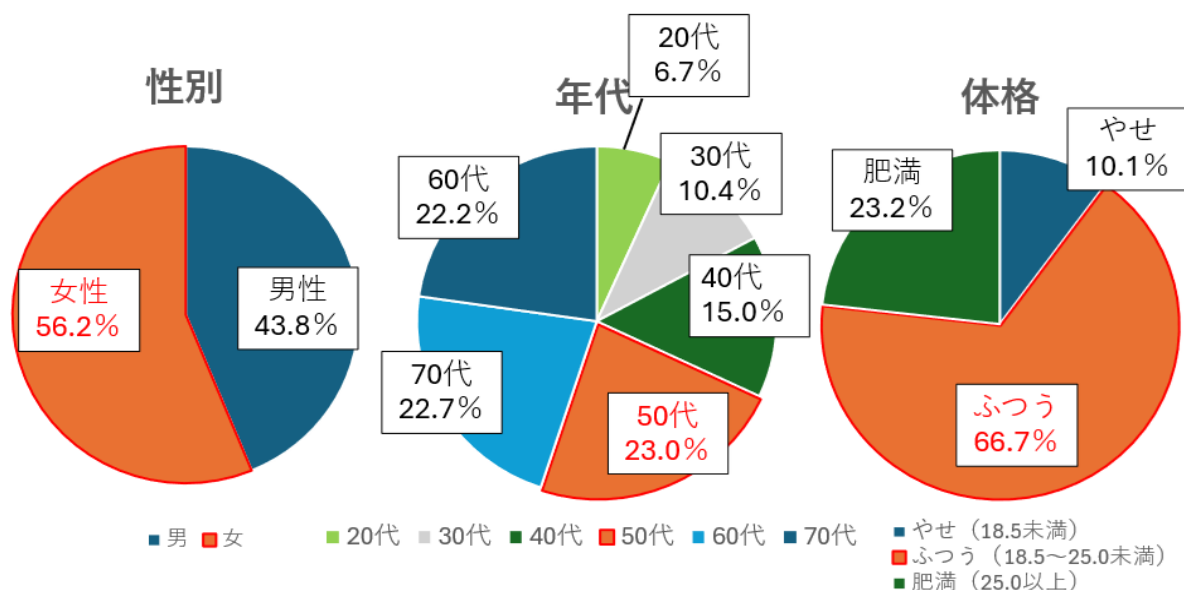


図2 解析対象者の基本属性 (P55.の表1より)

20～30 歳代女性のやせ (BMI18.5 未満) と質問項目の関連 (P55.の表2より)

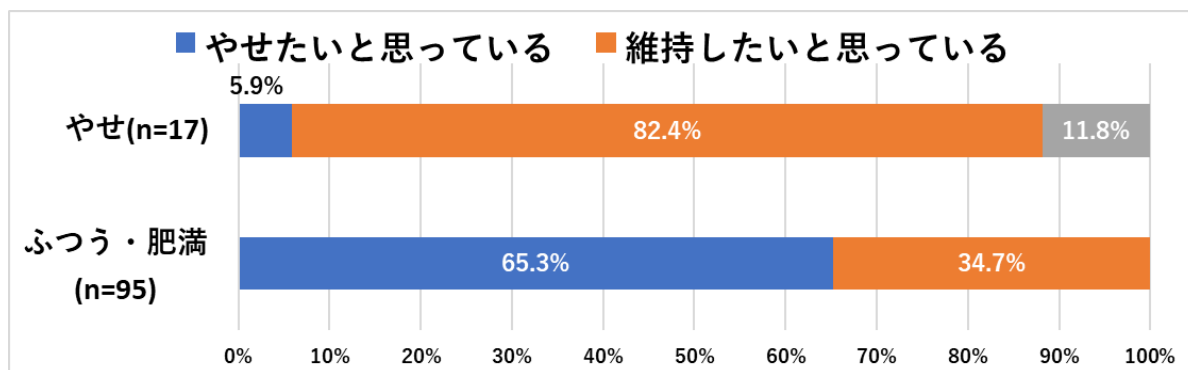


図3 問12. あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。

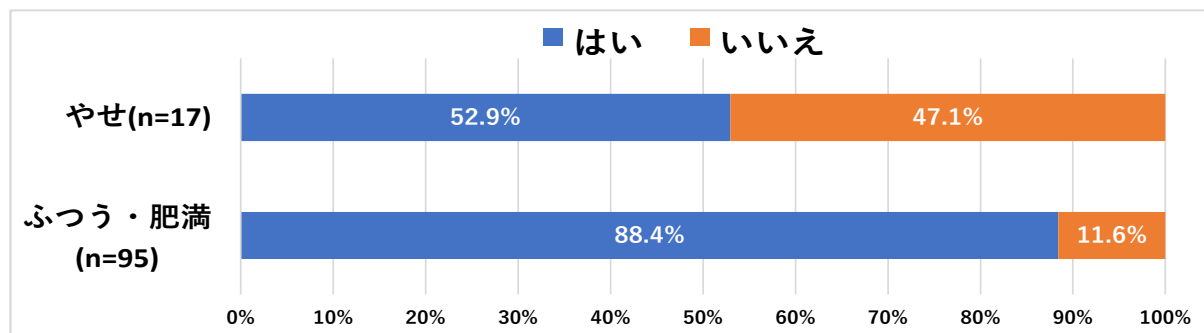
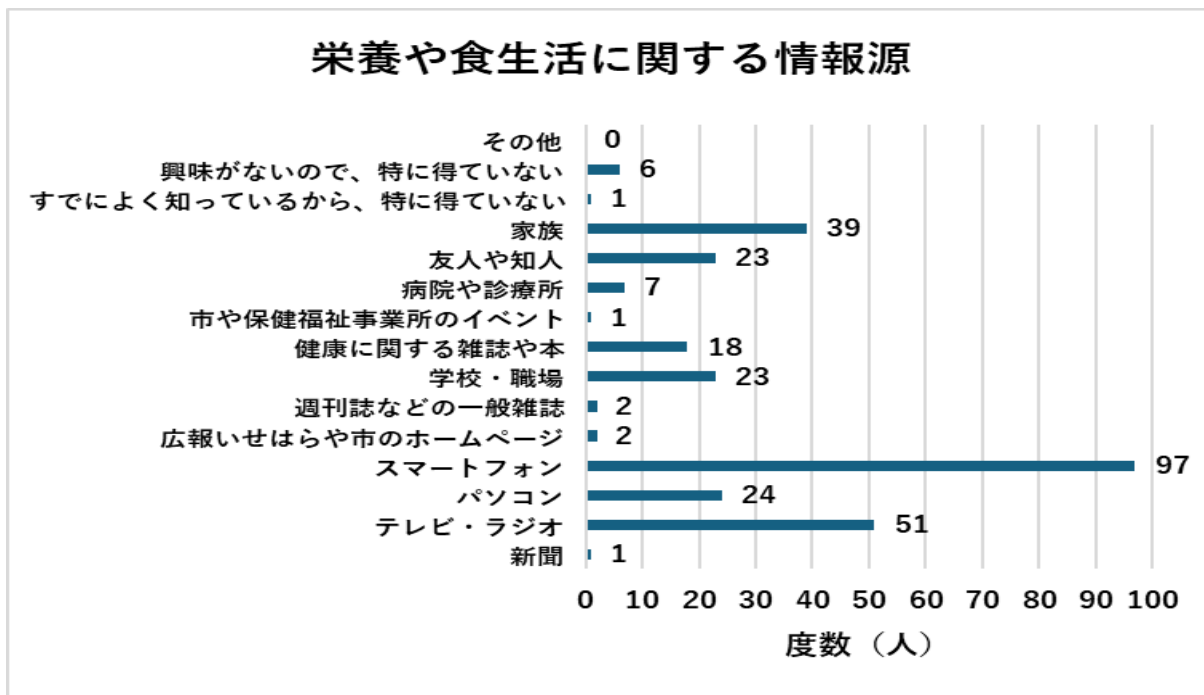


図4 問39. あなたは今、運動不足と感じていますか

※20～30 歳代女性における「栄養や食生活に関する情報源」(問 51)」について、再集計しました。



※再集計 図 5 問 51. 20～30 歳代女性における栄養や食生活に関する情報源

40～50 歳代男性の肥満 (BMI25.0 以上) と質問項目の関連 (P56.の表 3 より)

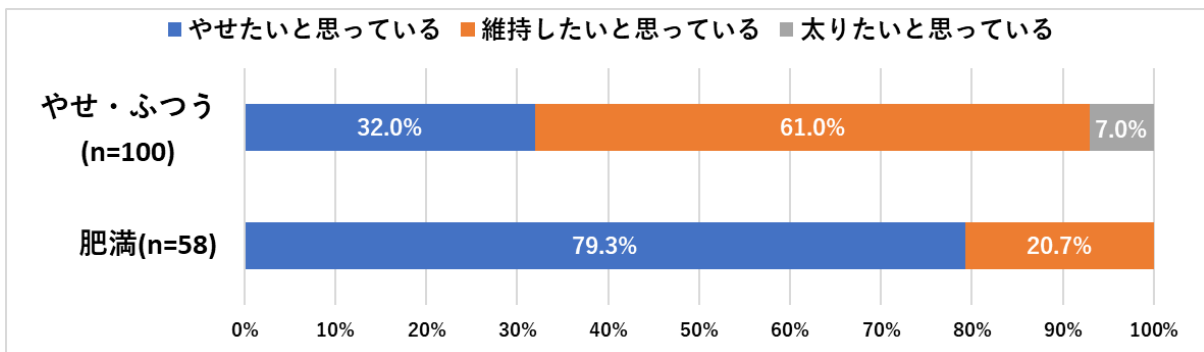


図 6 問 12. あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。

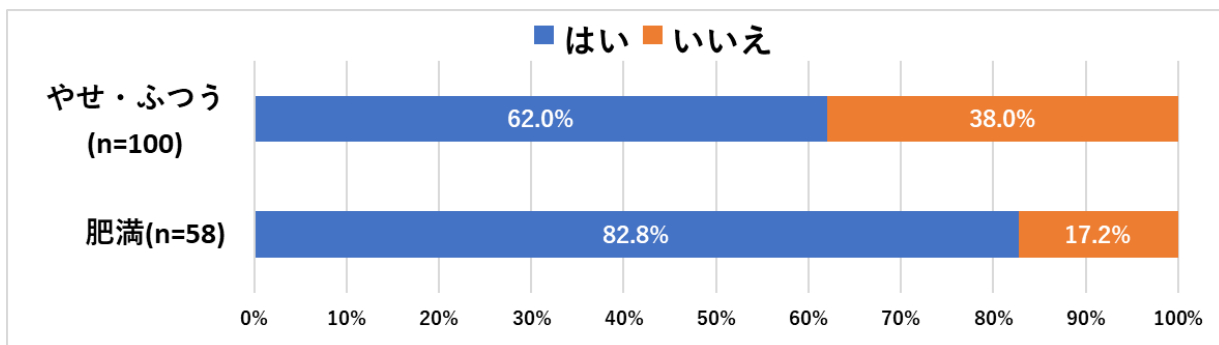


図 7 問 39. あなたは今、運動不足と感じていますか。

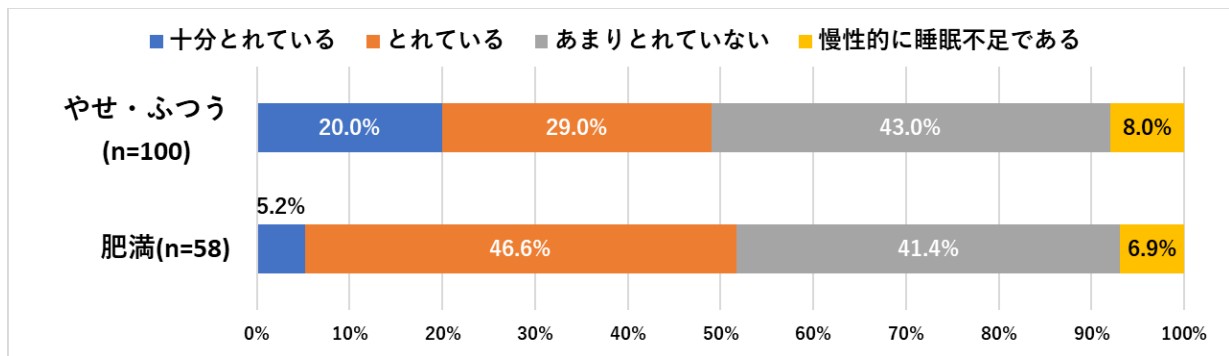


図8 問43. あなたは睡眠を十分にとれていますか。

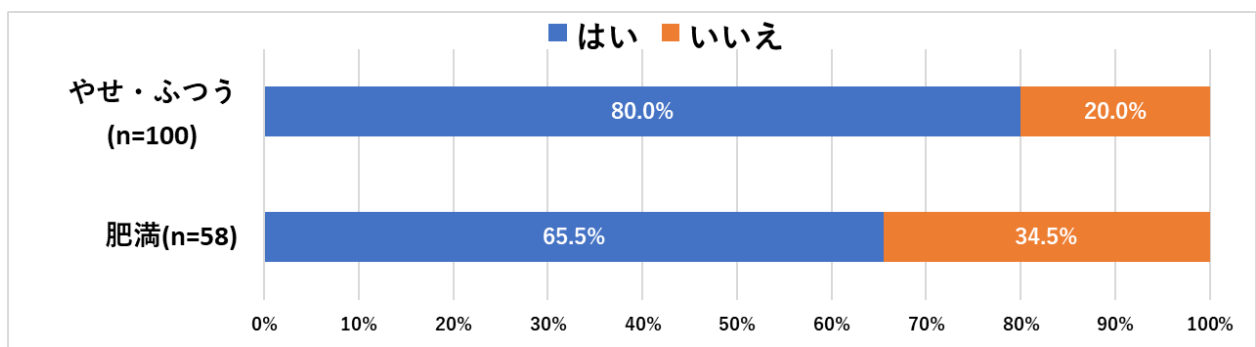


図9 問47. 現在あなたには、生きがいはありますか。

高齢者（65歳以上）の低栄養傾向（BMI20.0以下）と質問項目の関連（P56の表4より）

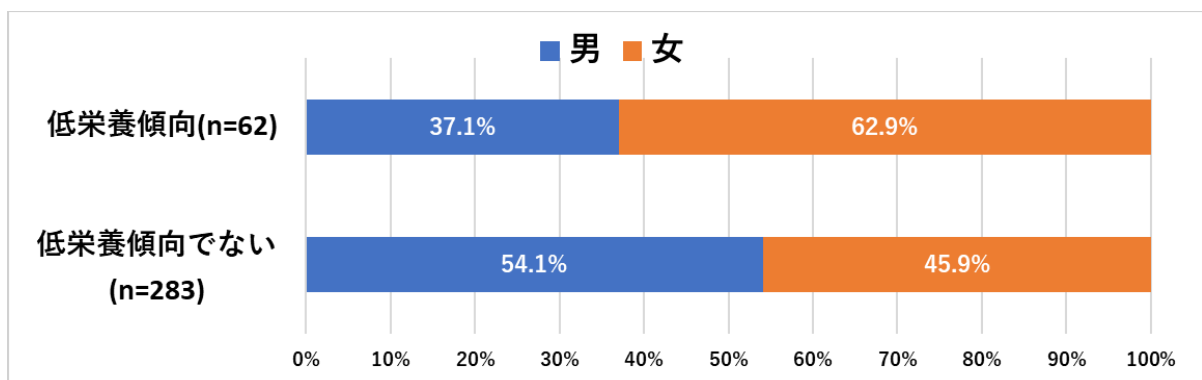


図10 問2. あなたの性別をお答えください。

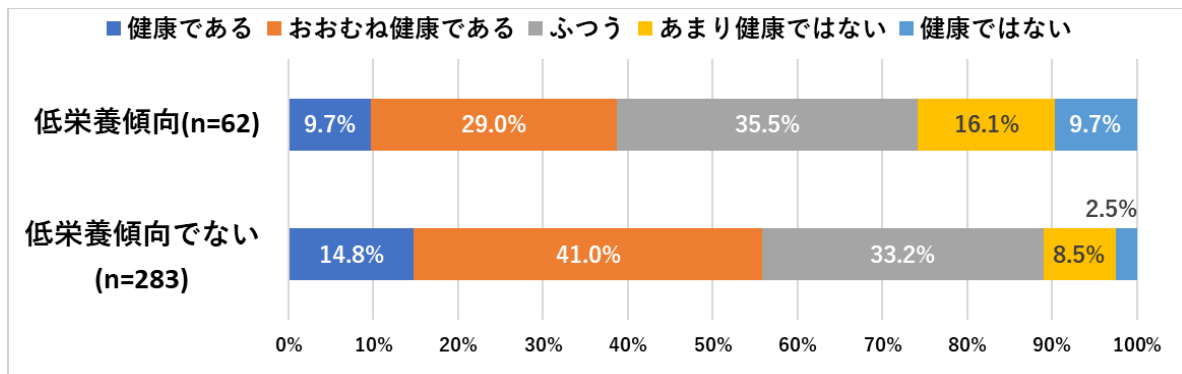


図 11 問 10. あなたは現在、健康だと思いますか。

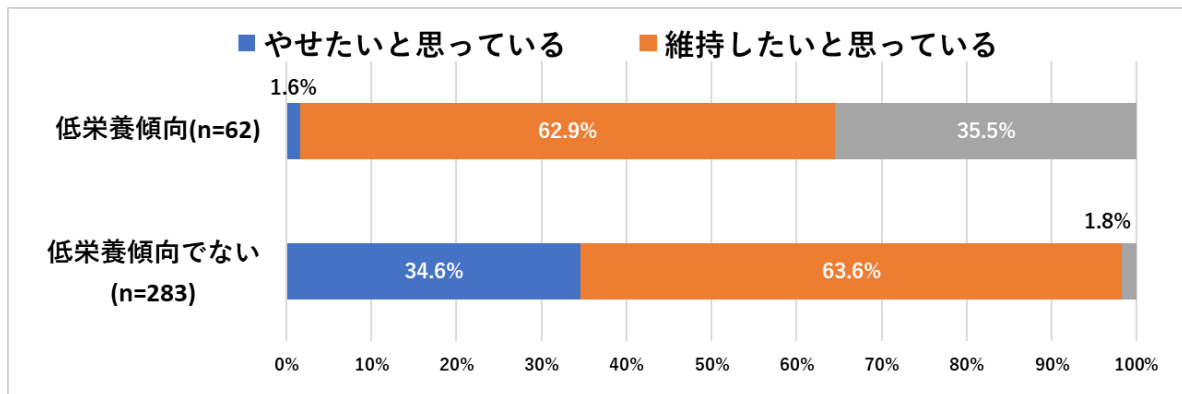


図 12 問 12. あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。

20~30 歳代の朝食欠食（週 1~2 日またはほとんど食べない）と質問項目の関連
 (P57.の表 5 より)

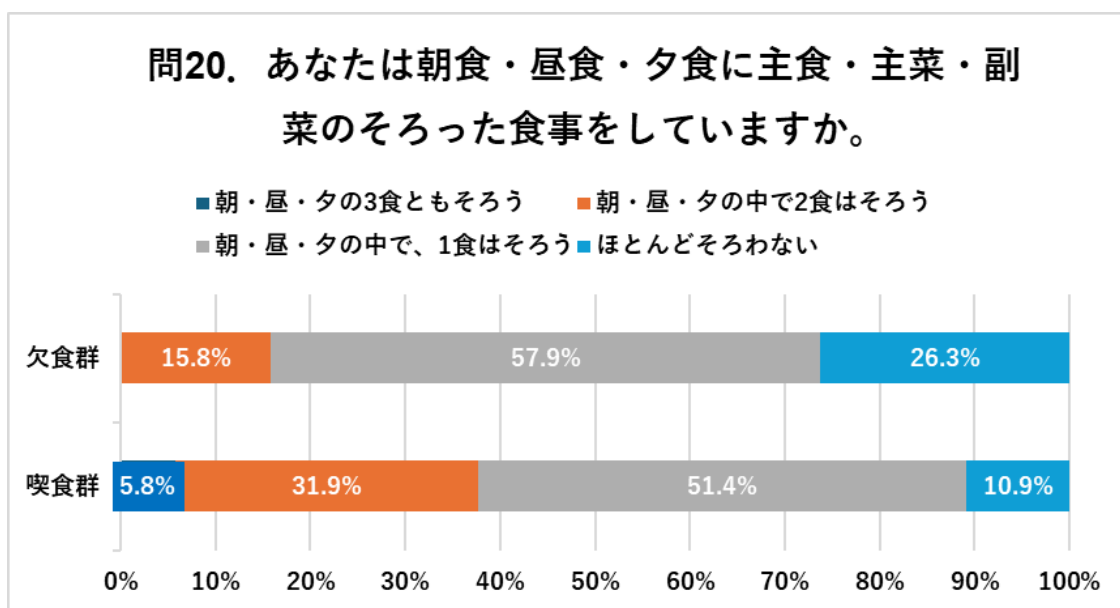


図 13 20. あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。

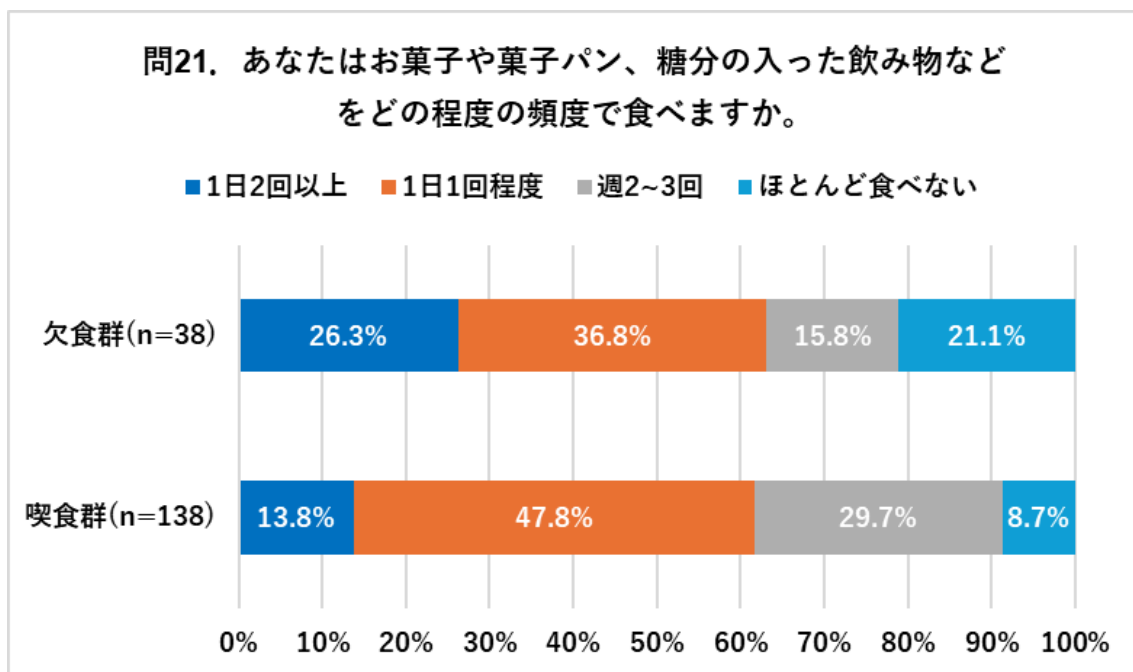


図14 問21. あなたはお菓子や菓子パン、糖分の入った飲み物などをどの程度の頻度で食べますか。

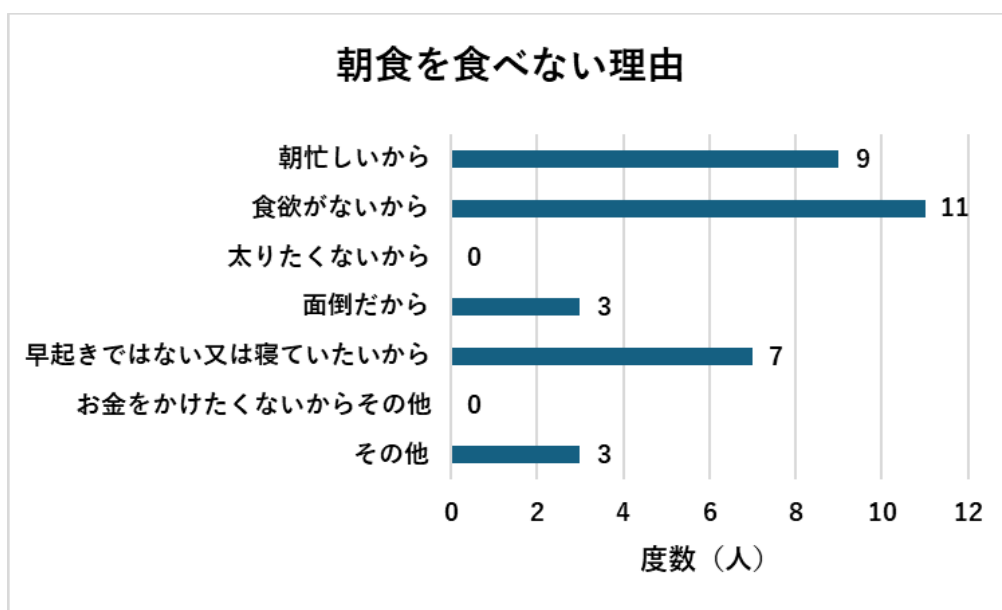


図15 朝食を食べない理由

13.2%

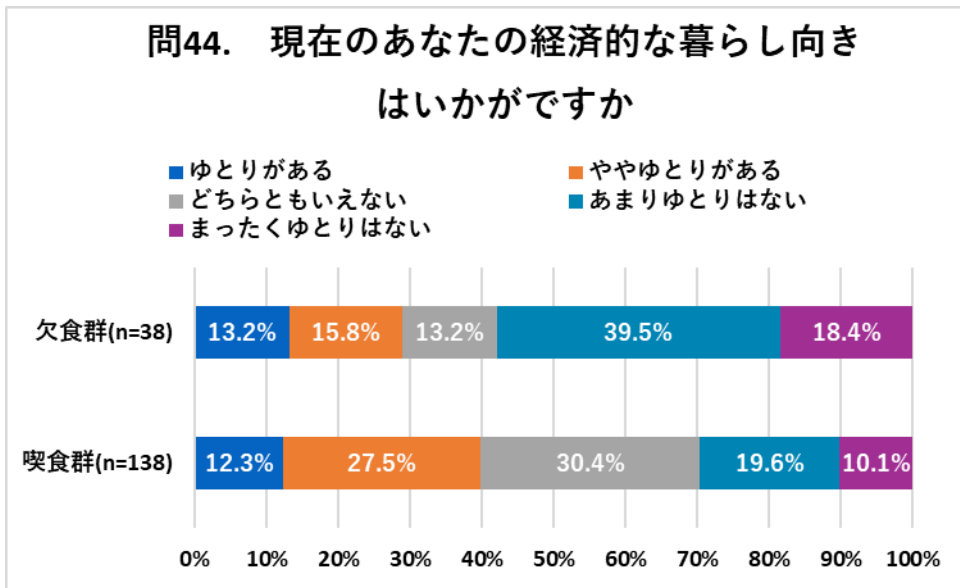


図 16 問 44. 現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。

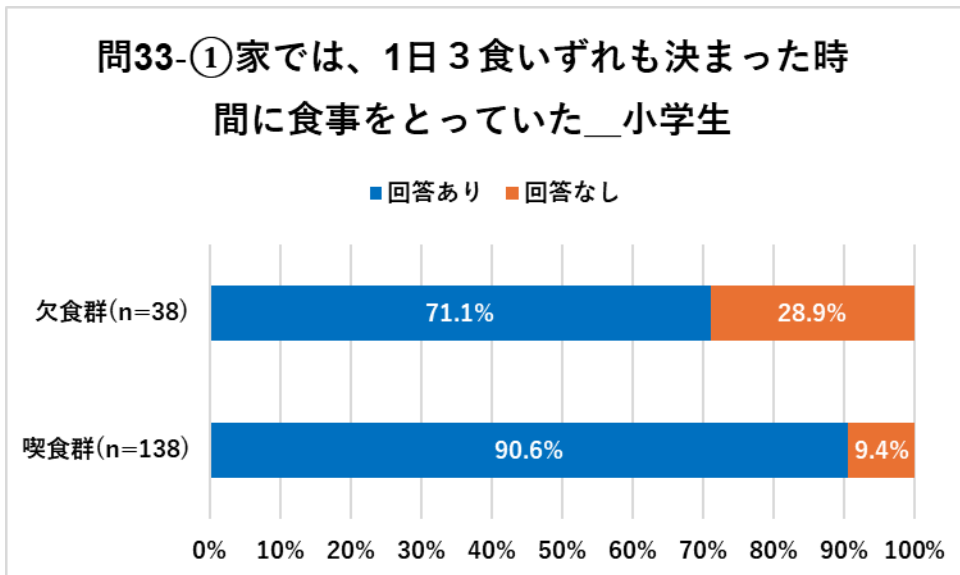


図 17-1 問 33 - ①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた__小学生

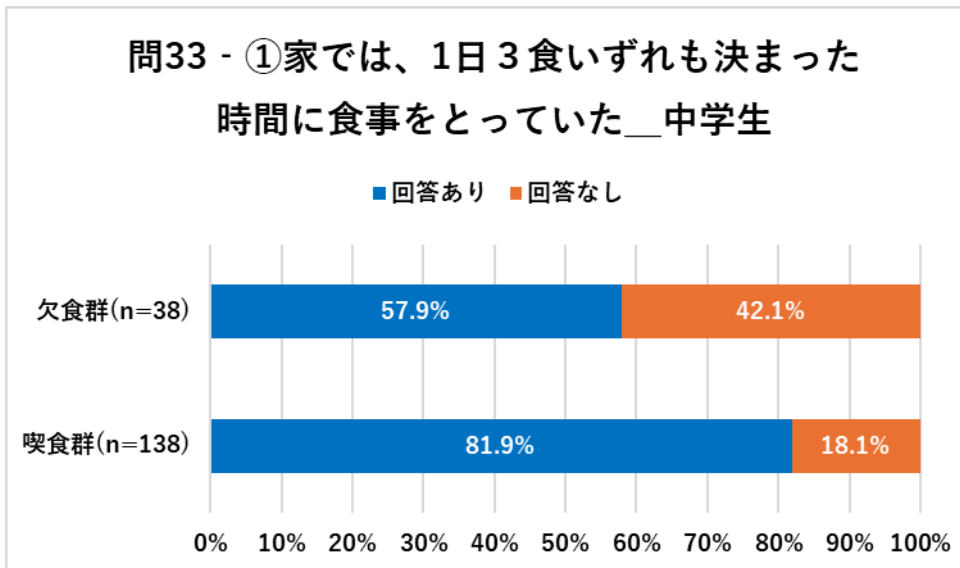


図 17-2 問 33 - ①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた__中学生

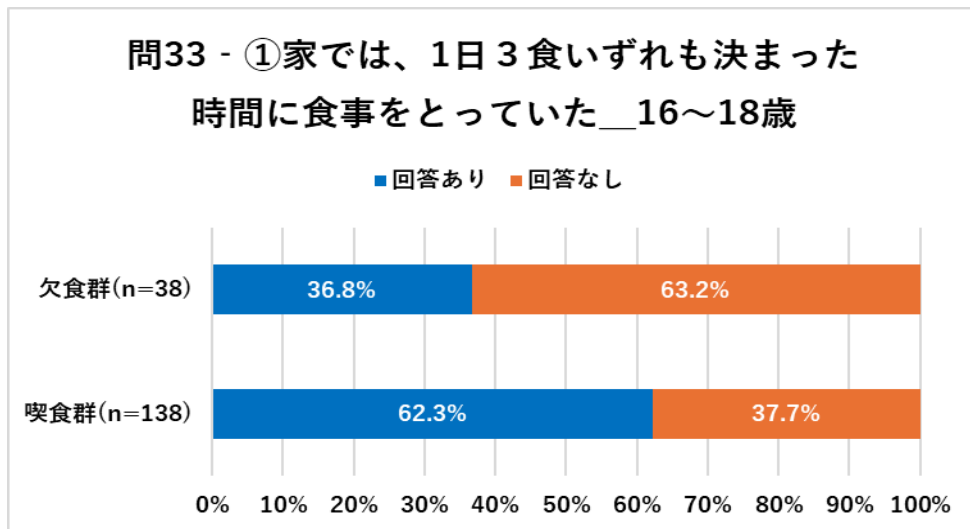


図 17-3 問 33 - ①家では、1日3食いずれも決まった時間に食事をとっていた__16~18歳

朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事を1日に2回以上、ほぼ毎日食べている者と質問項目の関連 (P58.の表6より)

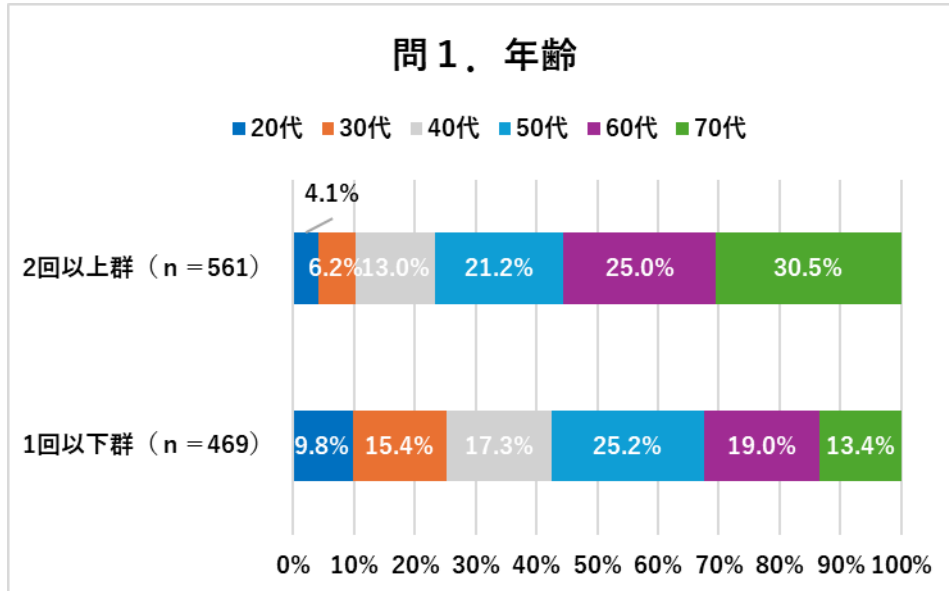


図 18 問 1. 年齢

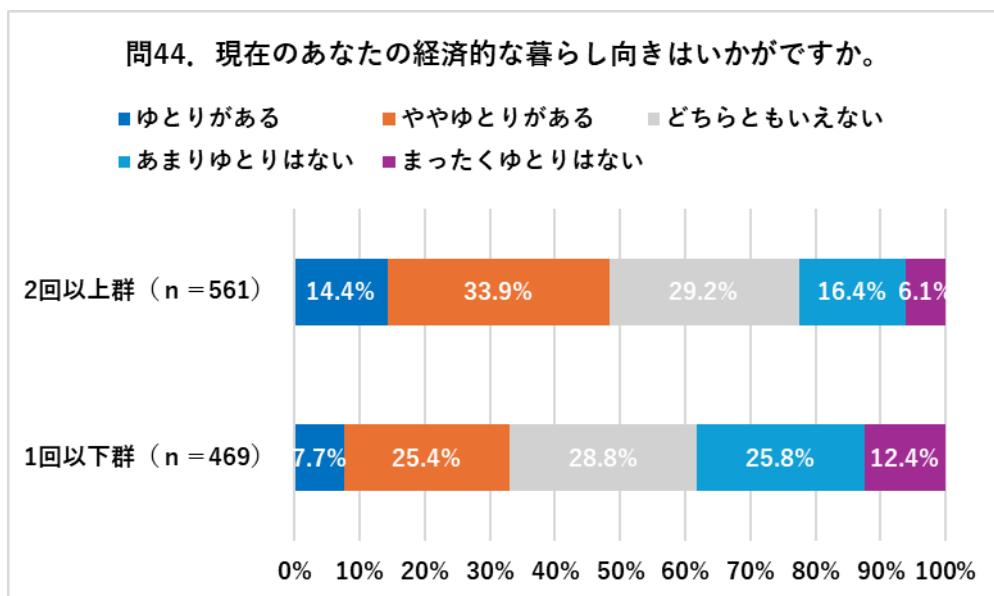


図19 問44. 現在のあなたの経済的な暮らし向きはいかがですか。

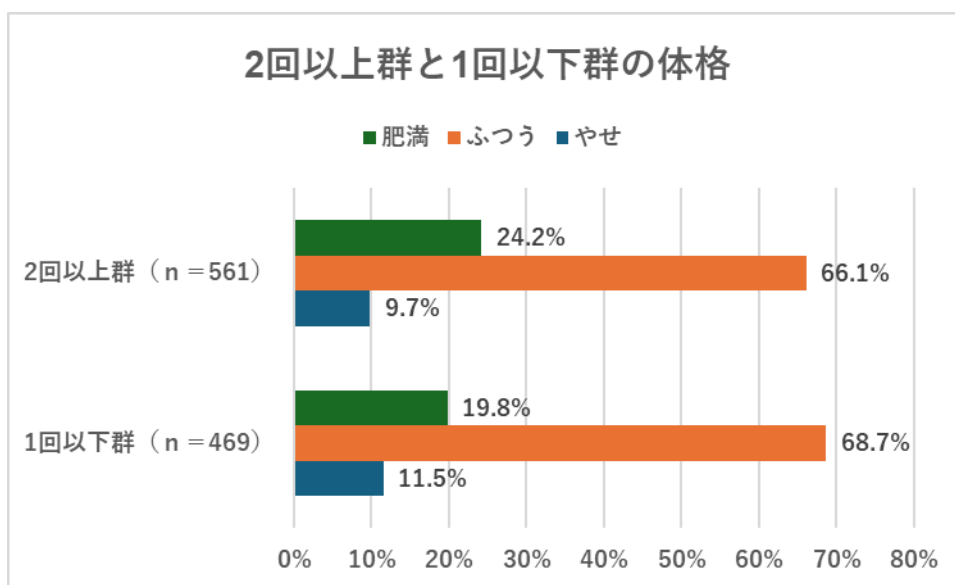


図20 2回以上群と1回以下群の体格

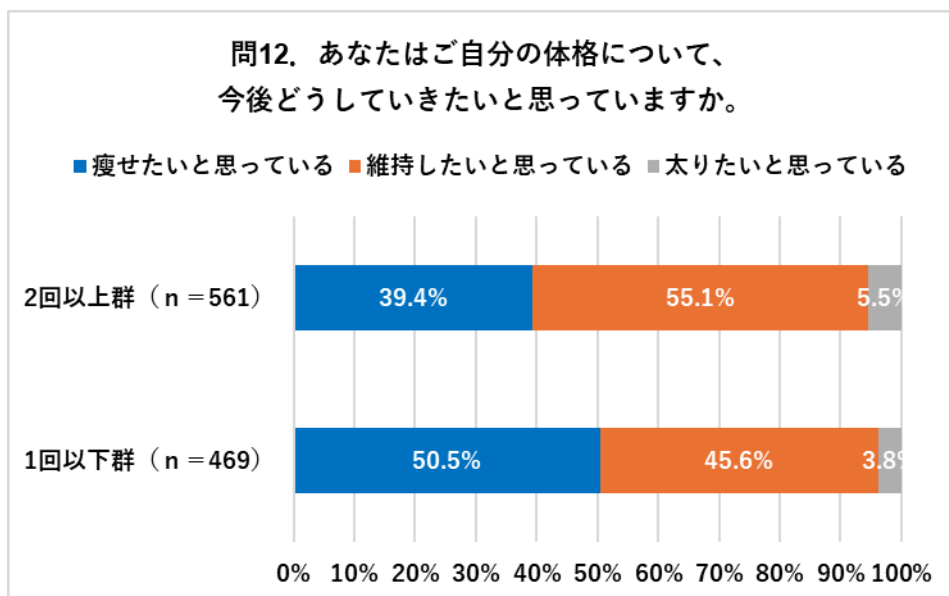


図 21 問 12. あなたはご自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。

1日に1回も共食をしていない者と質問項目の関連 (P59.の表7より)

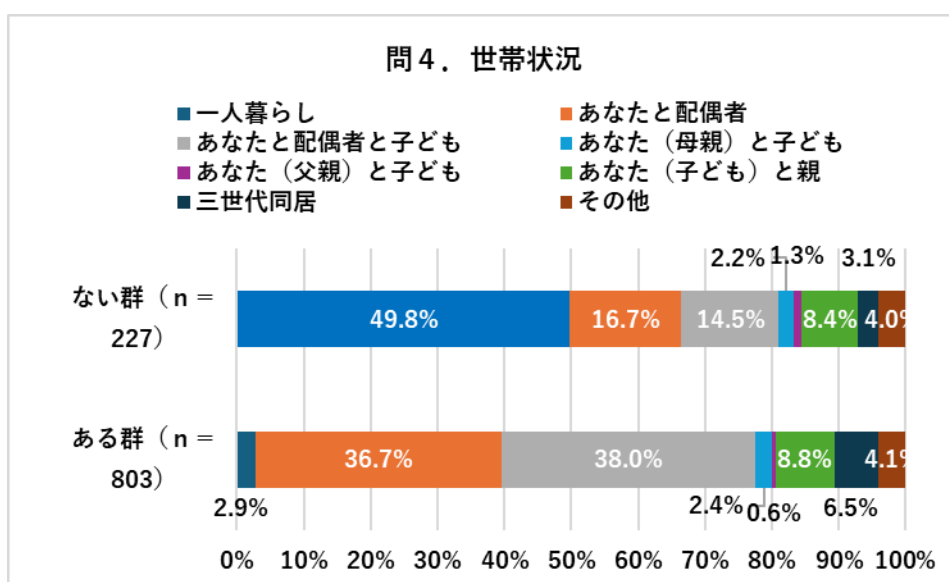


図 22 問 4. 世帯状況

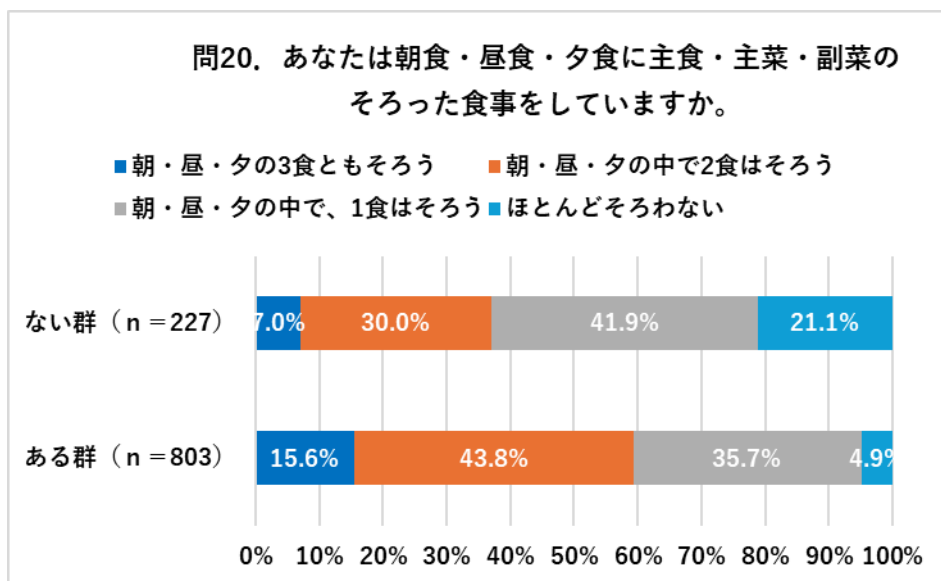


図 23 問 20. あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。

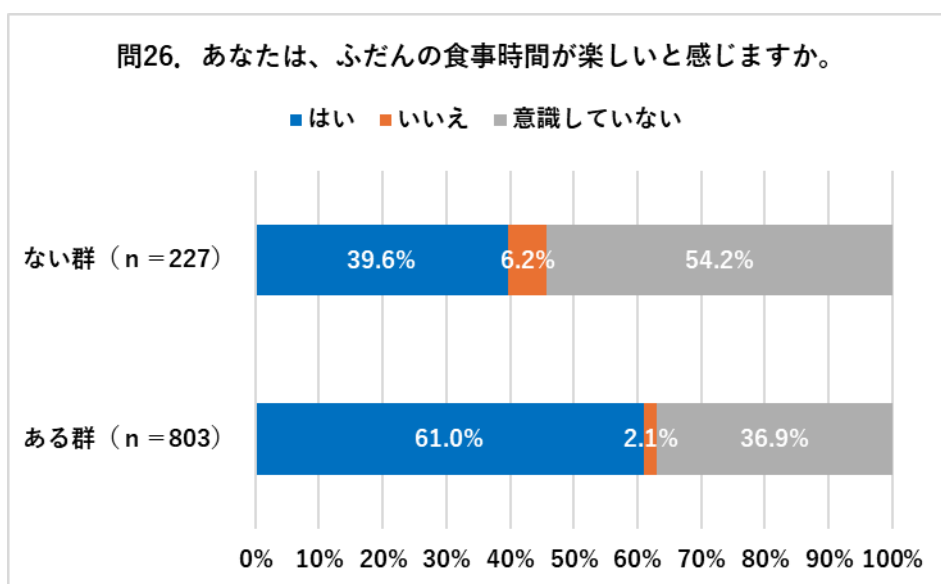


図 24 問 26. あなたは、ふだんの食事時間が楽しいと感じますか。

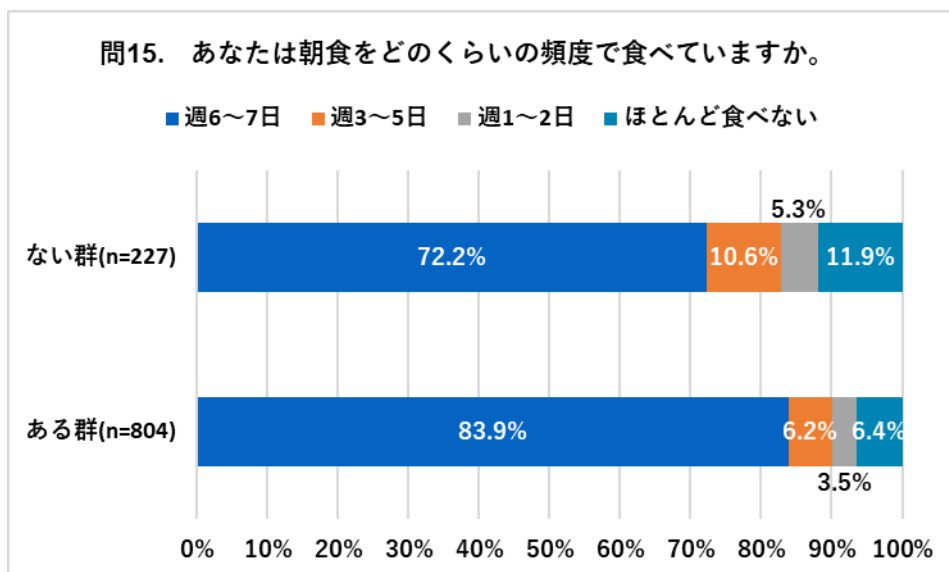


図 25 問 15. あなたは朝食をどのくらいの頻度で食べていますか。

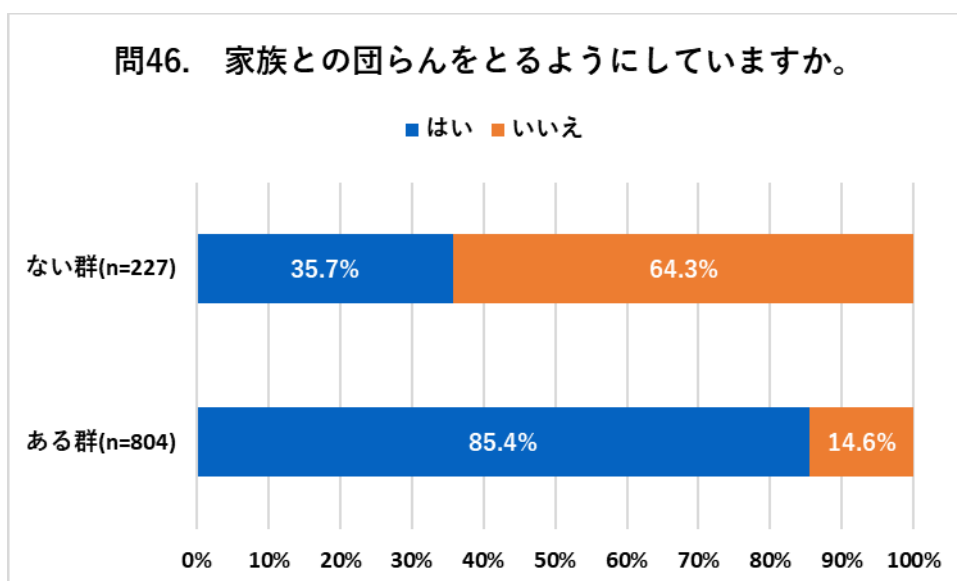


図 26 問 46. 家族との団らんをとるようにしていますか。

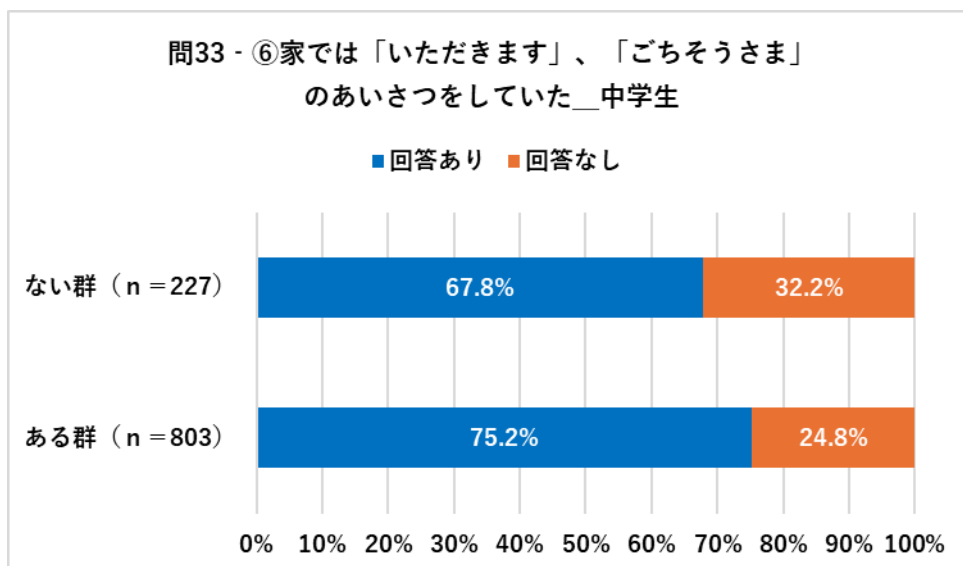


図 27-1 問 33 - ⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた_中学生

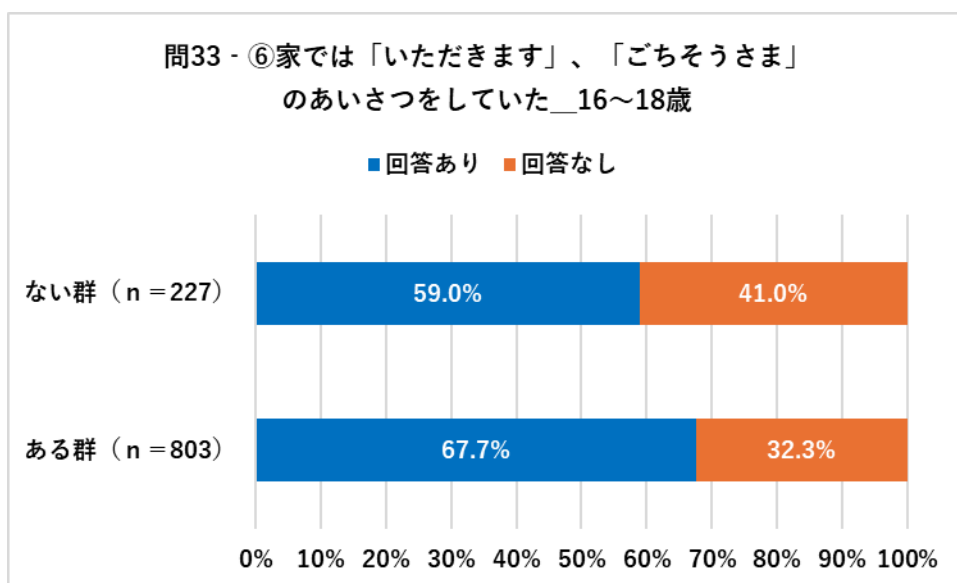


図 27-2 問 33 - ⑥家では「いただきます」、「ごちそうさま」のあいさつをしていた_16~18歳

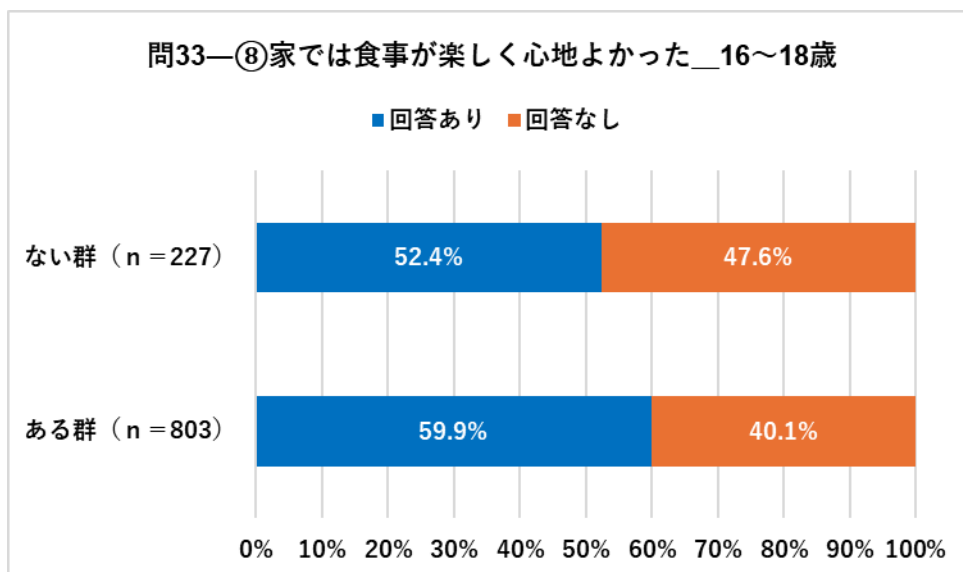


図 28 問 33—⑧家では食事が楽しく心地よかった__16～18 歳

ゆっくりよくかんで食べる意識がある者と質問項目の関連 (P60.の表 8 より)

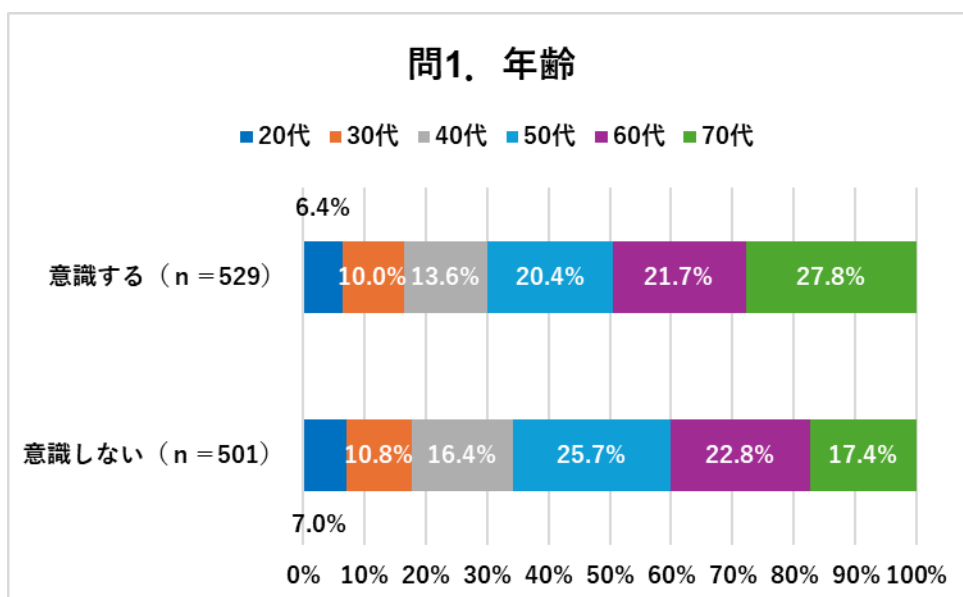


図 29 問 1. 年齢

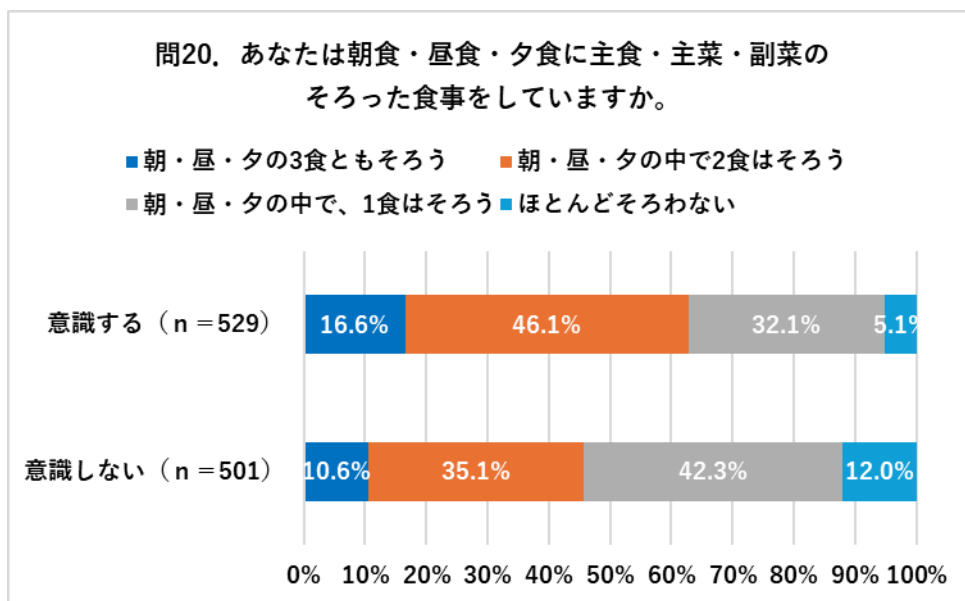


図 30 問 20. あなたは朝食・昼食・夕食に主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。

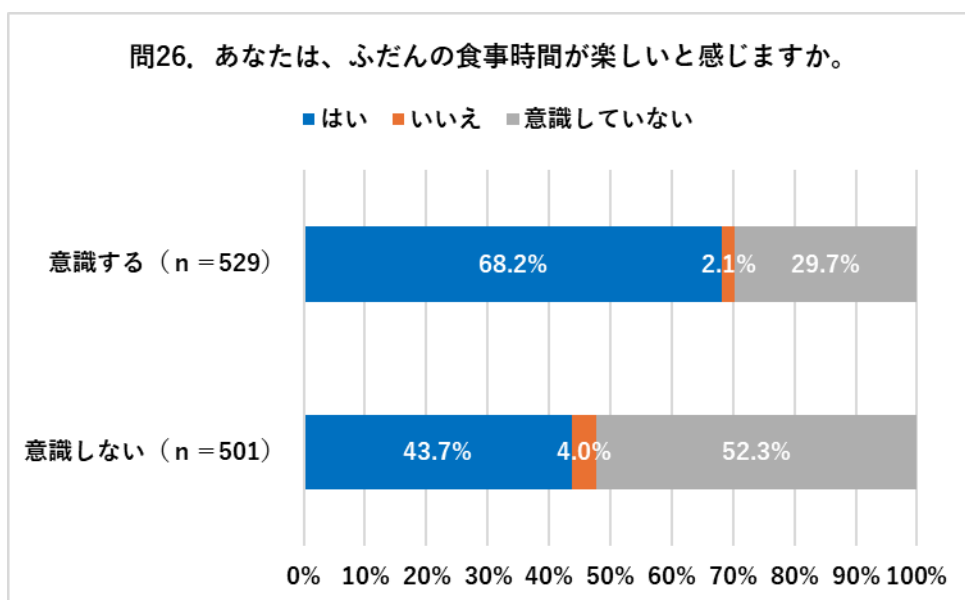


図 31 問 26. あなたは、ふだんの食事時間が楽しいと感じますか。

健康日本21 (第二次) 項目	目標	伊勢原市重点目標指標	伊勢原市
20歳代女性のやせの者の割合	20.0%	20～30歳代女性のやせの人の割合	15.2%
20～60歳代男性の肥満者の割合	28.0%	40～50歳代男性の肥満の人の割合	36.7%
低栄養傾向の高齢者の割合	22.0%	高齢者の低栄養傾向の人の割合	18.0%
主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加	80.0%	主食・主菜・副菜を組み合わせた食事が1日2回以上の日がほぼ毎日の者の割合の増加	54.5%

図 32 健康日本 21 と伊勢原市の目標値

(4) 高校生への食育調査結果

市内 A 県立高等学校 1 年生 アンケート集計結果

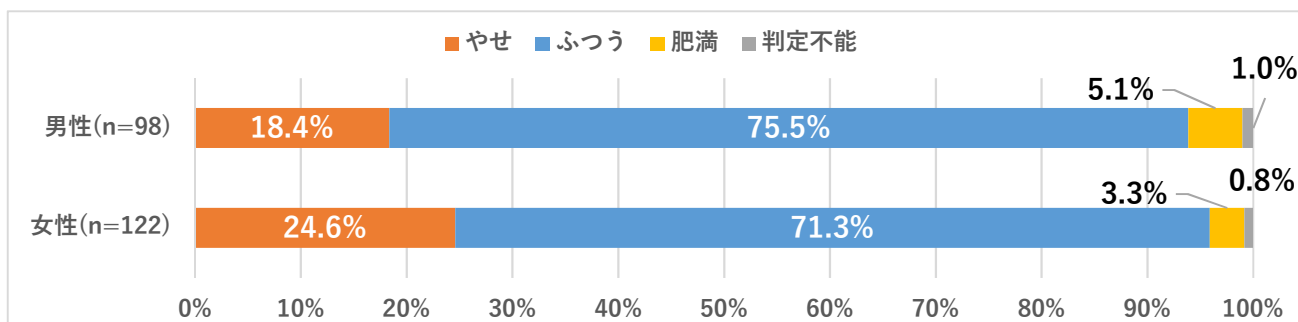
令和 7 年 1 0 月実施

回答数：2 2 3 名（男性 9 8 名、女性 1 2 2 名、不明 3 名）

1. あなたの BMI はいくつでしたか

ふつうの生徒は、男性で約 8 割、女性で約 7 割。

やせの生徒は、男女ともに約 2 割。

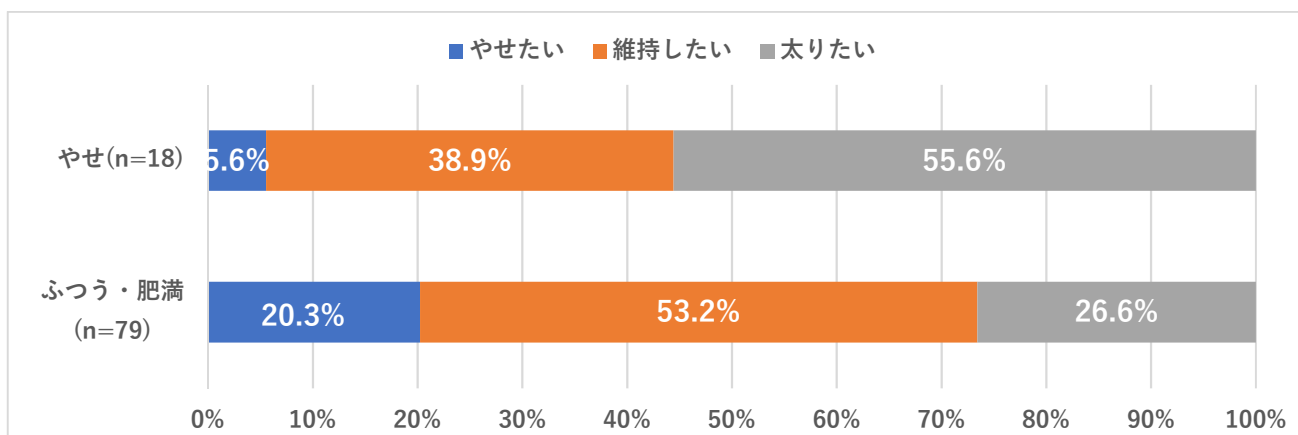


2. あなたは自分の体格について、今後どうしていきたいと思っていますか。

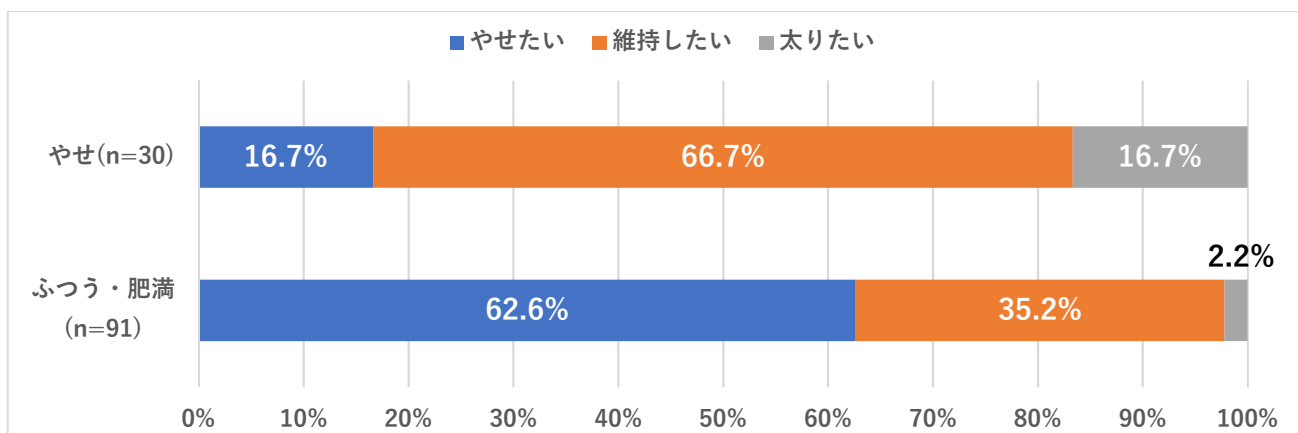
「やせたい」と思う生徒は、男性で約 2 割、女性で約 5 割。

やせ群では、男子で「太りたい」が約 6 割、女子で「維持したい」が約 7 割。

・男性



・女性

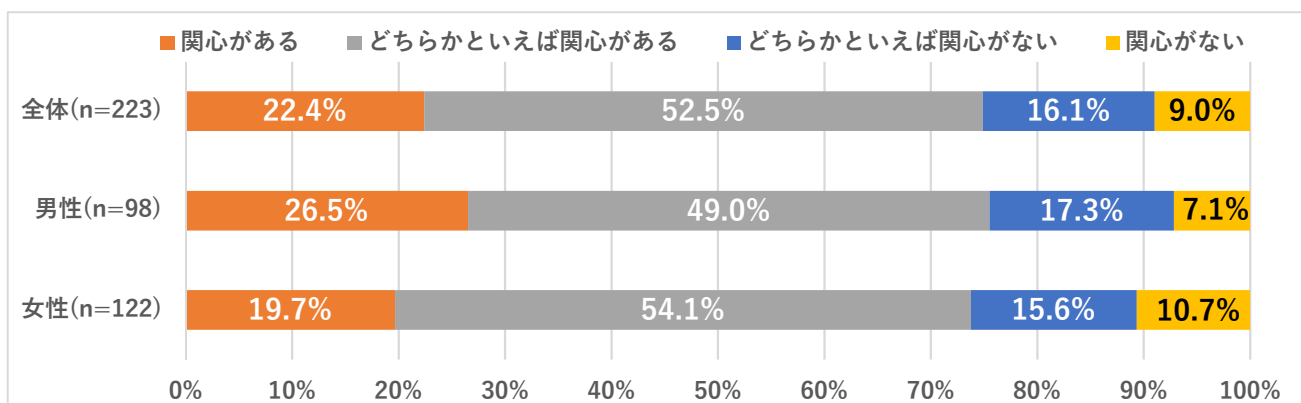


3. あなたは「食育」に関心がありますか。

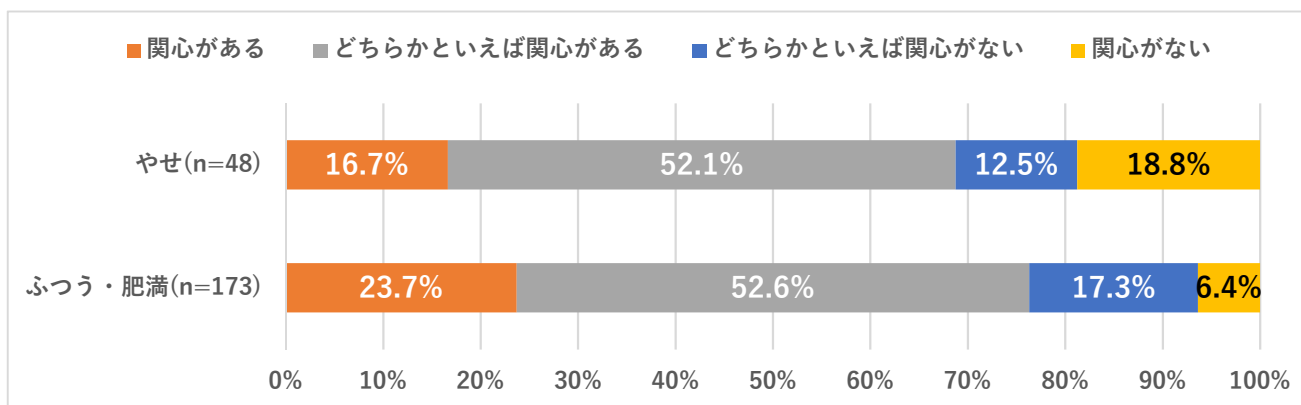
食育に「関心がある」「どちらかといえば関心がある」生徒は男女ともに約7割。

BMI別では、「関心がある」「どちらかといえば関心がある」生徒は、やせ群で約7割、ふつう・肥満群で約8割。

・性別



・BMI別

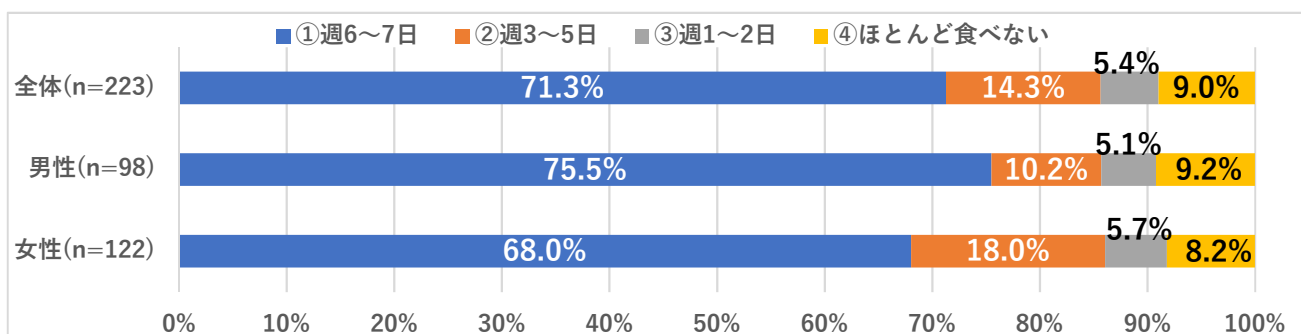


4.あなたは朝食をどのくらいの頻度で食べていますか。

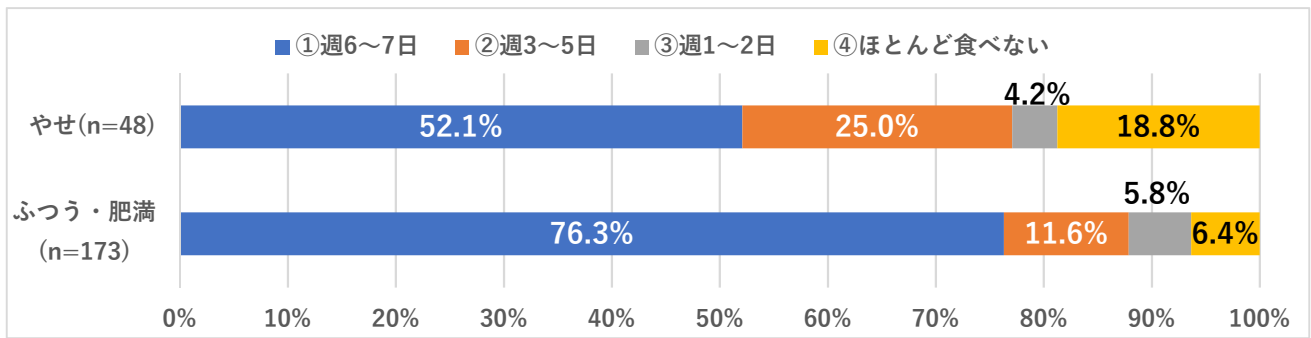
朝食を食べる頻度が「週1～2日以下」「ほとんど食べない」の生徒は、男女ともに約1割。

BMI別では、朝食を食べる頻度が「週1～2日」「ほとんど食べない」の生徒は、やせ群では約2割、ふつう・肥満群では約1割。

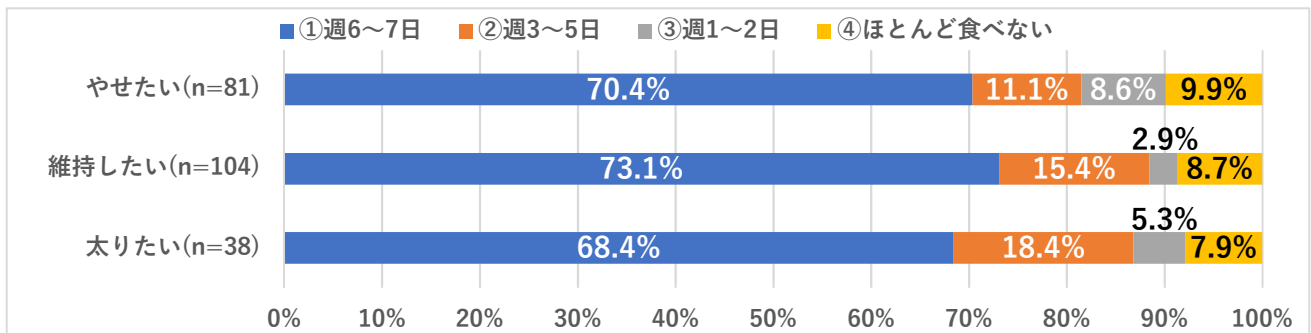
・性別



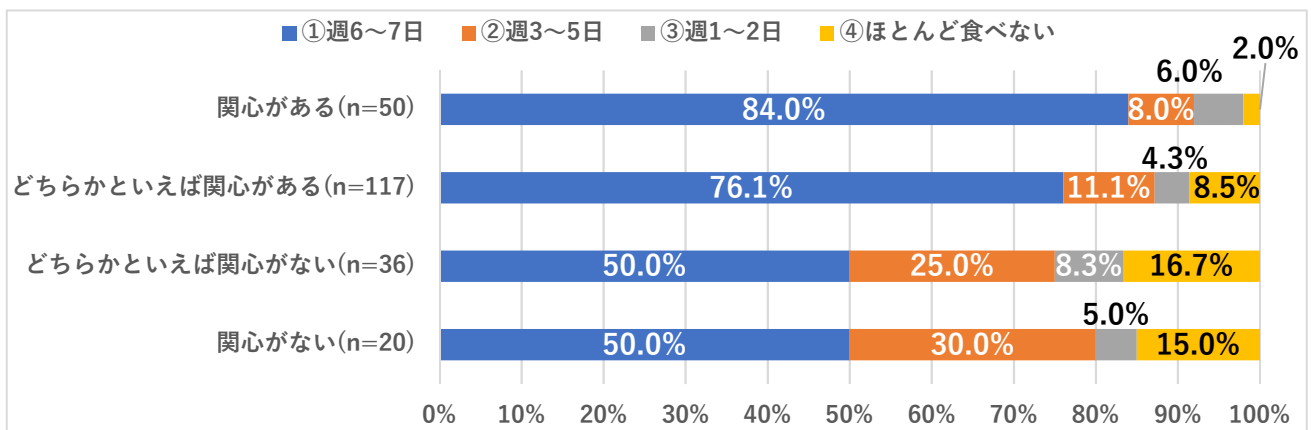
・BMI 別



・今後の体格願望別

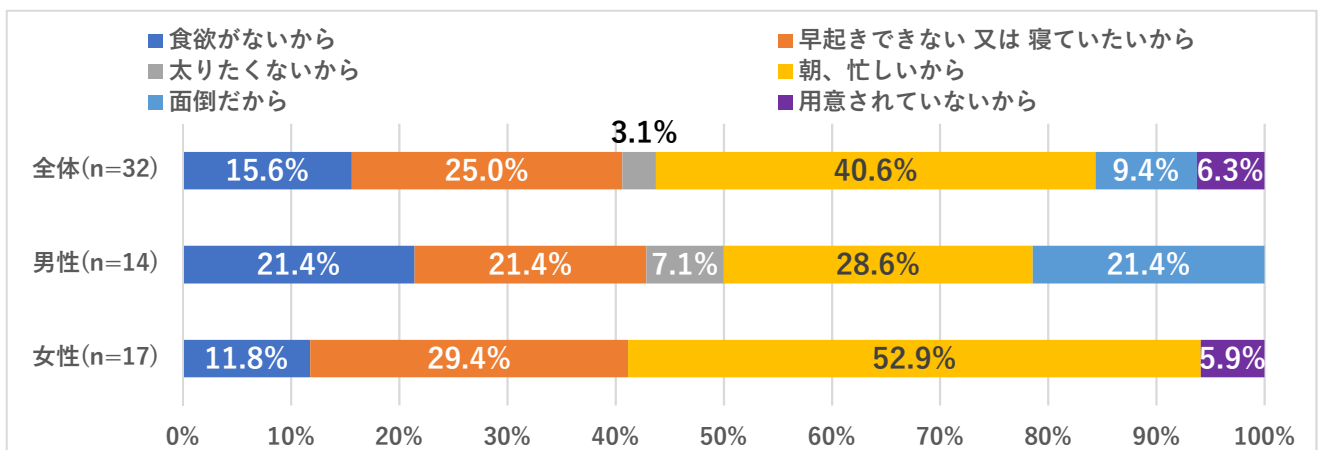


・食育への関心別



4-2. 【③④を回答した者のみ】朝食を食べない理由は何ですか

朝食を食べない理由として、「朝、いそがしいから」が最も多く、男性で約3割、女性で約5割。

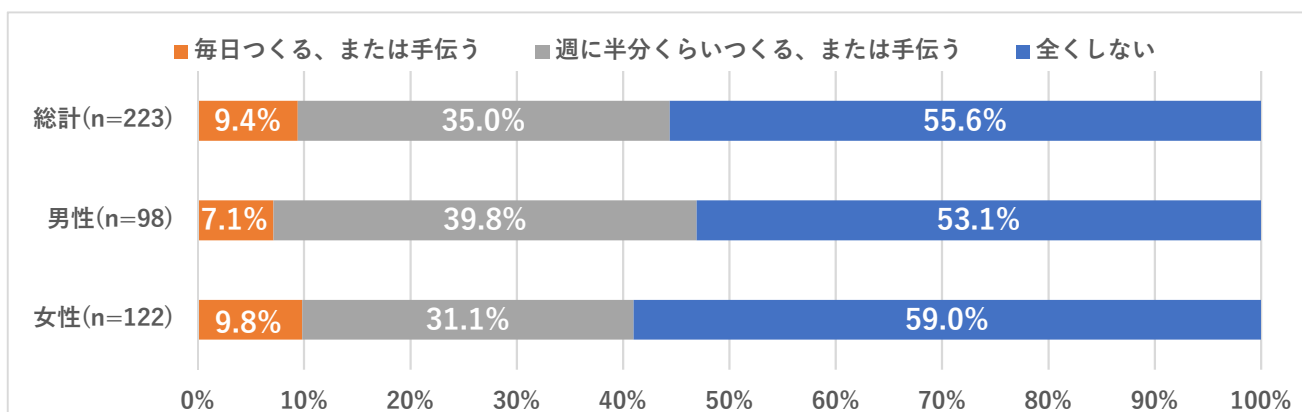


5. 食事づくり、または食事づくりの手伝いをどのくらいしていますか。

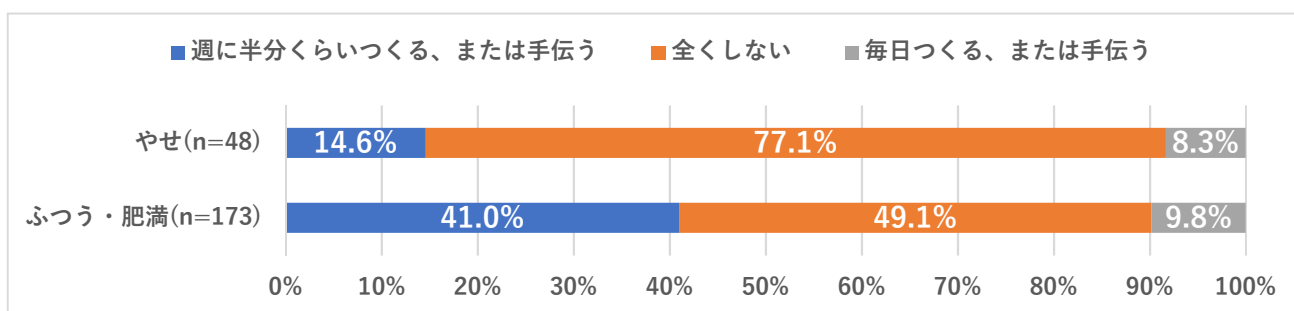
「毎日つくる、または手伝う」「週に半分くらいつくる、または手伝う」生徒は、男性で約5割、女性で約4割。

BMI別では、肥満の人ほど「毎日つくる、または手伝う」「週に半分くらいつくる、または手伝う」生徒が多く、やせ群では約2割、ふつう・肥満群では約5割。

・性別



・BMI別

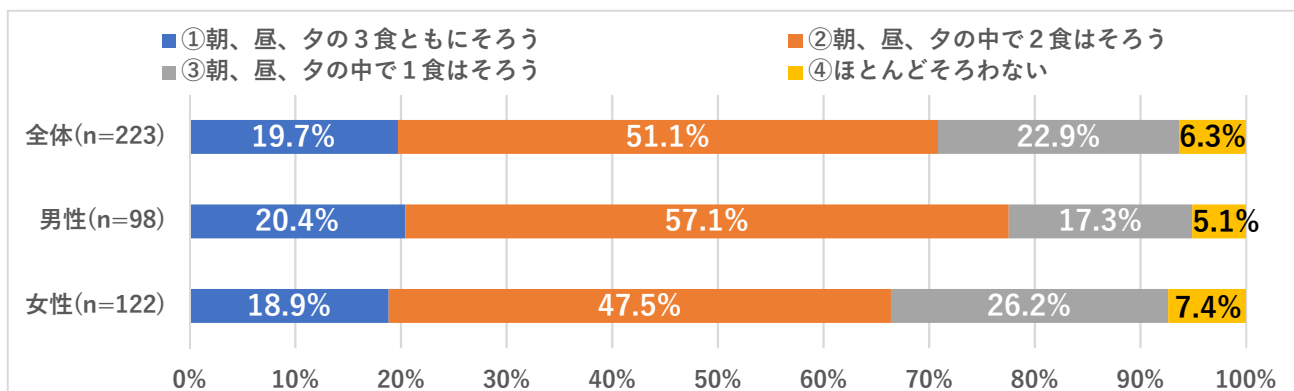


6. あなたは朝食・昼食・夕食に、主食・主菜・副菜のそろった食事をしていますか。

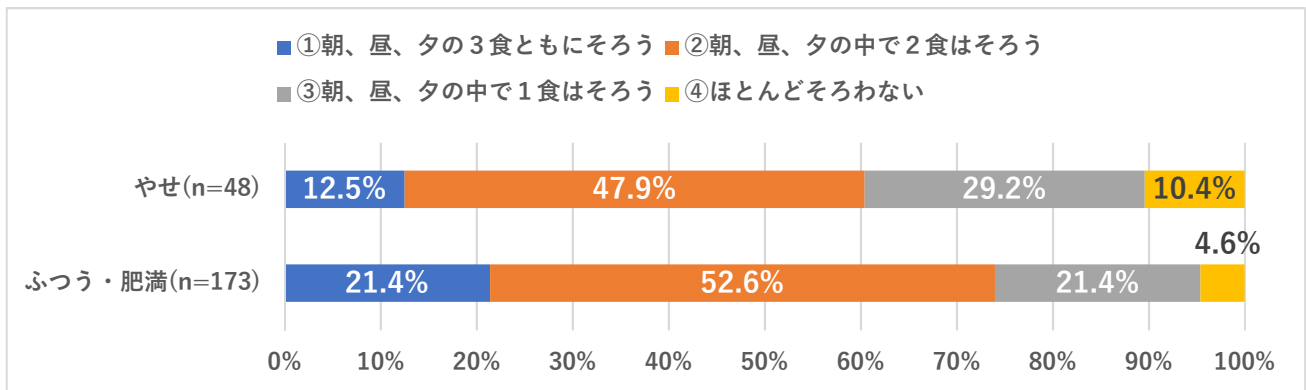
「朝、昼、夕の3食ともにそろう」「朝、昼、夕の中で2食はそろう」生徒は、男性で約8割、女性で約7割。

BMI別では、「朝、昼、夕の3食ともにそろう」「朝、昼、夕の中で2食はそろう」生徒は、やせ群で約6割、ふつう・肥満群で約7割。

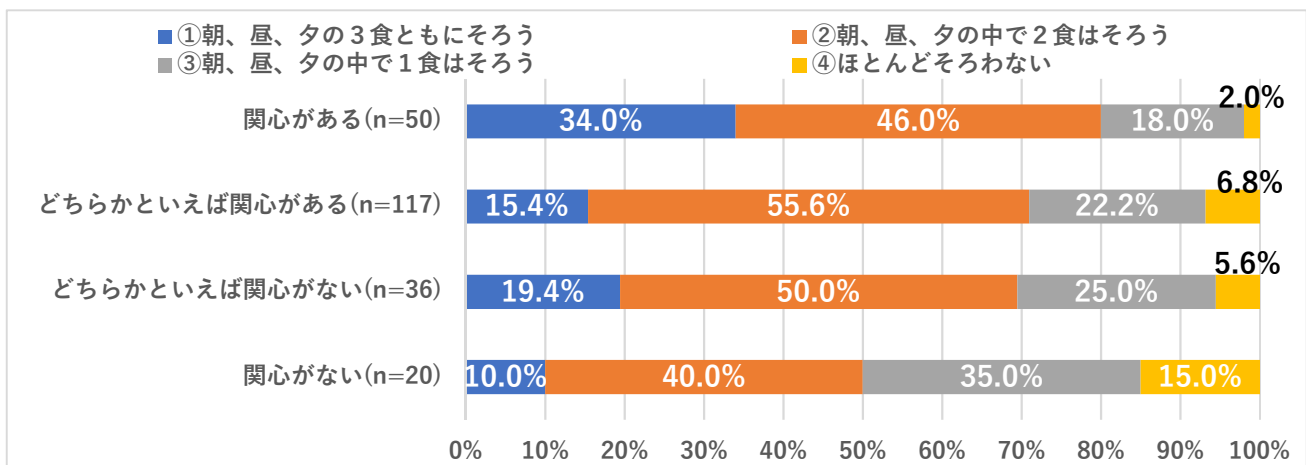
・性別



・BMI 別

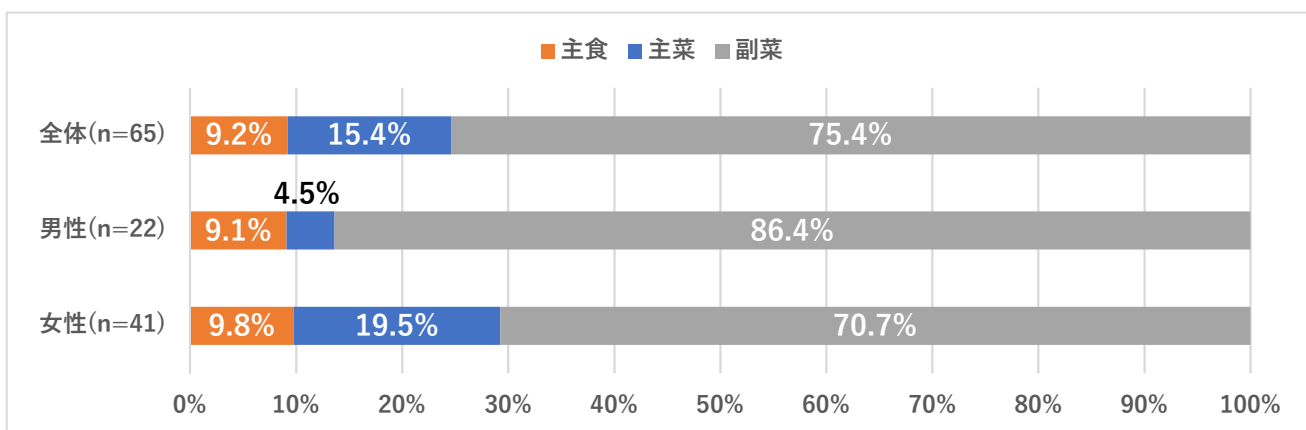


・食育への関心別



6-2. 【③④を回答した者のみ】主食・主菜・副菜のうち、最もそろいにくいものは何ですか

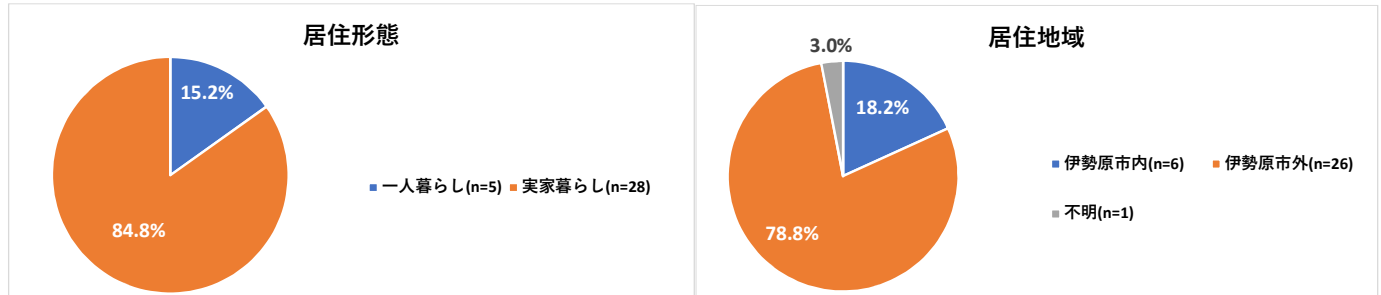
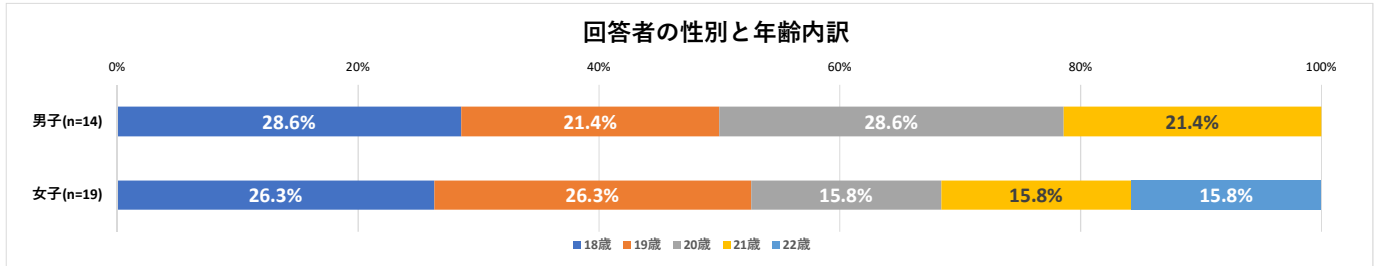
「副菜」がそろいにくい生徒が最も多く、男性で約9割、女性で約7割。



(5) 大学生への食育調査結果

市内A大学 食育意識アンケート調査

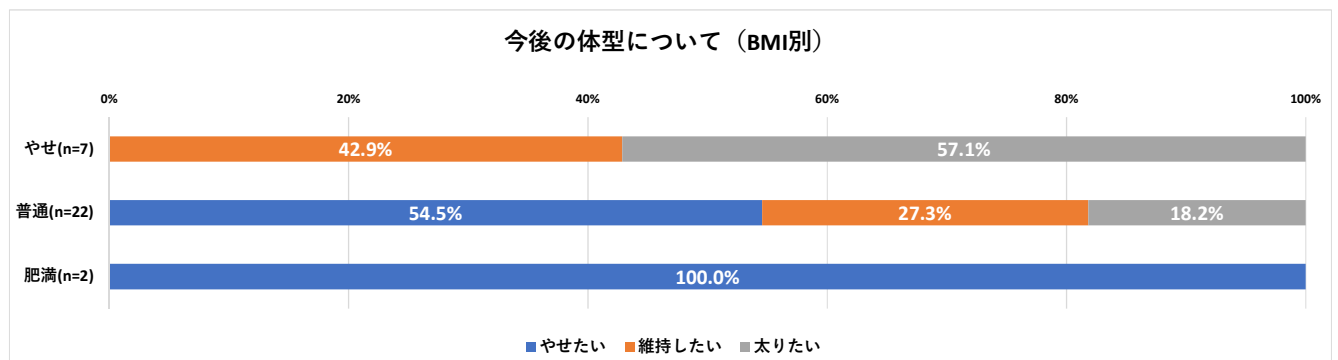
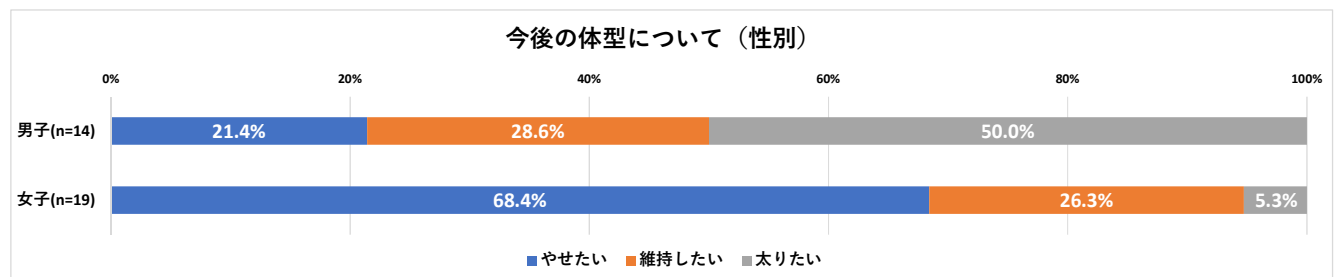
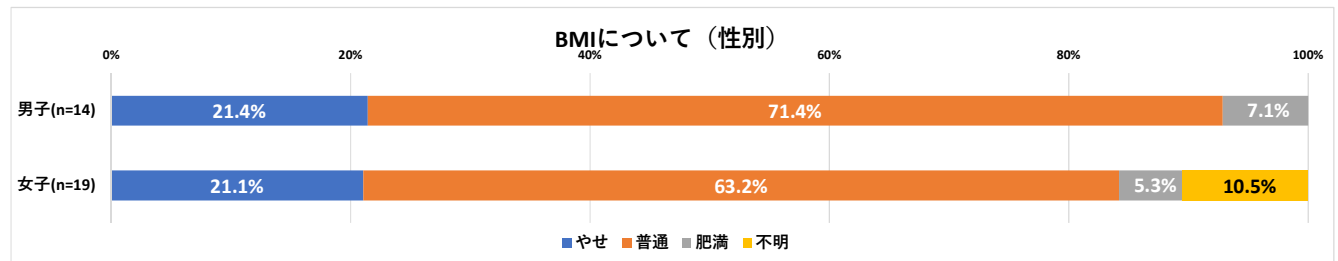
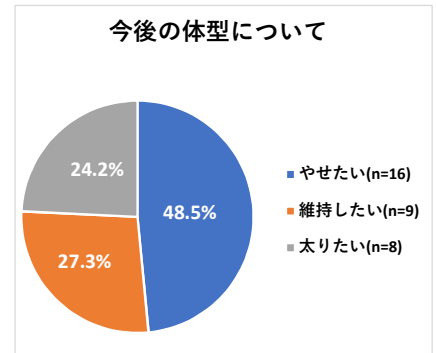
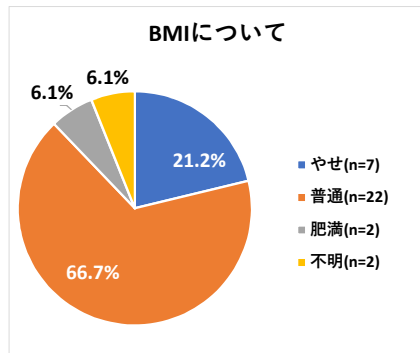
回答期間：6月16日~7月31日 回答数：33名(男性14名、女性19名)



体格について

BMIについては、男女ともに普通体型の学生が多く、男子で約7割、女子で約6割。やせの学生は男女ともに約2割。

今後の体型については、「やせたい」と思う学生が約5割。性別では、やせたいと思う女子は約7割。BMI別では、普通/肥満でやせたいと思っている人が多い。

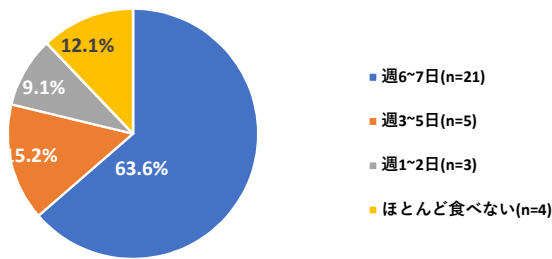


朝食について

一人暮らし群、実家暮らし群ともに、ほぼ毎日朝食を食べている者は約6割。

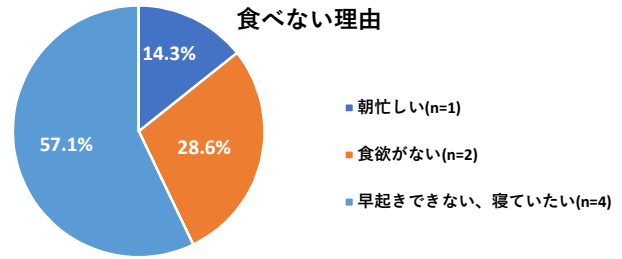
朝食を食べない理由としては、「早起きできない、寝ていたい」が多かった。

朝食頻度

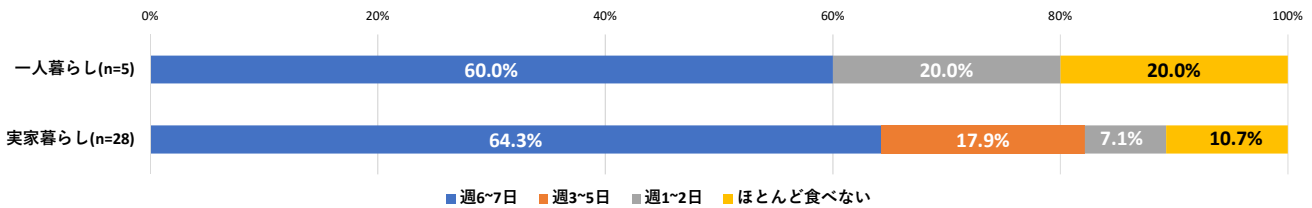


【週3日未満と回答した者】

食べない理由



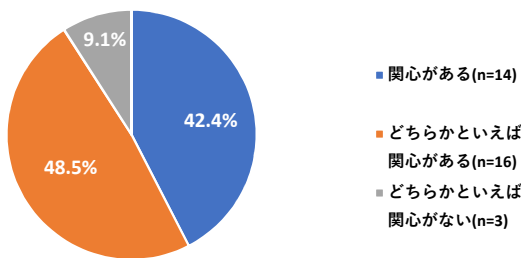
朝食頻度（居住形態別）



食育への関心について

「関心がある」と答えた者が約4割、「どちらかといえば関心がある」と答えた者が約5割。

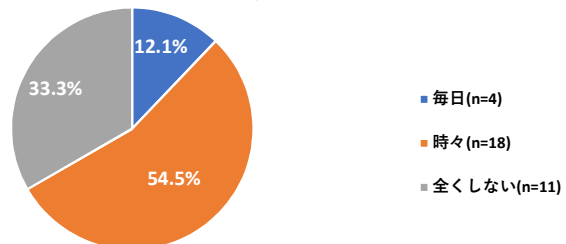
「食育」への関心



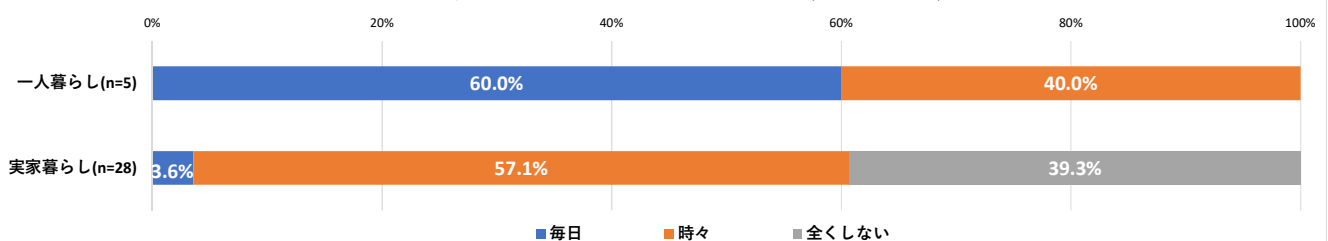
食事作り、手伝いについて

一人暮らし群では、「毎日」と回答した者が6割。
 実家暮らし群では、「時々」と回答した者が約6割、
 「全くしない」と回答した者が約4割。

食事づくり、または食事作りの手伝い頻度



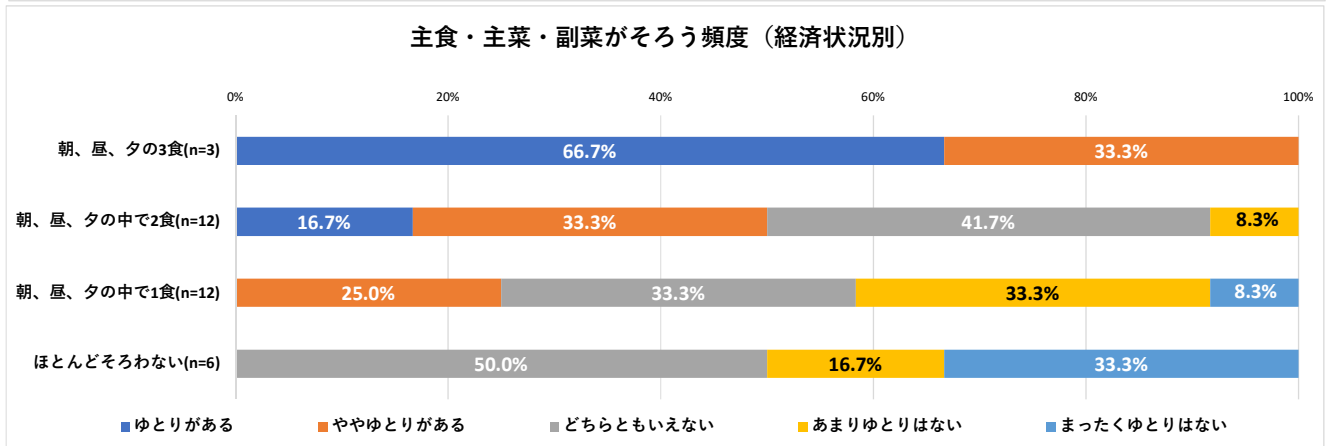
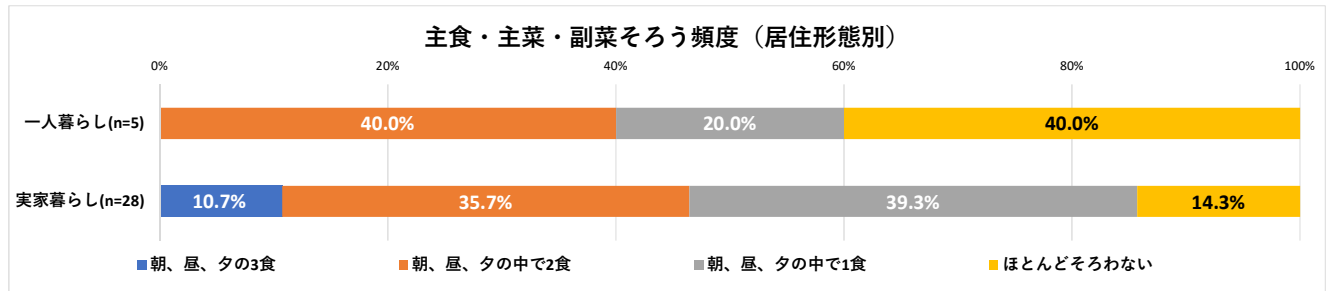
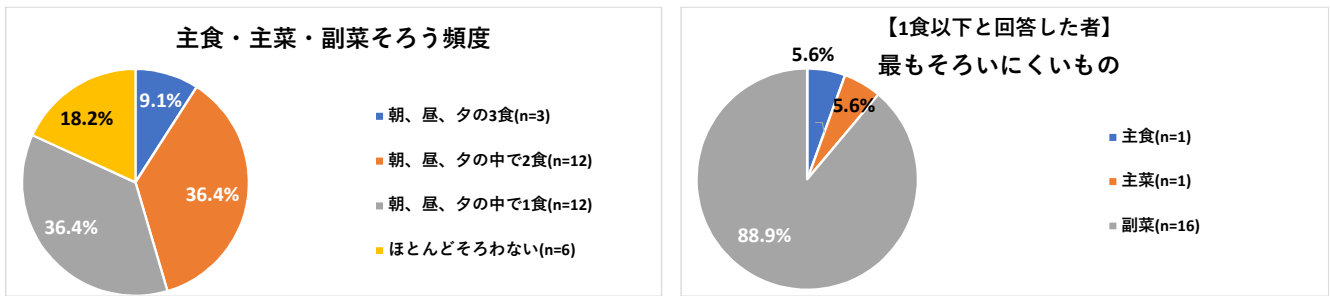
食事づくり、または食事作りの手伝い頻度（居住形態別）



主食・主菜・副菜について

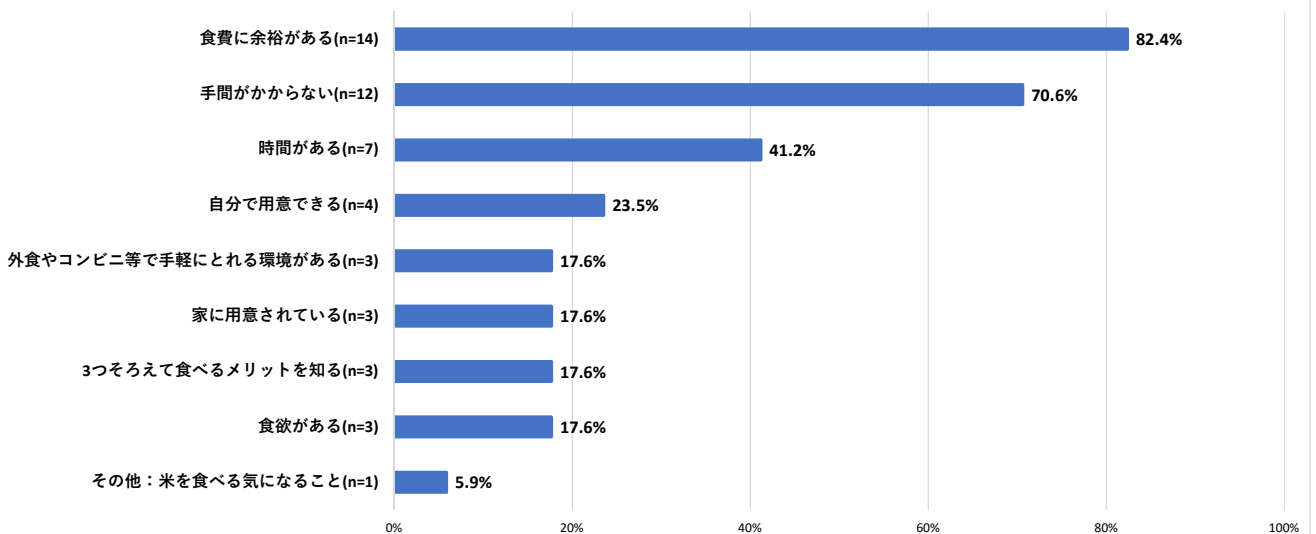
1日2食以上主食・主菜・副菜がそろう者は、一人暮らし群で4割、実家暮らし群で約5割。

主食・主菜・副菜がそろう食事が1日1食以下の者では、「副菜」が最もそろいにくいと回答した者が約9割。そろえるためには、「食費に余裕があることが必要」と思う者が約8割、「手間がかからない」と思う者が約7割。



回答人数：18

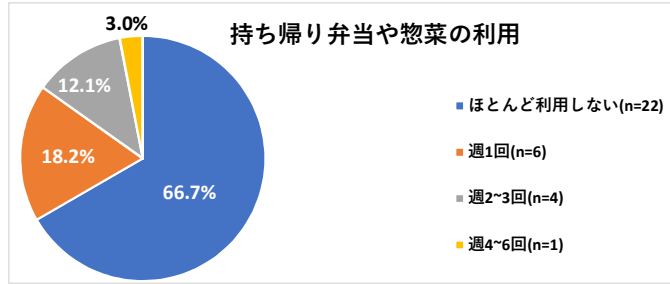
【1食以下と回答した者】そろえるために必要なこと（複数回答）



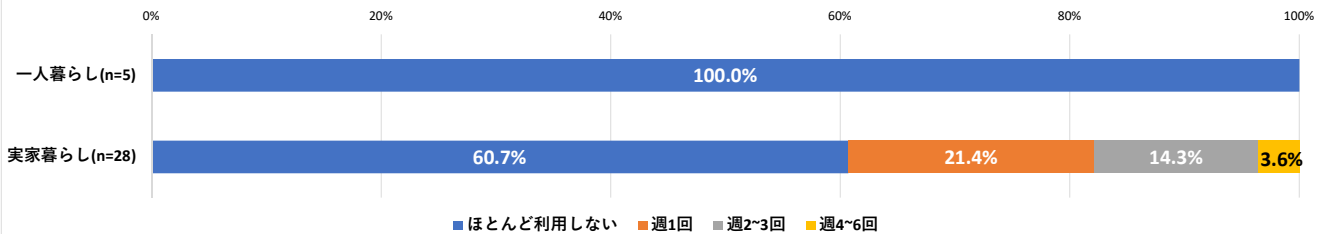
中食※の利用について

持ち帰り弁当や惣菜は「ほとんど利用しない」と回答する者が約7割。一人暮らし群では、全員がほとんど利用していないと回答した（n=5）。

実家暮らし群では、ほとんど利用しないと回答した者が約6割。※中食とは、外食と家庭での料理の中間で、惣菜や弁当などを買って帰り、家で食べることで、あるいはその食品のことをいいます。



持ち帰り弁当や惣菜の利用頻度（居住形態別）

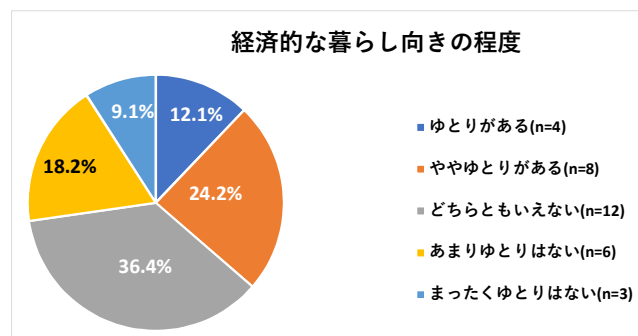


経済的な暮らし向きについて

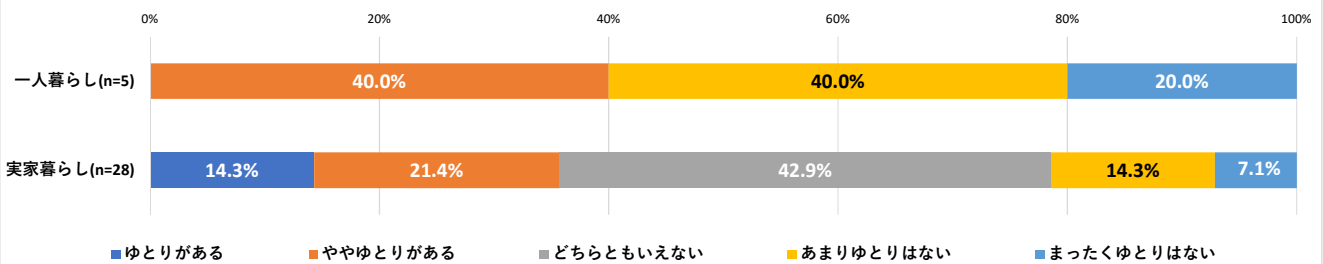
「ゆとりがある/ややゆとりがある」と回答した者は約4割、「あまりゆとりはない、まったくゆとりはない」と回答した者は約3割。

一人暮らし群では、「ゆとりがある」と回答した者はいなかった（n=5）。

実家暮らし群では、「どちらともいえない」と答えた者が約4割。



経済的な暮らし向きの程度（居住形態別）

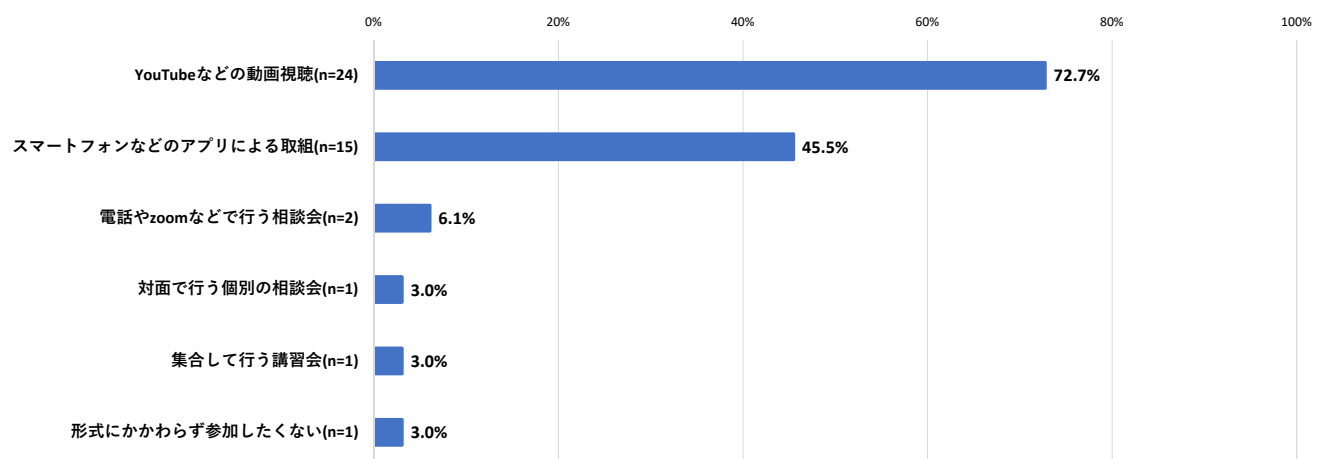


栄養教育の方法・媒体について

「YouTubeなどの動画視聴」と答えた者が約7割。「スマートフォンなどのアプリによる取組」と回答した者が約5割。

回答人数：33

食育・栄養・食生活のための教室や相談に参加可能な形式（複数回答）



(6) 計画策定・評価の協議機関

伊勢原市食育推進会議条例

(趣旨)

第1条 この条例は、食育基本法(平成17年法律第63号。以下「法」という。)第33条第2項の規定に基づき、伊勢原市食育推進会議(以下「推進会議」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 推進会議は、伊勢原市食育推進計画(法第18条第1項の規定により本市が作成する計画をいう。)の策定について審議し、及びその実施を推進する。

(組織)

第3条 推進会議は、委員17人以内をもって組織する。

2 委員は、食育に関し学識経験のある者その他市長が必要と認める者のうちから、市長が委嘱する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 推進会議に会長及び副会長各1人を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 推進会議の会議は、会長が招集し、その議長となる。ただし、会長及び副会長が選出されていないときは、市長がこれを行う。

2 推進会議の会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。

3 推進会議の会議の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(部会)

第7条 推進会議は、特定の事項及び専門的事項について調査審議させるため、部会を置くことができる。

2 部会は、会長が指名する委員をもって組織する。

3 部会に部会長を置き、会長がこれを指名する。

4 部会長に事故があるとき又は部会長が欠けたときは、会長の指名する部会の委員がその職務を代理する。

5 第5条第3項の規定は部会長の職務について、前条の規定は部会の会議について、それぞれ準用する。この場合において、第5条第3項及び前条第1項本文中「会長」とあるのは「部会長」と、第5条第3項及び前条中「推進会議」とあるのは「部会」と、同条第2項及び第3項中「委員」とあるのは「部会の委員」と読み替えるものとする。

(関係者の出席等)

第8条 会長又は部会長は、それぞれ推進会議又は部会において必要があると認めるときは、関係者の出席を求めてその意見若しくは説明を聴き、又は関係者から必要な資料の提出を求めることができる。

(庶務)

第9条 推進会議の庶務は、食育推進計画主管課において処理する。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、推進会議の運営に関し必要な事項は、会長が推進会議に諮って定める。

附 則

この条例は、令和6年4月1日から施行する。

(7) 国 第4次食育推進基本計画進捗状況

第4次食育推進基本計画における数値目標の進捗状況

○目標値と現状値を比較すると、目標を達成したものは2項目。(◎で示す)。
 ○第4次基本計画作成時の値と現状値を比較すると、改善したものは4項目(△で示す)、悪化したものは15項目(▼で示す)。

具体的な目標値	第4次基本計画作成時の値 (R2(2020)年度)					一昨年度 (R3(2021)年度)					一昨年度 (R4(2022)年度)					昨年度 (R5(2023)年度)					現状値 (R6(2024)年度)					目標値 (R7(2025)年度)					達成状況	ソース
	数値	単位	注	注	注	数値	単位	注	注	注	数値	単位	注	注	注	数値	単位	注	注	注	数値	単位	注	注	注							
① 食育に関心を持っている国民の割合	83.2%					79.6%					78.9%					78.1%					80.8%					90%以上	▼	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
② 朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数	週9.6回					週9.2回					週9.6回					週9.0回					週8.9回					週11回以上	▼※	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
③ 地域等で共食したいと思う人が共食する割合	70.7%					42.7%					57.8%					62.8%					64.6%					75%以上	▼	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
④ 朝食を欠食する子供の割合	4.6%					5.1%					5.6%					6.1%					6.3%					0%	▼	「全国学カ・学習状況調査」(文部科学省)				
⑤ 朝食を欠食する若い世代の割合	21.5%					26.5%					26.7%					28.3%					29.6%					15%以下	▼	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑥ 栄養教諭による地場産物に係る食に関する指導の平均取組回数	9.9回 (R2年度)					9.0回 (R3年度)					10.5回 (R4年度)					12.4回 (R5年度)					-					90%以上	◎	※R2(2020)年度は、栄養教諭による指導の取組回数(文部科学省)を基に算出している。R3(2021)年度は、栄養教諭による指導の取組回数(農林水産省)を基に算出している。R4(2022)年度は、栄養教諭による指導の取組回数(農林水産省)を基に算出している。R5(2023)年度は、栄養教諭による指導の取組回数(農林水産省)を基に算出している。R6(2024)年度は、栄養教諭による指導の取組回数(農林水産省)を基に算出している。				
⑦ 学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を 県別値(令和元年度)から維持・向上した都道府県の割合	68.1%					74.5%					78.7%					86.0%					-					90%以上	-	※R2(2020)年度は、学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R3(2021)年度は、学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R4(2022)年度は、学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R5(2023)年度は、学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R6(2024)年度は、学校給食における地場産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。				
⑧ 学校給食における園産産物を使用する割合(金額ベース)を 現状値(令和元年度)から維持・向上した都道府県の割合	—					74.5%					78.7%					86.0%					-					90%以上	-	※R2(2020)年度は、園産産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R3(2021)年度は、園産産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R4(2022)年度は、園産産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R5(2023)年度は、園産産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。R6(2024)年度は、園産産物を使用する割合(金額ベース)を基に算出している。				
⑨ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上 摂取している国民の割合	36.4%					37.7%					40.6%					38.2%					36.8%					50%以上	△*	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑩ 主食・主菜・副菜を組み合わせた食事を1日2回以上 ほぼ毎日食べている若い世代の割合	27.4%					29.8%					28.4%					28.3%					23.3%					40%以上	▼*	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑪ 1日当たりの食塩摂取量の平均値	10.1g (R元年度)					-					9.7g (R元年度)					9.8g (R元年度)					-					8g以下	△※	国民健康・栄養調査(厚生労働省)				
⑫ 1日当たりの野菜摂取量の平均値	280.5g (R元年度)					-					270.3g (R元年度)					256.0g (R元年度)					-					350g以上	▼※	国民健康・栄養調査(厚生労働省)				
⑬ 1日当たりの果物摂取量の100未満の者の割合	61.6%					-					-					-					-					30%以下	-	国民健康・栄養調査(厚生労働省)				
⑭ 生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の 維持や減塩等に取り組んだ食生活を奨励する国民の割合	64.3%					64.1%					66.5%					63.1%					63.7%					75%以上	▼*	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑮ ゆづりよく噛んで食べる国民の割合	47.3%					47.9%					46.8%					47.9%					47.7%					55%以上	△*	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑯ 食育の推進に関わるボランティア団体等において 活動している国民の人数	36.2万人 (R元年度)					34.3万人 (R2年度)					33.1万人 (R3年度)					32.3万人 (R4年度)					-					37万人以上	▼※	農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課調べ				
⑰ 農林漁業体験を経験した国民(世帯)の割合	65.7%					61.3%					62.4%					63.2%					57.0%					70%以上	▼	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑱ 産地や生産者を意識して農林水産物・食品を遊ぶ国民の割合	73.5%					74.8%					69.8%					67.4%					67.5%					80%以上	▼	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑲ 環境に配慮した農林水産物・食品を遊ぶ国民の割合	67.1%					69.3%					61.7%					60.2%					61.3%					75%以上	▼	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
⑳ 食品ロス削減のために何らかの行動をしている国民の割合	76.5% (R元年度)					78.3% (R3年度)					76.9% (R4年度)					76.7% (R5年度)					74.3% (R6年度)					80%以上	▼*	※R2(2020)年度は、食品ロス削減に関する意識調査(消費者庁)を基に算出している。R3(2021)年度は、食品ロス削減に関する意識調査(消費者庁)を基に算出している。R4(2022)年度は、食品ロス削減に関する意識調査(消費者庁)を基に算出している。R5(2023)年度は、食品ロス削減に関する意識調査(消費者庁)を基に算出している。R6(2024)年度は、食品ロス削減に関する意識調査(消費者庁)を基に算出している。				
㉑ 地域や家庭で受け継がれてきた伝統的な料理や作法等を継承し、 広めている国民の割合	50.4%					43.9%					44.0%					44.7%					44.8%					55%以上	▼	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
㉒ 郷土料理や伝統料理を月1回以上食べている国民の割合	44.6%					61.7%					63.1%					54.5%					56.1%					50%以上	◎	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
㉓ 食品の安全性について基礎的な知識を持ち、自ら判断する国民の割合	75.2%					77.4%					77.5%					76.4%					74.8%					80%以上	▼*	「食育に関する意識調査」(農林水産省)				
㉔ 推進計画を作成・実施している市町村の割合	87.5% (R元年度)					89.6% (R3年度)					90.5% (R4年度)					90.3% (R5年度)					-					100%	△	農林水産省消費・安全局消費者行政・食育課調べ				

<単位取込> ◎:目標達成、△:目標達成、△:作成時と現状値を比較して改善、▼:作成時と現状値を比較して悪化、*:有意な変化なし、※:有意な変化の方向は統計的な検定の信頼性がない可能性あり

「第4次伊勢原市食育推進計画中間評価報告書」

制作年月 令和8年3月

発行 伊勢原市

編集 伊勢原市保健福祉部健康づくり課

協力 神奈川県立保健福祉大学保健福祉学部栄養学科

栄養ケア・マネジメント研究室

〒259-1188 神奈川県伊勢原市田中348番地

電話:0463-94-4609(直) FAX:0463-93-8389

E-mail:kenkou@isehara-city.jp



「伊勢原市食育のページ」